

令和 7 ・ 8 年度 安乗人形芝居舞台改修工事

図 面 目 録											
建 築 工 事						設 備 工 事					
図面番号	工事範囲	図 面 内 容	図面番号	工事範囲	図 面 内 容	図面番号	工事範囲	図 面 内 容	図面番号	工事範囲	図 面 内 容
A001	建築工事図	特記仕様書：共通事項・仮設工事	A021	建築工事図	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 天井伏図	S001	建築工事図	構造特記№.1	E001	電気設備工事	電気設備工事 特記仕様書
A002	〃	改修特記仕様書№.1	A022	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 建具符号図	S002	〃	構造特記№.2	E002	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 電気設備 平面図
A003	〃	改修特記仕様書№.2	A023	〃	撤去建具表№.1	S003	〃	木造耐震補強特記仕様書	E003	〃	照明器具姿図
A004	〃	改修特記仕様書№.3	A024	〃	撤去建具表№.2、改修建具表、既修建具表	S004	〃	鉄筋コンクリート構造配筋標準図№.1			
A005	〃	改修特記仕様書№.4	A025	〃	新設建具表	S005	〃	鉄筋コンクリート構造配筋標準図№.2			
A006	〃	改修特記仕様書№.5	A026	〃	各部詳細図№.1	S006	〃	鉄筋コンクリート構造配筋標準図№.3			
A007	〃	改修特記仕様書№.6	A027	〃	各部詳細図№.2	S007	〃	鉄筋コンクリート構造配筋標準図№.4			
A008	〃	改修特記仕様書№.7	A028	〃	各部詳細図№.3	S008	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 基礎伏図	M001	機械設備工事	機械設備工事 特記仕様書 1
A009	〃	外部仕上表、内部仕上表	A029	〃	仮設計画図（参考図）	S009	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 床伏図	M002	〃	機械設備工事 特記仕様書 2
A010	〃	配置図、敷地案内図、建物求積図・求積表	A030	〃	概略工事工程表（参考）	S010	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 柱伏図	M003	〃	空調設備 平面図
A011	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 平面図				S011	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 梁伏図			
A012	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 屋根伏図				S012	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 小屋伏図			
A013	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 西面立面図、東面立面図				S013	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 軸組図№.1			
A014	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 南面立面図、北面立面図				S014	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 軸組図№.2			
A015	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 断面図				S015	〃	<div>改修前</div> 軸組図№.3			
A016	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 矩計図				S016	〃	<div>改修前</div> 軸組図№.4			
A017	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 展開図№.1				S017	〃	<div>改修前</div> 軸組図№.5			
A018	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 展開図№.2				S018	〃	<div>改修前</div> 軸組図№.6			
A019	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 展開図№.3				S019	〃	<div>改修後</div> 詳細図			
A020	〃	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 展開図№.4									

[illegible]

3 防水改修工事	6 改質アスファルトシート防水	[3. 4. 2、3]					③ 防水改修工事	8 塗膜防水					④ 外壁改修工事（共通事項）	1 施工数量調査					[1. 5. 2、3]					3 浮き部改修工法	[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 4. 10～16]																		
		防水層の種類						[3. 6. 2、3]						調査範囲 ・外壁改修範囲　・図示の範囲 調査内容 ひび割れの幅及び長さを調査する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては、浮き部分、欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を調査する。 塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を調査する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。 既存部分の破壊を行った場合の補修方法　・図示　・ 調査報告書の部数　・2部　・						2 ポリマーセメントモルタル					性能　工事建築材料等品質性能表による					[4. 2. 2]						[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 3. 4、5]							
		改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書表3. 4. 1から表3. 4. 3による ・粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書表3. 4. 1から表3. 4. 3による ・部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書表3. 4. 1から表3. 4. 3による ・屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 種類　※改質アスファルトシートの製造所の指定 ・設置数量　※改質アスファルトシートの製造所の指定 ・個 ・屋根露出防水絶縁断熱工法の防湿用シート（　・設置する　・設置しない　） 押え金物の材質、形状及び寸法 ※アルミニウム製　L＝30×15×2. 0 (mm)程度　・						[3. 1. 4][3. 7. 2、3、7、8]						4-1 1 ひび割れ部改修工法					[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 3. 4、5]						4-3-3 1 ひび割れ部改修工法																		
		工法						工法						2 欠損部改修工法					[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 3. 7]						2 欠損部改修工法																		
7 合成高分子シート防水 ルーフィング	改質アスファルトシート防水	[3. 5. 2～4][表3. 5. 1～3]					⑩ とい	[3. 8. 2、3]					4-2 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	1 ひび割れ部改修工法					[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 4. 5、6]					4-3 外壁改修工事（タイル張り仕上げ外壁改修）	[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 5. 7、8]																		
		防水層の種類						[3. 9. 2、3]						2 欠損部改修工法					[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 4. 9]						[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 4. 9]																		
		改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書表3. 5. 1から表3. 5. 3による ・粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書表3. 5. 1から表3. 5. 3による ・部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書表3. 5. 1から表3. 5. 3による ・屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 種類　※改質アスファルトシートの製造所の指定 ・設置数量　※改質アスファルトシートの製造所の指定 ・個 ・屋根露出防水絶縁断熱工法の防湿用シート（　・設置する　・設置しない　） 押え金物の材質、形状及び寸法 ※アルミニウム製　L＝30×15×2. 0 (mm)程度　・						[3. 9. 2、3]							2 欠損部改修工法					[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 4. 9]						[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 4. 9]																	
		工法						工法						2 欠損部改修工法					[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 4. 9]						[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 4. 9]																		
防水改修工事	改質アスファルトシート防水	[3. 4. 2、3]					③ 防水改修工事	8 塗膜防水					④ 外壁改修工事（共通事項）	1 施工数量調査					[1. 5. 2、3]																								

特 記 事 項		<div><div><div><div><div></div></div><div>株式 会社</div></div><div><div>前野建築設計</div></div></div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div>	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号	代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐佑	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早紀	設計担当	設計担当	法適合確認	作図  検図 	工事名称 令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事	設計日 R07/03/19
										図面名称 縮 尺 A2: NS A3: NS	図面番号 A003	
											改修特記仕様書No. 2	

3

浮き部改修工法

[4. 1. 4][4. 2. 2][4. 5. 9～15]

4-4

外壁改修工事（塗り仕上げ外壁改修）

既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整

⑤

①改修工法

工法の種類

アンカーピンの本数
（本/m²）

注入口の箇所数
（箇所/m²）

注入力
（mL/箇所）

一般部指定部一般部指定部

一部部一部部一部部一部部

※16※20※12※20※25

・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法

・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法

・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法

・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法

・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法

・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法

・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法

・タイル部分張替え工法

・タイル張替え工法

アンカーピンの材質

・ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの

・注入口付アンカーピンの材質

・ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径6mm程度

・タイル部分張替え工法接着剤の種類

・ポリマーセメントモルタル

・JIS A 5557に基づくー液反応硬化形成シリコーン樹脂系

・タイル張替え工法張替え用材料

・接着剤 JIS A 5557に基づくー液反応硬化形成シリコーン樹脂系

・張付けモルタル（ ・現場調合材料 ・既調合モルタル ）

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置

※改修標準仕様書 表4. 5. 1による

タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着力試験

・行う ・行わない

・セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り

下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理

・タイル張りの工法

・外装タイル（ ・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り ）

・ユニットタイル（ ・マスク張り ・モザイクタイル張り ）

シーリング 改修特記仕様書 3章 防水改修工事による

有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張りモルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理

・シーリングの種類

打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系 ・伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコーン系 ・シーリングのその他事項は、改修特記仕様書 3章 防水改修工事による

4

目地改修工法

[4. 1. 4][4. 5. 16]

目地ひび割れ部改修工法

伸縮調整目地改修工法

伸縮調整目地の位置及び寸法

・図示 ・

シーリングは、改修特記仕様書 3章 防水改修工事による

5

タイルの形状、寸法等

[4. 2. 2]

施工箇所

形状寸法
（mm）

再生材料の適用

吸水率に
よる区分

I類II類III類無ゆう

うわぐすり役物有無標準注有無耐凍害性耐滑り性備考

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

試験張り ・行う ・行かない

見本焼き ・行う ・行かない

1

既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整

[4. 6. 3]

⑥

④改修工法

工 法

処 理 範 囲

下地面の補修

・サンダー工法

・高圧水洗工法

・塗装はく離剥工法

・水洗い工法

※既存仕上がり面全体 ・図示

※既存仕上がり面全体 ・図示

※既存仕上がり面全体 ・図示

※サンダー工法、高圧水洗工法、塗装はく離剥工法の処理範囲以外の既存仕上面全面 ・図示

・凹凸状 （ ・吹付け ・こて塗り ）

・着色骨材砂壁状 （ ・吹付け ・こて塗り ）

吸放湿性 ・適用する

・吹出し ・凸凹処理 ・平たん状

・凹凸状 ・ひき起こし ・掻き落とし

上塗材 ・適用する ・適用しない

吸放湿性 ・適用する

・復層仕上塗材

・可とう形復層塗材 C E

・復層塗材 S i

・上塗材

・復層塗材 R E

・防水形復層塗材 C E

・防水形復層塗材 E

・防水形復層塗材 R E

・防水形復層塗材 R S

・可とう形改修用

・可とう形改修仕上塗材

・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状

耐候性 ※耐候形 3種 ・

上塗材

溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系

樹脂 ※アクリル系 ・

外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック

※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外 ・新規仕上塗材の種類

種 類

呼び名

防火材料

仕上げる形状及び工法等

・薄付け仕上塗材

・外装薄塗材 S i

・可とう形外装薄塗材 S i

・外装薄塗材 E

・可とう形外装薄塗材 E

・防水形外装薄塗材 E

・外装薄塗材 S

・厚付け仕上塗材

・外装厚塗材 C

・外装厚塗材 S i

・外装厚塗材 E

・復層仕上塗材

・復層塗材 C E

・可とう形復層塗材 C E

・復層塗材 S i

・上塗材

・復層塗材 R E

・防水形復層塗材 C E

・防水形復層塗材 E

・防水形復層塗材 R E

・防水形復層塗材 R S

・可とう形改修用

・可とう形改修仕上塗材

・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状

耐候性 ※耐候形 3種 ・

上塗材

溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系

樹脂 ※アクリル系 ・

外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック

3

下地調整塗材

[4. 1. 5][4. 2. 2][4. 6. 5][表4. 2. 4]

4

仕上塗材仕上げ

[4. 1. 5][4. 2. 2][4. 6. 5][表4. 2. 4]

5

マステック塗材塗り

[4. 1. 5][4. 7. 2][表4. 7. 1]

6

外壁用塗膜防水材塗り

[4. 1. 5][4. 2. 2][4. 8. 2][表4. 2. 6]

外壁用塗膜防水塗り仕上げる形状

外壁用仕上塗材の耐候性

※JIS A 6909の耐候形 1種相当

下地運動緩衝材の適用 ・適用しない

吹付け工法の模様材の種類 ・所要量（kg/m²）

外壁用仕上塗料の種類 ・所要量（kg/m²）

コンクリート面のひび割れ部及び欠損部の処理は、改修特記仕様書 4章 外壁改修工事（コンクリート打ち直し仕上げ外壁改修）による

モルタル面のひび割れ部、欠損部及び浮き部の処理は、改修特記仕様書 4章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）による

既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、改修特記仕様書 4章 外壁改修工事（塗仕上げ外壁等改修）による

7

樹脂製建具

[5. 2. 2][5. 3. 2～5]

性能値等

外部に面する建具の種類

・A種（建具符号： ・建具表による ・ ）

・B種（建具符号： ・建具表による ・ ）

・C種（建具符号： ・建具表による ・ ）

枠の見込み寸法 ・建具表による ・

防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級（ ・T-1 ・T-2 ）

断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級（ ・H-4 ・H-5 ・H-6 ）

表面色 ※標準色 ・特注色

水切板、ぜん板 ※図示 ・

ガラス ※複層ガラス ・

8

鋼製建具

[5. 2. 2][5. 4. 2～4][表 5. 4. 2]

性能値級

簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号： ・建具表による ・ ）

・適用しない

外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4（建具符号： ・建具表による ・ ）

・S-5（建具符号： ・建具表による ・ ）

・S-6（建具符号： ・建具表による ・ ）

防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級（ ・ ）

断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級（ ・ ）

耐震ドア 面内変形追随性の等級（ ・ ）

鋼板の厚さ ※改修標準仕様書 表5. 4. 2による ・ mm

ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI ・

9

鋼製軽量建具

[5. 2. 2][5. 5. 2～4]

性能値級

簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号： ・建具表による ・ ）

防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級（ ・ ）

断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級（ ・ ）

耐震ドア 面内変形追随性の等級（ ・ ）

鋼板の種類 ・垂鉛めっき鋼板 ・ビニル被膜鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板

鋼板の厚さ ※改修標準仕様書 表5. 4. 2による ・ mm

ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI ・

召合せ、縦小口包み板の材質

※鋼板 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金の押出型材

10

ステンレス製建具

[5. 2. 2][5. 4. 2][5. 6. 2～5]

性能値級

簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号： ・建具表による ・ ）

・適用しない

外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4（建具符号： ・建具表による ・ ）

・S-5（建具符号： ・建具表による ・ ）

・S-6（建具符号： ・建具表による ・ ）

防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級（ ・ ）

断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級（ ・ ）

耐震ドア 面内変形追随性の等級（ ・ ）

ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI ・

鋼板（屋内） ※SUS430、SUS430JIL、SUS443JI、SUS304 ・

ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ

⑪

建具用金物

[5. 7. 2、3]

金物の種類及び見え掛り部の材質等

※改修標準仕様書 表5. 7. 1により適用は建具表による ・

金属製建具用丁番の数及び大きさ

※改修標準仕様書 表5. 7. 2による ・建具表による

樹脂製建具用丁番の数及び大きさ

※改修標準仕様書 表5. 7. 3による ・建具表による

握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置

○建具表による ・

錠前類 【シリン

特 記 事 項		<div><div><div><div><div><div></div></div></div><div><div><div></div></div></div></div><div><div>株式 会社</div><div>前野建築設計</div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div></div><div>一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号</div></div>	代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐佑	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早紀	設計担当	設計担当	法適合確認	<div>作図 </div> <div>検図 </div>	工事名称 令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事	設計日 R07/03/19	
										縮 尺 A2: NS A3: NS	図面番号 A004	
											図面名称 改修特記仕様書No.3	

⑤

ガラス

フロート板ガラス
品種及び厚さの呼びによる種類
※建具表による

型板ガラス
厚さによる種類
※建具表による

網入板ガラス及び線入板ガラス
網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
※建具表による

合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
※建具表による
形状による種類
・平面合わせガラス
・曲面合わせガラス
落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類
・Ⅱ－Ⅰ類
・Ⅱ－Ⅱ類
・Ⅲ類

強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称
※建具表による
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類
・Ⅲ類

熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
※建具表による
性能による種類
・Ⅰ種
・Ⅱ種

複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
※建具表による
断熱性による区分
・TⅠ
・TⅡ
・TⅢ
・TⅣ
・TⅤ
・TⅥ
日射取得性、日射遮蔽性による区分
・G
・S
乾燥気体の種類
・空気
・アルゴン

熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※建具表による
日射熱遮へい性による区分
・Ⅰ種
・Ⅱ種
・Ⅲ種
耐久性による区分（日射熱遮蔽性による区分が2種の場合）
・A類
・B類
映像調整
・行わない
・行う

倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※建具表による

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	・シーリング材 ・ガasket ・グレイジングチャンネル形	※建具の製造所の仕様による ・図示
鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材	※建具の製造所の仕様による ・図示
ステンレス製	・シーリング材	※建具の製造所の仕様による ・図示

[5.13.5]

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調	目地幅(mm)	伸縮調整	防火性能
・正方形	・125×125	80	・乳白	平積み	目地位置(mm)	※無し
	・160×160	95	・黒	※8～15	外側 ※6m以下	※有り
	・200×200	95	・黒	・15～25	※15以下	・図示
	・320×320	125	・黒		内側 ※6以上	
・長方形	・250×125	80	・黒			
	・320×160	95	・黒			

20 ガラス用フィルム

種 類	記号	性 能 等
・日射調整フィルム	・SC－1 ・SC－2	日射遮蔽性能による区分 ・A ・B ・C ・D ・E
・低放射フィルム	・LE	熱貫流率による区分 ・A ・B ・C ・D
・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・GI－1 ・GI－2	
品質 JIS A 5759による。		

⑥

改修範囲

既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲
※壁面より両側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示
既存天井の撤去に伴う取合い部の壁面の改修
※既存のまま
・図示

[6.1.3]

⑦

改修床の撤去及び下地補修

ビニルシート等の除去 ※仕上材のみ（接着剤とも）
・下地モルタルとも（・図示の範囲 ・除去範囲全て）
合成樹脂塗床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒し工法
既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外壁改修工事による。
改修後の床の清掃範囲 ※図示

[6.2.2]

⑧

既存壁の撤去及び下地補修

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修
※改修標準仕様書4.4.9によるモルタル塗り（塗り厚25mmを超える場合の処置 ※図示）

[6.3.2]

⑨

木下地等の表面仕上げ

[6.5.1]

⑩

製材

[6.5.2]

○「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
造作用針葉樹製材	シナ	4	※2級		○A種・B種		・
			※2級		※A種・B種		・

○「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
見え掛り面	杉	12	※上小節		○A種・B種		・
見え掛り面以外			※小節以上		※A種・B種		・

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
			※1等		※10%以下 ・A種・B種		・
			※1等		※10%以下 ・A種・B種		・

○「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
門	桧	60角	(造作材の場合 ※A種・B種)	○適用する ・適用しない	○A種・B種 ・	・
			(造作材の場合 ※A種・B種)	・適用する ・適用しない	※A種・B種 ・	・

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外

[6.5.2]

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹 種	寸法(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
				※1等・2等	・
				※1等・2等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹 種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：			※1等・2等	・	・
	化粧薄板： 芯材：			※1等・2等	・	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹 種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：			※1等・2等	・
	化粧薄板： 芯材：			※1等・2等	・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹 種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※15%以下	・
				※15%以下	・

⑦

造作用単板積層材

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成柱

施工箇所	樹 種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下	・
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下	・

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外

[6.6.2]

・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り(・天然木加工 ・塗装加工) ・無し()	・適用する ・適用しない	・
		・有り(・天然木加工 ・塗装加工) ・無し()	・適用する ・適用しない	・

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り(・天然木加工 ・塗装加工) ・無し()	※14%以下	・適用する ・適用しない	・
		・有り(・天然木加工 ・塗装加工) ・無し()	※14%以下	・適用する ・適用しない	・

・CLT（直交集成板）

施工箇所	品名	曲げ性能(強度等級)	種別	接着性能使用環境</
------	----	------------	----	------------

特 記 事 項		<div><div><div><div><div></div></div><div>MAENO</div></div><div>株式会社</div><div>前野建築設計</div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div></div> <div>一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号</div> <div>代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div> <div>設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作</div> <div>設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早妃</div> <div>設計担当</div> <div>設計担当</div> <div>法適合確認</div> <div><div>作図 </div><div>検図 </div></div> <div>工事名称 令和7・8年度 安乘人形芝居舞台改修工事</div> <div>縮 尺 A2: NS A3: NS</div> <div>設計日 R07/03/19</div>										
											図面名称 改修特記仕様書No. 4 <div>図面番号 A005</div>	

⑥

15 特殊機能床

・帯電防止床シート

種類（ ）
性能（ ）
厚さ（ ）mm

・帯電防止床タイル

種類（ ）
性能（ ）
寸法（ × ）mm 厚さ（ ）mm

・視覚障害者用床タイル

視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による

種類（ ）
形状（ ）

・耐動荷重性床シート

種類（ ）
厚さ（ ）mm

・防滑性床シート

種類（ ）
厚さ（ ）mm

・防滑性床タイル

種類（ ）
寸法（ × ）mm 厚さ（ ）mm

材質の種類 ・軟質 ・硬質
高さ(mm) ※60 ・75 ・100
厚さ(mm) ※1.5以上 ・

種類 ・単層品 ・積層品
色柄（ ）
厚さ(mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0
寸法(mm)（ ）

・カーペット敷き

・織じゅうたん

織り方		バイル形状	
・ウィルトンカーペット		・カットバイル	
・ダブルフェースカーペット		・ループバイル	
・アキスミンスターカーペット		・カット/ループバイル	

色柄（ ・ ）※模様のない無地）
バイル系の種類等
※無地の織りじゅうたんの種別（ ・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ）
・
帯電性 ・適用する ・適用しない
織じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 ・
下敷き材 ※反毛フェルト（JIS L 3204）の第２種２号 呼び厚さ8mm
・

・タフテッドカーペット

バイル形状	バイル長さ（mm）	工 法	帯電性
・カットバイル	・5～7 ・	・全面接着工法	・適用する
・ループバイル	・4～6 ・	・グリップバー工法	・適用しない
・カット、ループ併用	・		

下敷き材（グリップバー工法の場合）
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第２種２号 呼び厚さ 8mm ・

・ニードルパンチカーペット

厚さ（mm）（ ）
帯電性 ・適用する ・適用しない

・タイルカーペット

バイルの形状	種 類	施工箇所	寸 法	総厚さ（mm）
※ループバイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※ 6.5 ・
・カットバイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※ 6.5 ・
・カット・ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※ 6.5 ・

タイルカーペットの敷き方
平場 ※市松敷き ・模様流し ・
階段部分 ※模様流し ・市松敷き ・
見切り、押え金物（ ）
材質（ ）
種類（ ）
形状等 ※図示 ・

16 ビニル幅木

[6. 8. 2]

17 ゴム床タイル

[6. 8. 2]

18 カーペット敷き

[6. 9. 2、3] [表 6. 9. 1]

内装改修工事

⑥

20 フローリング張り

・単層フローリング（フローリングボード１等）

工法 ・釘留め工法（ ・根太張り ・直張り ）
・接着工法
樹種 ※なら ・
間伐材等の適用 ・適用する ・適用しない

・単層フローリング（フローリングブロック１等）

樹種 ・
厚さ ・
大きさ ・
間伐材等の適用 ・適用する ・適用しない

○複合フローリング

工法 ○釘留め工法（ ・根太張り ・直張り ）
・接着工法
樹種 ※なら ・
種別 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
間伐材等の適用 ・適用する ・適用しない

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
接着工法の場合の裏面緩衝材 ※合成樹脂発泡シート
・現場塗装仕上げ
※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地そのままワックス塗り

種別 ・Ａ種 ・Ｂ種 ○Ｃ種 ・Ｄ種（畳床： ・KT-I ・KT-II ・KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N ）
下地の種類 ・標準仕様書 表12. 6. 1による床組
○ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン ）

畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない
か、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない
か、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

合板類、MDF及びパーティクルボード、接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・

・木質系セメント板 種類・厚さ（ ※図示 ・ ）
・繊維板 種類・厚さ（ ※図示 ・ ）
・パーティクルボード 種類・厚さ（ ※図示 ・ ）
・吸音材料 種類・厚さ（ ※図示 ・ ）
・せっこうボード 種類・厚さ（ ※図示 ・ ）

○普通合板

表板の樹種名 ○シナ
板面の品質 ・
厚さ ※図示 ・
接着の程度 ○1 類 ・2 類
防虫処理 ・行う ・行わない

・天然木化粧合板
化粧板の樹種名 ・
厚さ ※図示 ・
接着の程度 ・1 類 ・2 類
防虫処理 ・行う ・行わない

・特殊加工化粧合板
化粧加工の方法（ ・オーバーレイ ・プリント ・塗装 ・ ）
表面性能 ・
厚さ ※図示 ・
接着の程度 ・1 類 ・2 類
防虫処理 ・行う ・行わない

せっこうボード等の下地 ※図示
遮音シール材 ・適用する（ ・シーリング材 ・ジョイントコンパウンド ）
・適用しない

合板類の張付け ※Ｂ種 ・Ａ種
せっこうボードの目地工法 ・仕上表による ・

23 壁紙張り

[6. 14. 2～3]

24 天井見切り縁

25 モルタル塗り

[6. 15. 3、5、6]

内装改修工事

⑦

26 タイル張り

伸縮調整目地の位置 床タイル（ ※縦、横とも4m以内ごと ・図示 ）
床タイル以外（ ・図示 ・ ）
伸縮調整目地のシーリング材、目地寸法は改修特記仕様書第３章による

・セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法（mm）	再生材料の適用	吸水率による区分			うわぐすり		役物	色		耐凍害性	耐滑り性	備考
			I 類	Ⅱ 類	Ⅲ 類	施す	無ゆ		標準	特注	有	無	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない

既製調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
品質・性能 建築材料等品質性能表による
試験方法 建築材料等品質性能表による

・既製調合目地材
品質・性能 建築材料等品質性能表による
試験方法 建築材料等品質性能表による

・有機系接着剤による質タイル（セラミックタイル）張り
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法（mm）	再生材料の適用	吸水率による区分			うわぐすり		役物	色		耐凍害性	耐滑り性	備考
			I 類	Ⅱ 類	Ⅲ 類	施す	無ゆ		標準	特注	有	無	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない

内装タイル接着剤張りに使用する有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・

種類及び品質 ・せっこう系 ・セメント系
標準塗厚（mm） ・

27 セルフレベリング材塗り

[6. 17. 2、3]

内装改修工事

⑦

① 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・
・防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・次の箇所を除き防火材料とする（箇所： ）

特 記 事 項		<div><div><div><div><div><div></div></div></div><div><div><div></div></div></div><div><div><div></div></div></div></div><div>株式 会社</div><div>前野建築設計</div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div></div>	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号	代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早紀	設計担当	設計担当	法適合確認	<div><div>作図 <div><div>加藤 早紀</div></div></div><div>検図 <div><div>前野 将輝</div></div></div></div>	工事名称 令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事	設計日 R07/03/19	
											縮 尺 A2: NS A3: NS	図面番号 A006	
												図面名称 改修特記仕様書No. 5	

8

耐震改修工事

11 仮組

仮組を行う範囲
・ 図示による（ ）
・ [8. 13. 10]

12 溶接技能者の技量付加試験

試験の要領
・ 図示による（ ）
・ [8. 15. 3]

13 溶接接合

開先の形状
・ 図示による（ ）
・ エンドタブの切断する部分
切断する箇所
・ 図示による（ ）
・ 切断範囲
・
・ エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する
切断面の仕上げ
・ 改修標準仕様書8. 15. 7(1) (h) (b)②による
・ スクラップの形状
・ 図示による（ ）
・ [8. 15. 4. 7]

14 入熱、バス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件
・ 図示による（ ）
適用箇所
・ 図示による（ ）
・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部

15 溶接部の試験

平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等
・ 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3. 5. 2 受入検査による
・ 抜き取り検査① ※抜き取り検査②
JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準] の付表3「溶接」に関する試験方法等
・ JASS 6 10. 4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。
ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7. 6. 13による補修を行い、再試験する。
完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
・ 工場溶接の場合
※全数
・ 工事現場溶接の場合
※全数
[8. 15. 12]

16 錆止め塗装

塗料の種類
・ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料の種類
・
塗料の範囲
耐火被覆材の接着する面の塗装範囲
・ 図示による（ ）
耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲
・ 図示による（ ）
塗料の種類
・ 鉄鋼面の錆止め塗料の種類
屋外
・ A種
屋内
・ A種
・ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料の種類
・
塗料種類
・ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類
※A種
・ 耐火被覆材が接着する面の塗料の種類
・
[7. 3. 3] [8. 17. 2, 4]

17 耐火被覆

種類、材料、工法等
[8. 18. 2～8]

種類	材料・工法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)
・ 耐火材 吹付け	・ 乾式吹付けロックウール ・ 半乾式吹付けロックウール ・ 湿式ロックウール ・		
・ 耐火板 張り	・ 繊維混入けい酸カルシウム板 ・		
・ 耐火材 巻付け	・ 高耐熱ロックウール ・		
・ ラス張り モルタル塗り	・		
・ 耐火塗料			

18 アンカーボルトの設置等

構造用アンカーボルトの形状及び寸法
・ 図示による（ ）
構造用アンカーフレームの形状及び寸法
・ 図示による（ ）
建方用アンカーボルトの形状及び寸法
・ 図示による（ ）
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法
種類
・ A種
・ B種
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類
厚さ
・
種類
※A
・
[7. 10. 3]

19 鉄骨ブレース設置後の仕上げ

・ 図示による（ ）
・ [8. 22. 9]

8-4 あと施工アンカー工事

① あと施工アンカー
[8. 2. 4]
材料等
・ 金属系アンカー
・ 引張耐力
・ kN
・ 図示による（ ）
・ せん断耐力
・ kN
・ 図示による（ ）
アンカー本体の径及び埋込み長さ
・ 図示による（ ）
セット方式 ※ 本体打込み式改良型
接合筋の種類、径、長さ
・ 図示による（ ）
・ 性能確認試験
試験方法及び試験数
・ 図示による（ ）
・
② 接着系アンカー
③ 引張耐力
④ 33 kN
・ 図示による（ ）
④ せん断耐力
⑤ 23 kN
・ 図示による（ ）
アンカーの種類 ※ カプセル方式回転・打撃式
接着剤の品質
⑥ 有機系
・ 無機系
アンカー筋の径及び埋込み長さ
⑦ 図示による（ ）
アンカー筋の種類
・
アンカー筋の新設壁内への定着長さ
⑧ 図示による（ ）
・ 性能確認試験
試験方法及び試験数
・ 図示による（ ）
・
[8. 12. 4]
埋込み配管等の探索方法
・ 鉄筋探知機（金属探知機）により探索し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う
・ はつり出しによる
・
[8. 12. 7]
試験方法 ※ 引張試験機による引張試験
確認強度
・ 図示による（ ）
・
[8. 2. 12]
・ 柱底均しモルタル
※無収縮モルタル
・ グラウト材
無収縮グラウト材の材質等
混和材
セメント系（酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミニウム等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント
JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。
砂
土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。
ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。
無収縮グラウト材の品質及び試験方法
コンシステンシー
Jロートによる流下時間
練混ぜ完了から3分以内の値
： 8±2秒
ブリージング
練り混ぜ2時間後のブリージング率
： 2. 0%以下
凝結時間
凝結開始時間
： 1時間以上
終結時間
： 10時間以内
無収縮性
材齢7日
収縮しない
圧縮強度
材齢 3日 20' 0N/mm² 以上
材齢 28日 40' 0N/mm² 以上
塩化物量
0. 30kg/m³以下
試験方法
1) NEXCO試験方法 試験法312－1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の試験の場合はプレミックス形のみとする。
2) 塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。

8

耐震改修工事

8-6 連続繊維補強工事

1 連続繊維シート
[8. 2. 13] [8. 24. 6]
連続繊維の材料
・ 炭素繊維
・ アラミド繊維
引張強度（含浸硬化後）
・ () N/mm²
ヤング係数（含浸硬化後）
・ () N/mm²
・ 下地処理
・ ひび割れ部改修 [8. 24. 7]
範囲
・ 図示による（ ）
種類
・ 柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ
・ 図示による（ ）
連続繊維補強材の強度試験
・ 引張強度試験
※ JIS A 1191（コンクリート用連続繊維シートの引張試験方法）による
・
試験数量
・ 図示による（ ）
・
・ 付着強度試験
※ JIS A 6909（建築用仕上塗材）による
試験数量
・ 図示による（ ）
・
[8. 24. 7]
2 仕上げ
補強工事後の仕上げ
・ 図示による（ ）
・

8-7 耐震スリット工事

1 スリットの方式、幅及び深さ
[8. 25. 2]
方式
・ 完全
・ 部分
幅及び深さ
・ 図示による（ ）
設置箇所
・ 図示による（ ）
・
[8. 12. 4]
2 スリットの施工前の埋込み配管等の探索
既存撤去部の埋込み配管等の探索方法
・ 鉄筋探知機（金属探知機）により探索し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う
・ はつりだしによる
[8. 25. 2]
3 スリットの充填材の挿入及び周囲補修等
・ 耐火材
使用箇所及び仕様
・ 図示による（ ）
・
・ 遮音材
使用箇所及び仕様
・ 図示による（ ）
・
撤去部の補修
・
※撤去材と同一材で補修

8-8 土工事及び地業工事

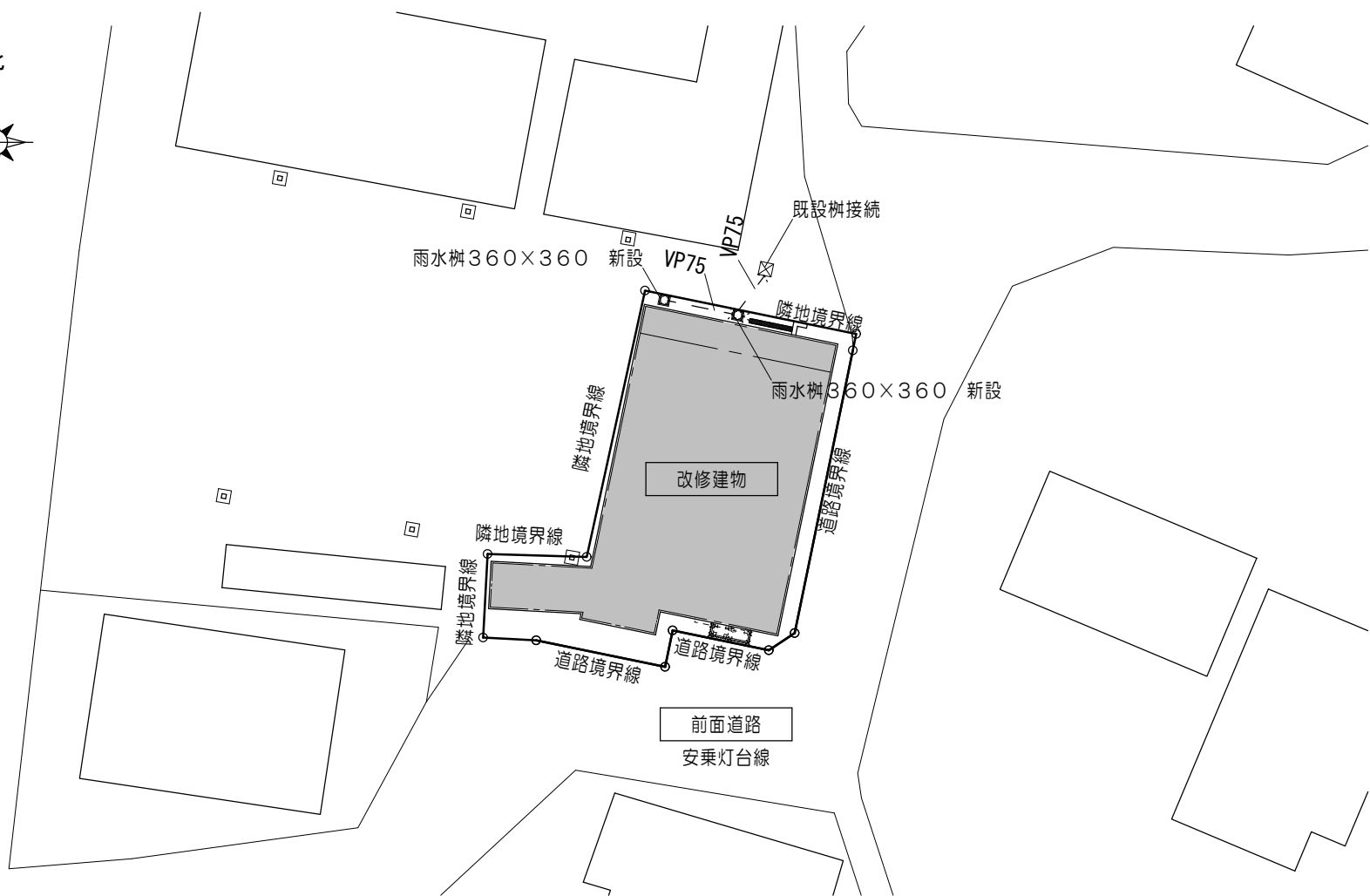
1 埋戻し及び盛土
[8. 28. 3]
埋戻し及び盛土
・ A種 適用場所（ ）
・ B種 適用場所（ ）
・ C種 適用場所（ ）土質（ ）受渡場所（ ）
・ D種 適用場所（ ）
・ 材料（ ） 工法（ ） 適用場所（ ）
[8. 28. 3]
2 山留めの撤去
鋼矢板等の抜き跡の処理 ※直ちに砂で充填する
山留めの存置
・ 行う（存置範囲 ※図示（ ））
・
[8. 2. 15] [8. 28. 4] (4. 3. 8)
3 杭地業
支持層の位置及び土質（基礎ぐいの先端位置含む）
・ 図示による（ ）
・
杭の材料、工法、寸法、施工方法等
・ 図示による（ ）
・
・ 試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法
・ 図示による（ ）
・
・ 杭の継手の箇所数、材料、工法等
・ 図示による（ ）
・
・ 杭の溶接継手
技能資格者の技量
・ 図示による（ ）
・
溶接部の確認
・ 図示による（ ）
・
・ 杭頭の処理
・ 処理しない
・ 処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・ 図示による（ ）
・
・ 杭頭の中詰め材料
・ 基礎コンクリートと同調合のもの
・
杭の精度
水平方向のずれ
・ 杭径の1/4かつ100mm以下
杭の傾斜
・ 1/100以内
記録する施工状況等
・ 図示による（ ）
・
[8. 2. 15] [8. 28. 4]
4 砂利地業
材料
・ 再生クラッシャーラン
・ 切込砂利又は切込砕石
砂利厚さ
※60mm
・
[8. 2. 15] [8. 28. 4]
5 捨コンクリート地業
捨コンクリートの厚さ
※50mm
コンクリートの種類
・ ※普通コンクリート
設計基準強度
※18 N/mm²
スランブ
※15cm又は18cm
・
[8. 2. 15] [8. 28. 4]

構造特記仕様書による

8-4 あと施工アンカー工事

① あと施工アンカー
[8. 2. 4]
材料等
・ 金属系アンカー
・ 引張耐力
・ kN
・ 図示による（ ）
・ せん断耐力
・ kN
・ 図示による（ ）
アンカー本体の径及び埋込み長さ
・ 図示による（ ）
セット方式 ※ 本体打込み式改良型
接合筋の種類、径、長さ
・ 図示による（ ）
・ 性能確認試験
試験方法及び試験数
・ 図示による（ ）
・
② 接着系アンカー
③ 引張耐力
④ 33 kN
・ 図示による（ ）
④ せん断耐力
⑤ 23 kN
・ 図示による（ ）
アンカーの種類 ※ カプセル方式回転・打撃式
接着剤の品質
⑥ 有機系
・ 無機系
アンカー筋の径及び埋込み長さ
⑦ 図示による（ ）
アンカー筋の種類
・
アンカー筋の新設壁内への定着長さ
⑧ 図示による（ ）
・ 性能確認試験
試験方法及び試験数
・ 図示による（ ）
・
[8. 12. 4]
埋込み配管等の探索方法
・ 鉄筋探知機（金属探知機）

特 記 事 項								一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号		代表設計者		設計担当		設計担当		設計担当		設計担当		法適合確認		作図  		工事名称 令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事		設計日 R07/03/19	
								株式 前野建築設計		一級建築士 第320204号 前野 将輝		一級建築士 第360917号 前田 祐作		一級建築士 第378328号 加藤 早妃								縮 尺 A2：NS A3：NS		図面番号 A008			
								管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝																			

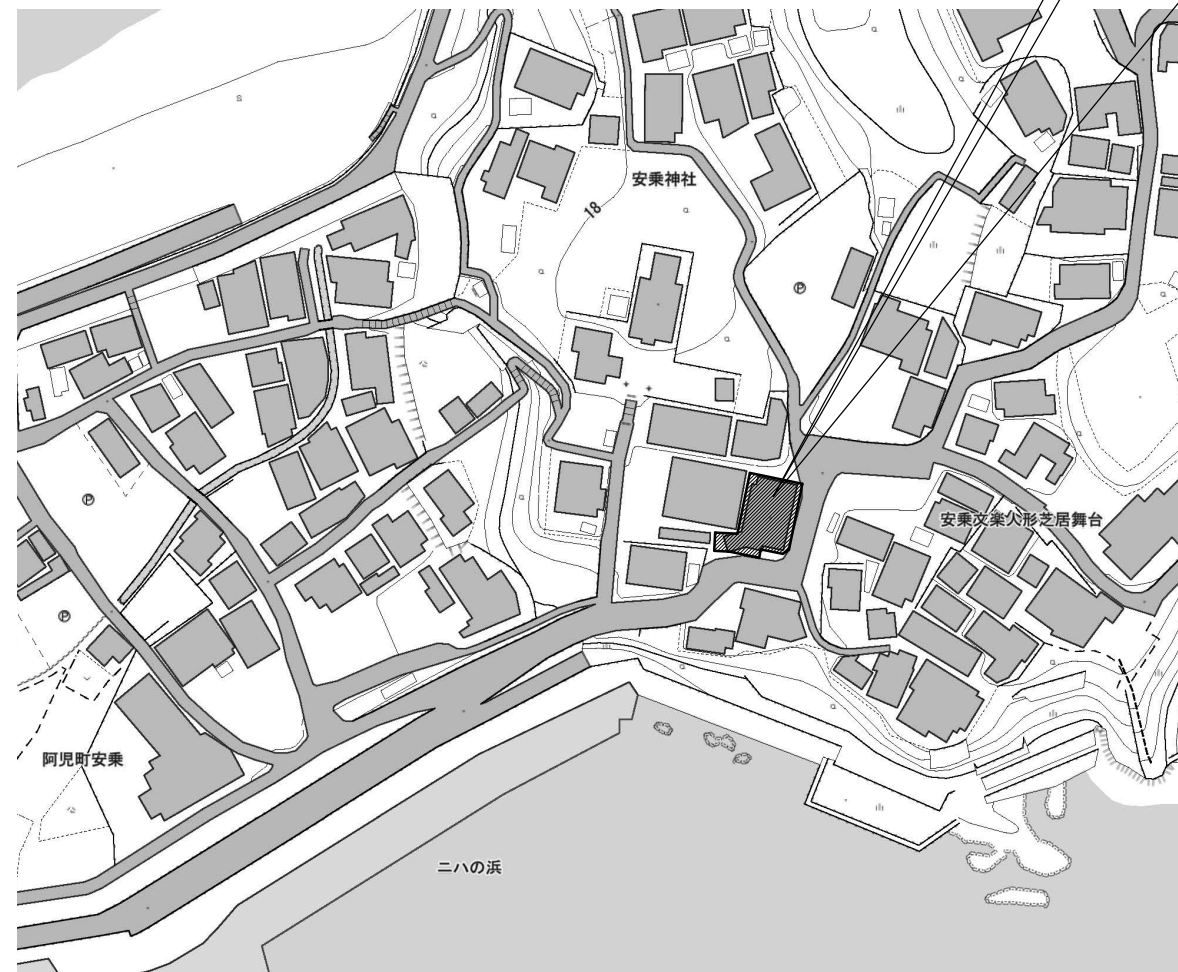


配置図

1/300

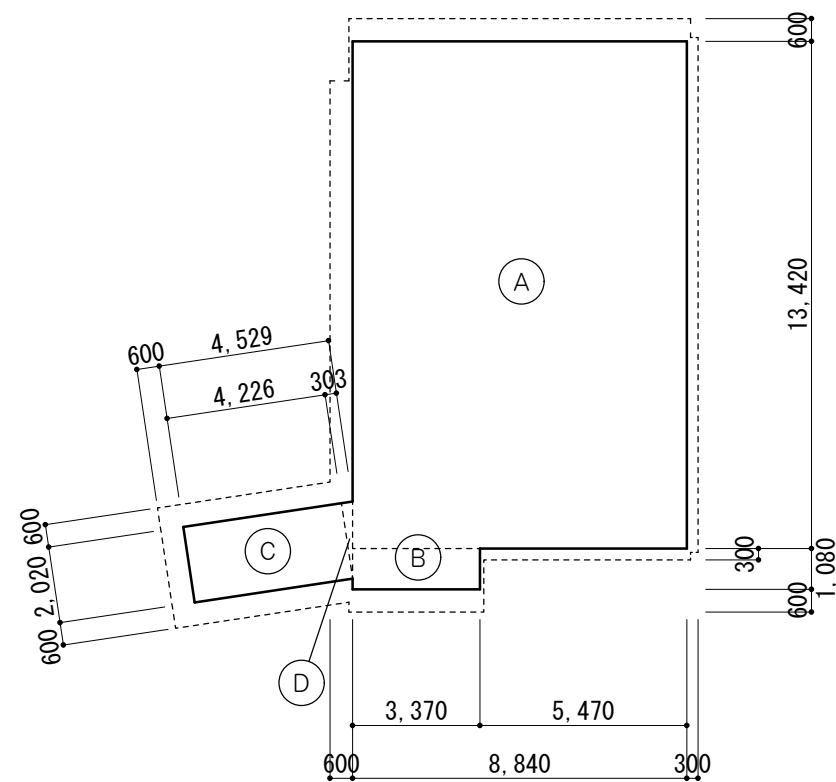
凡 例

改修建物を示す



『志摩市公開型GIS』を加工して作成

敷地案内図



建物求積図

1/200

求積計算式

①	8.840 × 13.420	= 118.63280
②	3.370 × 1.080	= 3.63960
③	4.226 × 2.020	= 8.53652
④	0.303 × 2.020 ÷ 2	= 0.30603

面積表

建築面積	① + ② + ③ + ④ = 131.11495	131.11 m ²
延床面積	① + ② + ③ + ④ = 131.11495	131.11 m ²

特
記
事
項



一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号

株式会社 前野建築設計

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者
一級建築士
第320204号
前野 将輝

設計担当
一級建築士
第360917号
前田 祐作

設計担当
一級建築士
第378328号
加藤 早妃

設計担当

設計担当

法適合確認

作図
加藤 前野

検図
前野 加藤

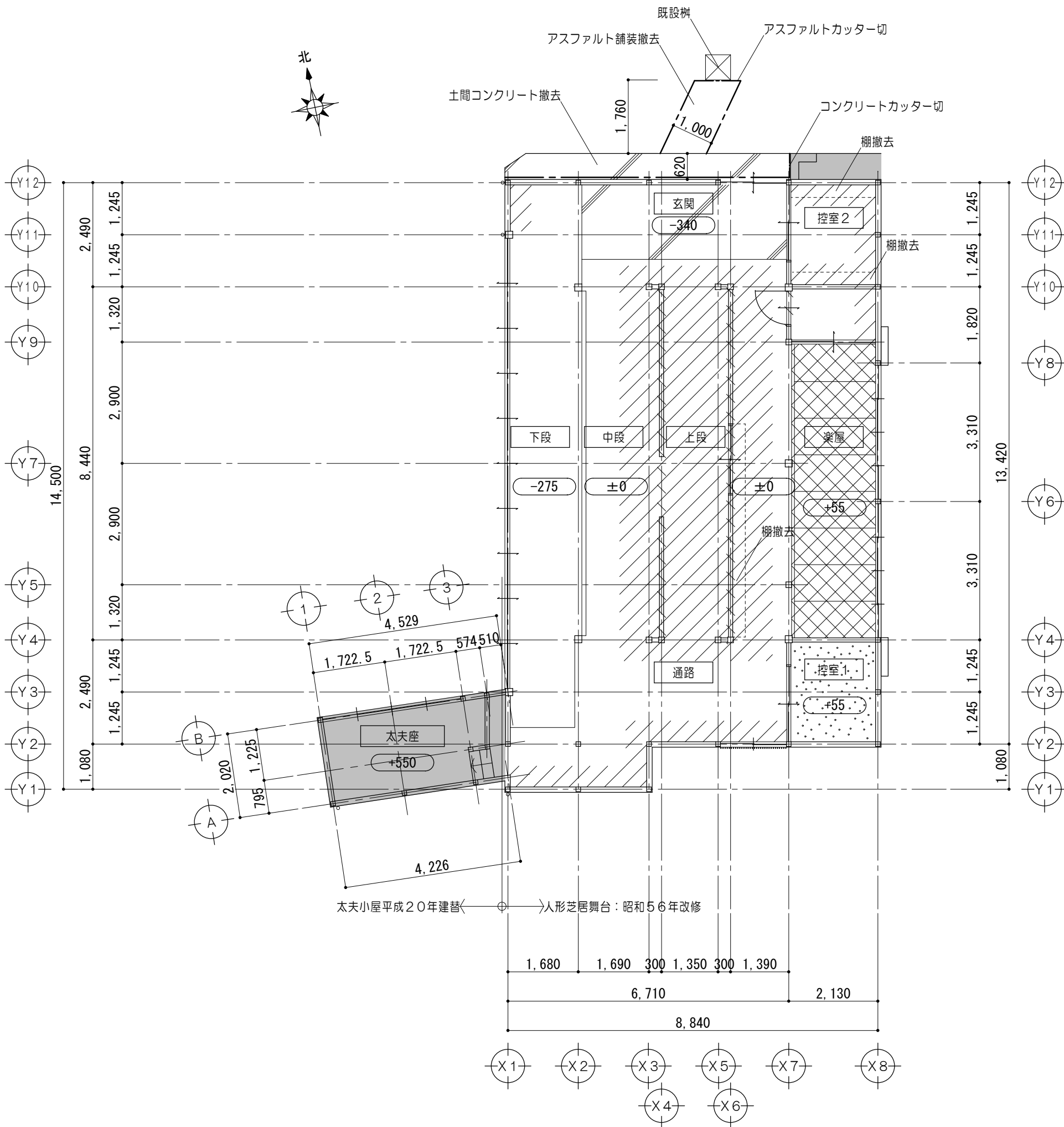
工事名称
令和7・8年度 安楽人形芝居舞台改修工事

図面名称
配置図、敷地案内図、建物求積図・求積表

縮 尺
A2:1/200,300
A3:1/282,423

設計日
R07/03/19
図面番号
A010

改修前



平面図 1/100

凡 例

<div>+12</div>	一般F.L.からの高さを示す
<div></div>	既設のままの範囲を示す
<div></div>	既設床板取外し範囲を示す 一部木組下地撤去
<div></div>	既設床仕上撤去範囲を示す
<div></div>	既設床下地、仕上撤去範囲を示す
<div></div>	壁（仕上、下地共）撤去範囲を示す



一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号
株式会社 前野建築設計
管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者
一級建築士
第320204号
前野 将輝

設計担当
一級建築士
第360917号
前田 祐作

設計担当
一級建築士
第378328号
加藤 早妃

設計担当

設計担当

法適合確認

作図
加藤 前田

検図
前野 将輝

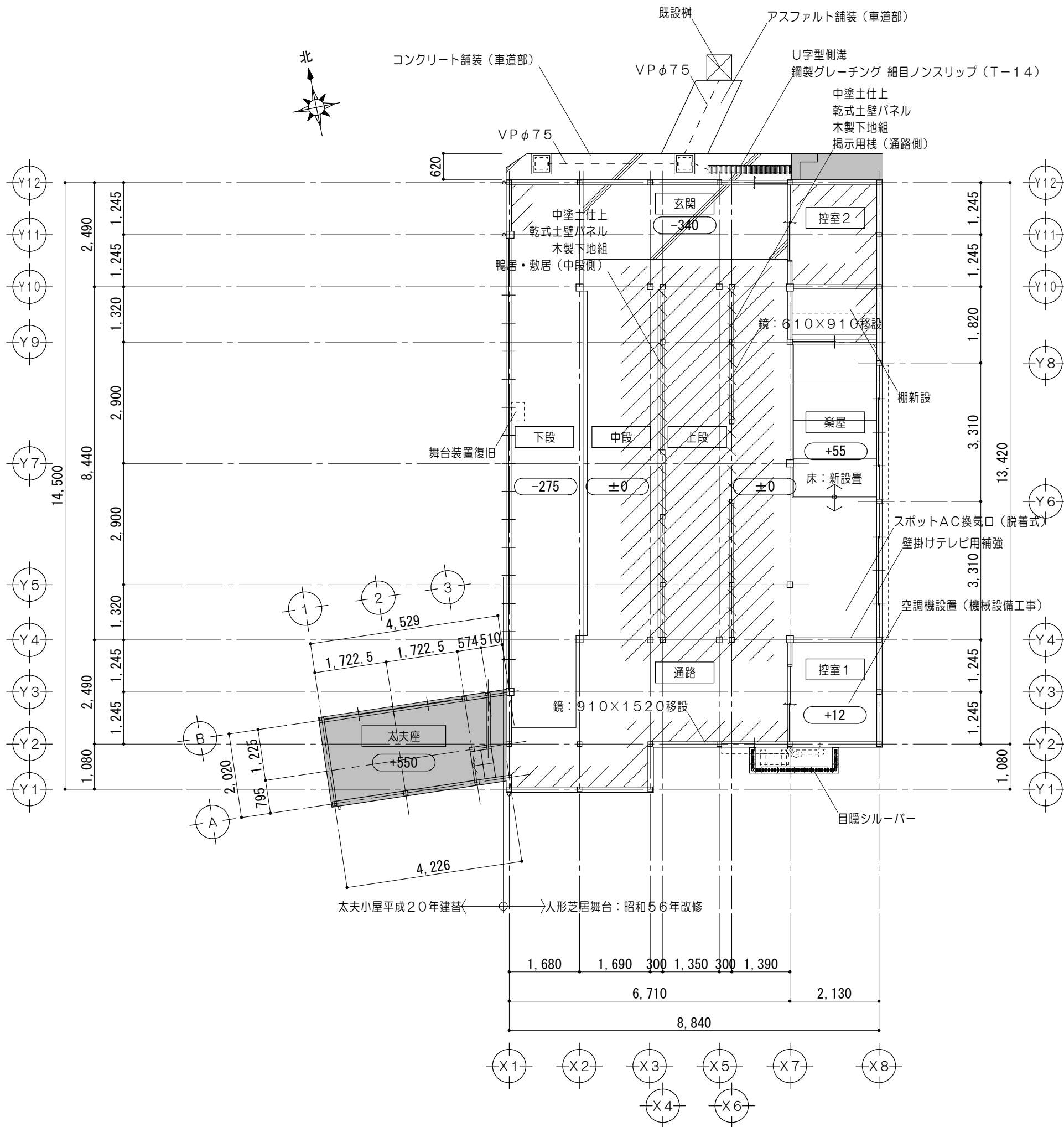
工事名称
令和7・8年度 安楽人形芝居舞台改修工事
改修前 改修後 平面図

凡 例	
<div>+12</div>	一般F.L.からの高さを示す
<div></div>	既設のままの範囲を示す
<div></div>	既設床板再取付範囲を示す 一部木組下地新設
<div></div>	壁新設範囲を示す

※スポットAC換気口（脱着式）（3か所）の位置は
監督員と協議すること（詳細は別図参照）

設計日
R07/03/19
図面番号
A011

改修後



平面図 1/100

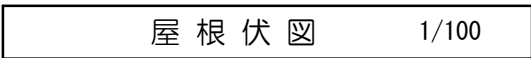
凡 例

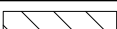
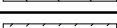
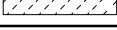
<div>+12</div>	一般F.L.からの高さを示す
<div></div>	既設のままの範囲を示す
<div></div>	既設床板再取付範囲を示す 一部木組下地新設
<div></div>	壁新設範囲を示す


※スポットAC換気口（脱着式）（3か所）の位置は
監督員と協議すること（詳細は別図参照）

設計日
R07/03/19
図面番号
A011

改修前



凡 例	
	屋根棧瓦葺・野地板 撤去範囲を示す
	屋根棧瓦葺・野地板・垂木・隅木 撤去範囲を示す
	既設のままの範囲を示す
●	既設のままを示す
※	撤去を示す


 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号
株式会社 前野建築設計
 管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者
一級建築士
第320204号
前野 将輝



設計担当
一級建築士
第360917号
前田 祐作

設計担当
一級建築士
第378328号
加藤 早妃

設計担当

設計担当

去適合確認

工事名称
令和7・8
図面名称
改修前

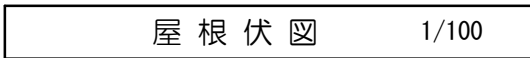
度 安乗人形芝居舞台改修工事



改修後 屋根伏図

縮尺
A2:1/100
A3:1/141

設計日	R07/03/19
図面番号	A012

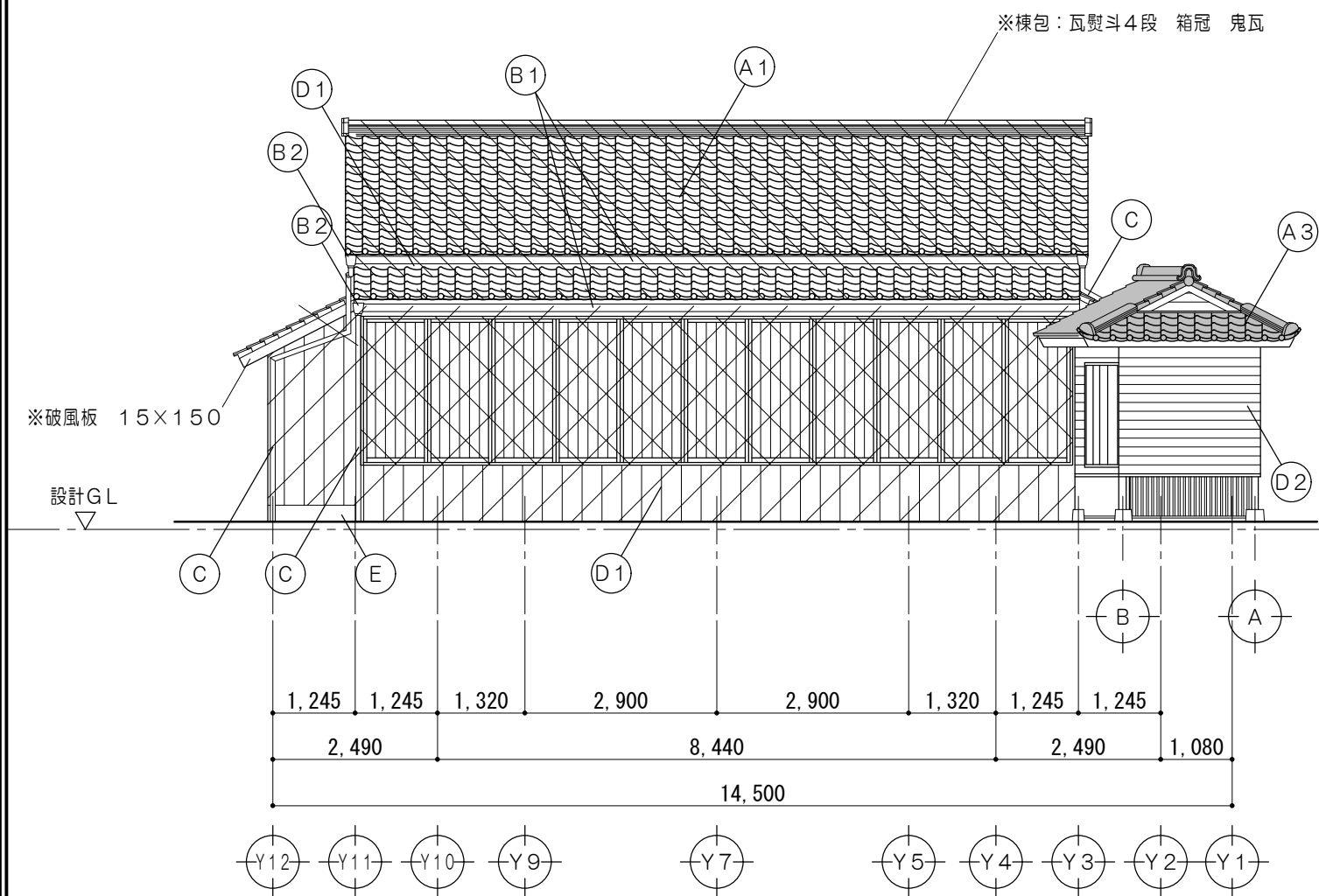
改修後



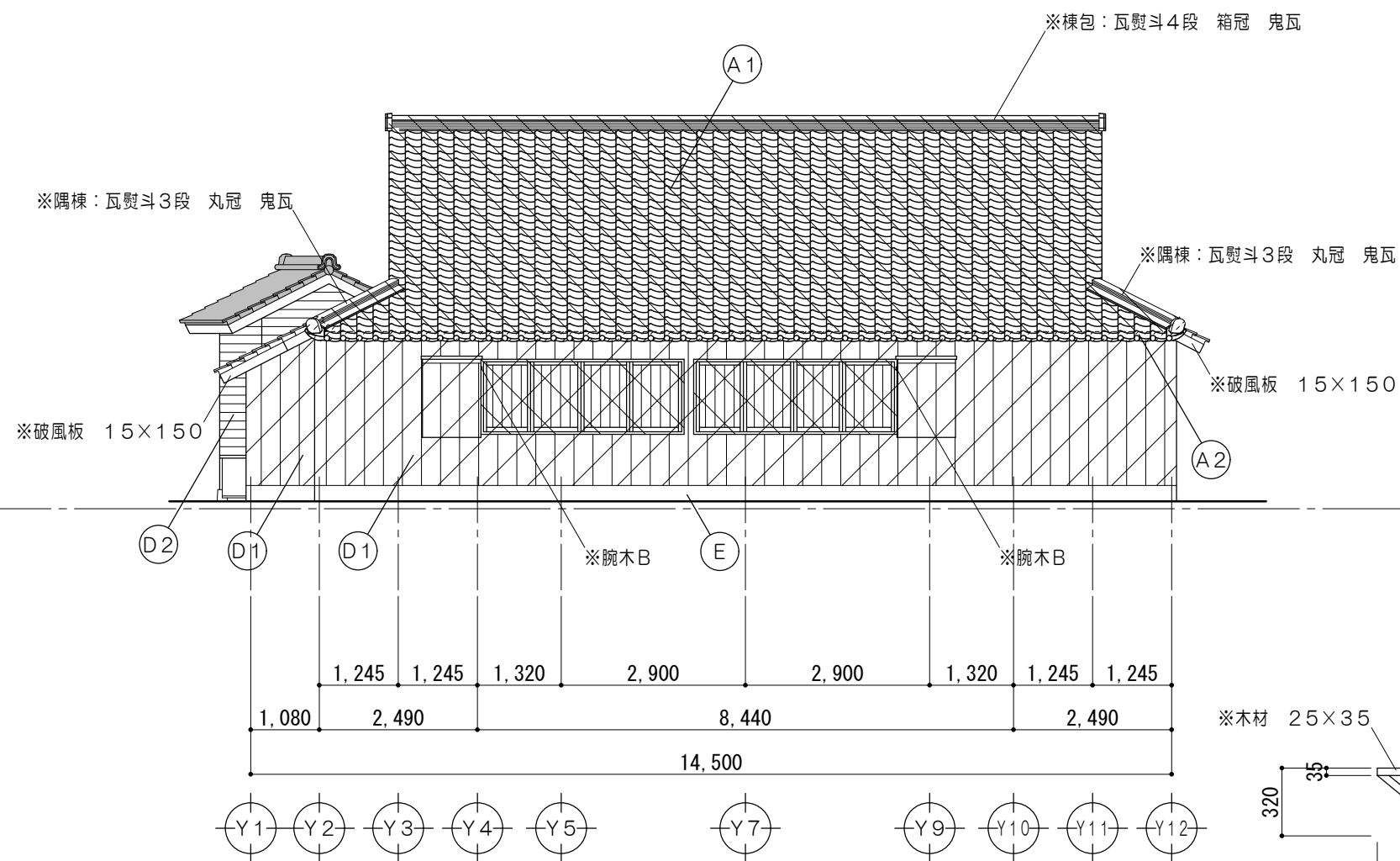
凡 例	
	屋根・地下新設範囲を示す
	既設のままの範囲を示す

縮尺
A2:1/100
A3:1/141

改修前



西面立面図 1/100

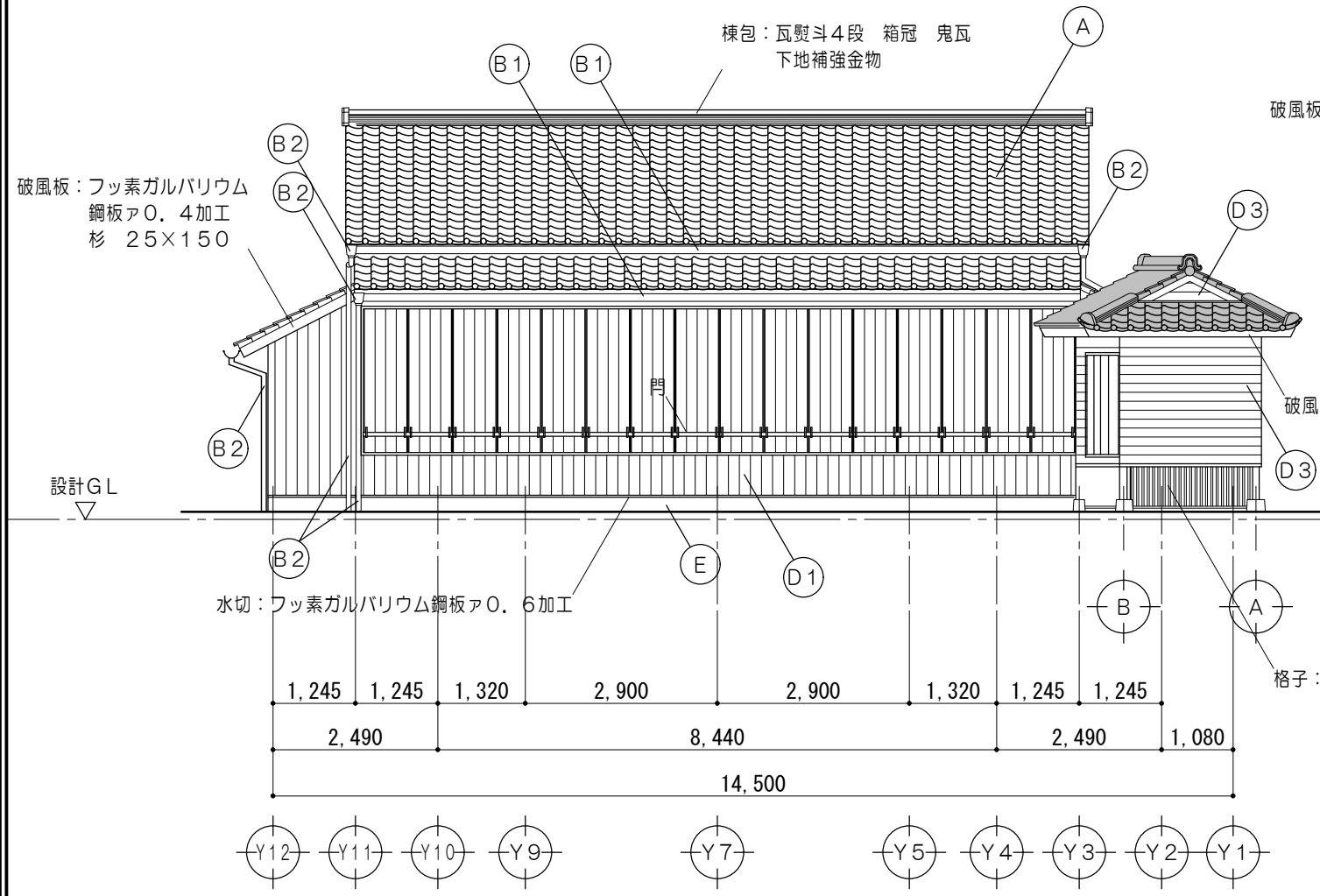


東面立面図 1/100

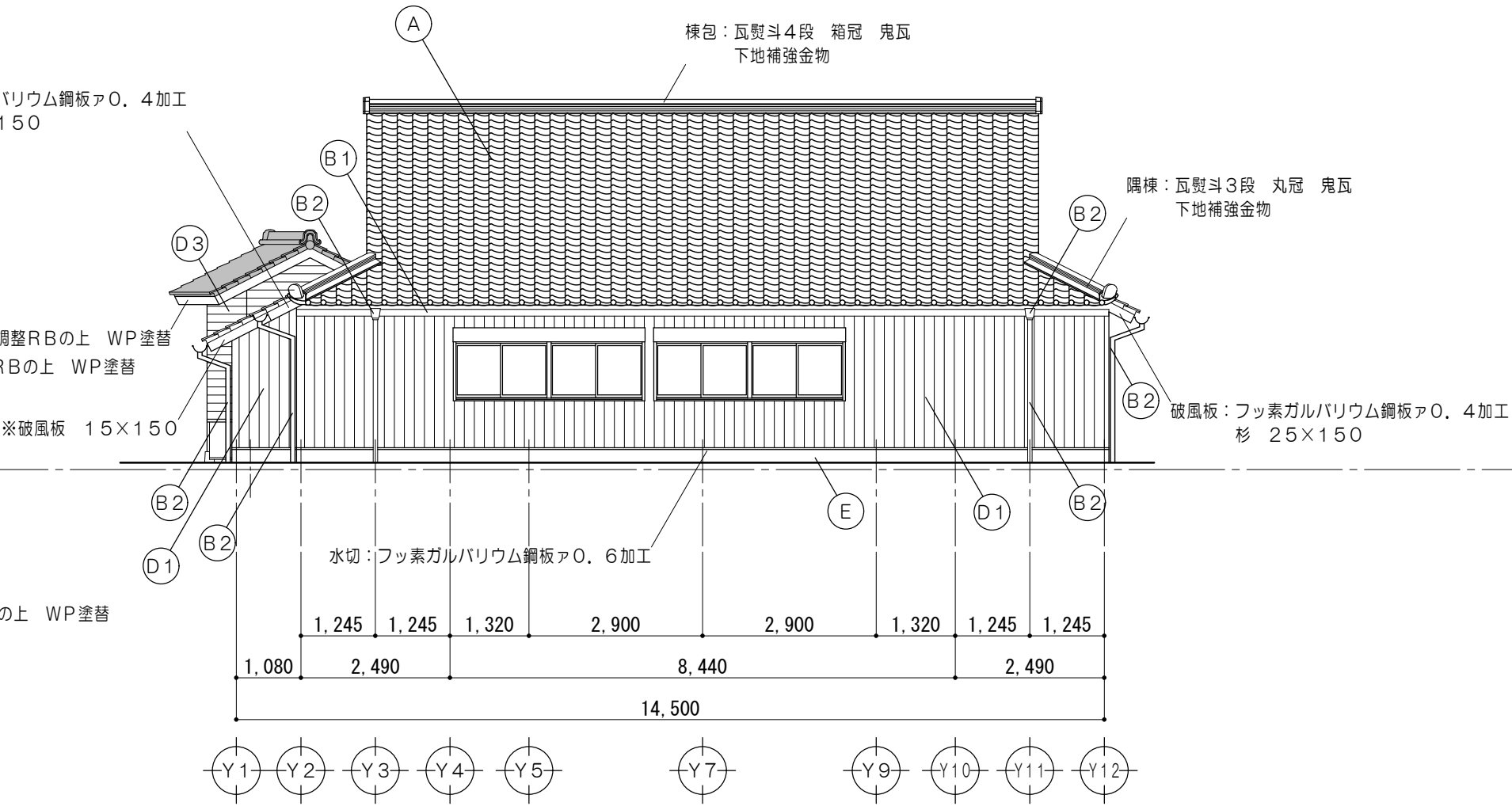
腕木B詳細図 1/30

凡 例	
(A1)	屋 根：淡路産棧瓦葺 56判 撤去 下 地：野地板張 ヤネフォーム 撤去 垂木・隅木 既設のまま 棟 包：瓦葺斗4段 箱冠 鬼瓦 撤去 隅 棟：瓦葺斗3段 丸冠 鬼瓦 撤去
(A2)	屋 根：淡路産棧瓦葺 56判 撤去 下 地：野地板張 ヤネフォーム 撤去 垂木・隅木 撤去 棟 包：瓦葺斗4段 箱冠 鬼瓦 撤去 隅 棟：瓦葺斗3段 丸冠 鬼瓦 撤去
(A3)	屋 根：三州産本瓦葺 56判 既設のまま 下 地：野地板張ア12 葺土 既設のまま 棟 包：瓦葺斗4段 丸冠 鬼瓦 既設のまま 隅 棟：瓦葺斗2段 丸冠 鬼瓦 既設のまま
(B1)	軒 樋：塩ビ製丸樋W120 撤去
(B2)	飾りじょうこ：塩ビ製 撤去
(C)	タテ樋：塩ビ製φ75 撤去
(D1)	外 壁：杉板羽目板 縦張 WP塗 撤去
(D2)	外 壁：杉板羽目板 横張 WP塗 既設のまま
(E)	根廻り：コンクリート打放仕上 既設のまま
凡 例	
	既設のままの範囲を示す
	屋根棧瓦葺・野地板 撤去範囲を示す
	屋根棧瓦葺・野地板・木組下地 撤去範囲を示す
	外壁撤去範囲を示す
	建具撤去範囲を示す
●	既設のままを示す
※	撤去を示す

改修後



西面立面図 1/100

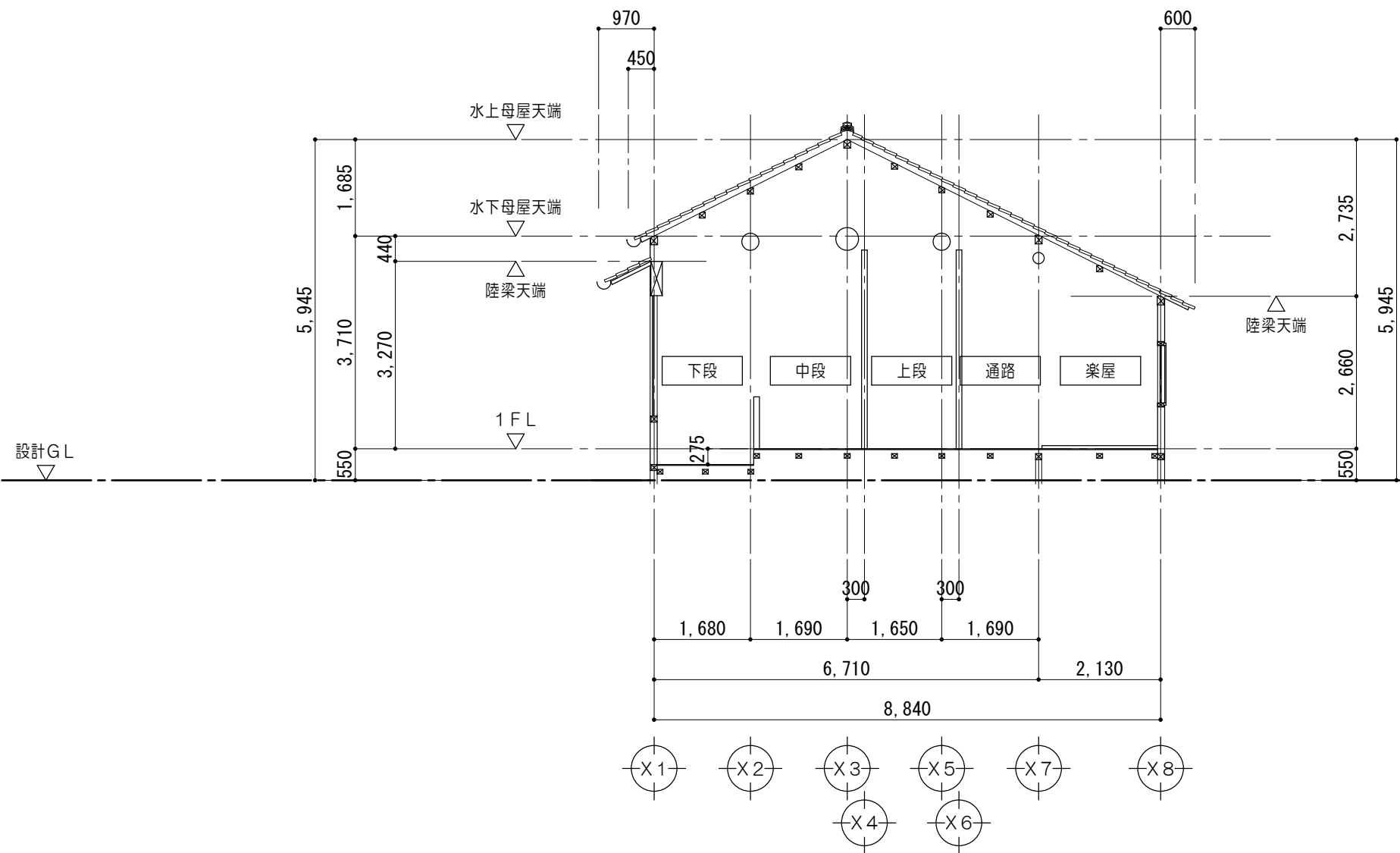


東面立面図 1/100

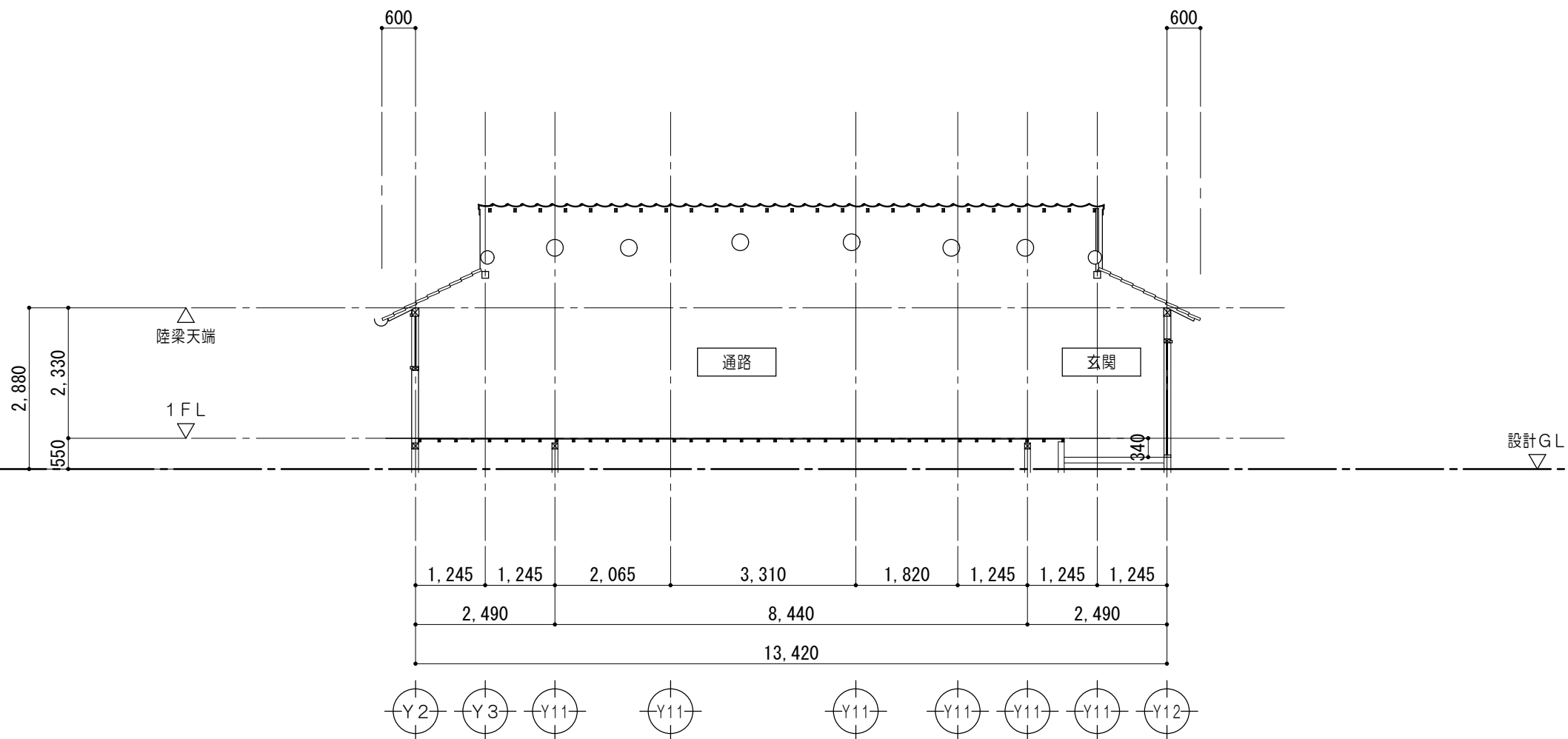
凡 例	
(A)	屋 根：棧瓦葺 56判 新設 下 地：桧木(杉)18×45(防腐処理) アスファルトルーフィング940 既設垂木の上 構造用合板ア12 棟 包：瓦葺斗4段 下地補強金物 箱冠 鬼瓦 隅 棟：瓦葺斗3段 下地補強金物 丸冠 鬼瓦 軒 樋：塩ビ製半丸樋 W120 カラー平鰓首(亜鉛メッキ鋼板)
(B1)	
(B2)	飾りじょうこ：塩ビ製
(C)	タテ樋：硬質塩化ビニル管(カラー)φ75 支持金物 ビニル製@1000内外
(D1)	外 壁：杉板羽目板ア12 縦張 WP塗
(D2)	外 壁：フッ素ガルバリウム鋼板アO、4 縦張
(D3)	外 壁：下地調整RB種の上 WP塗替 既設杉板羽目板
(E)	根廻り：水洗い
凡 例	
	既設のままを示す
●	既設のままを示す

特 記 事 項	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号						代表設計者		設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	作図	工事名称	設計日
	株式会社 前野建築設計						一級建築士		一級建築士	一級建築士	一級建築士			加藤 新司	令和7・8年度 安楽人形芝居舞台改修工事	R07/03/19
	管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝						前野 将輝		前田 祐作	加藤 早妃				検図	改修前 改修後 西面立面図、東面立面図	図面番号
															縮 尺 A2:1/100 A3:1/141	A013

改修前

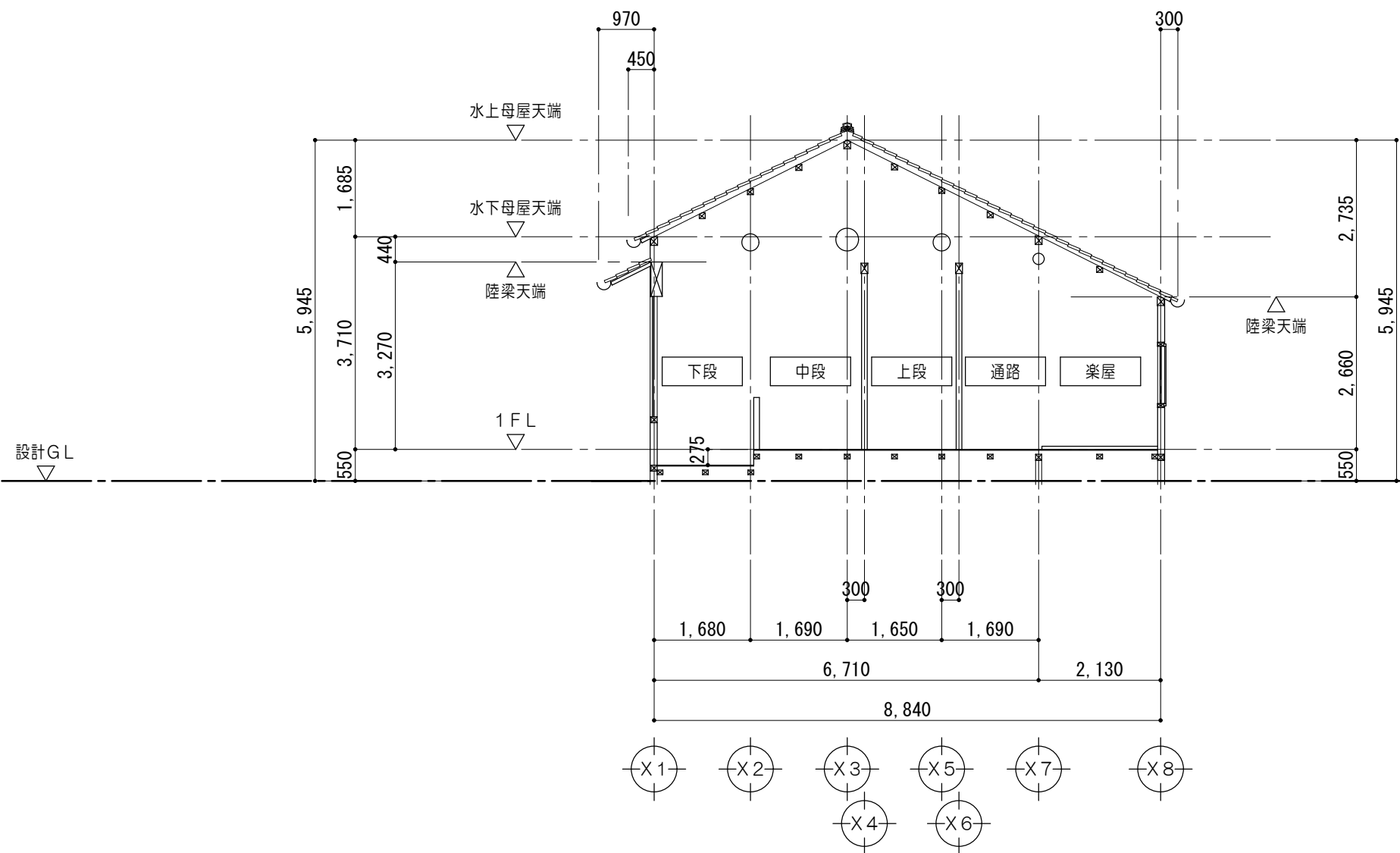


断面図 No. 1 1/100

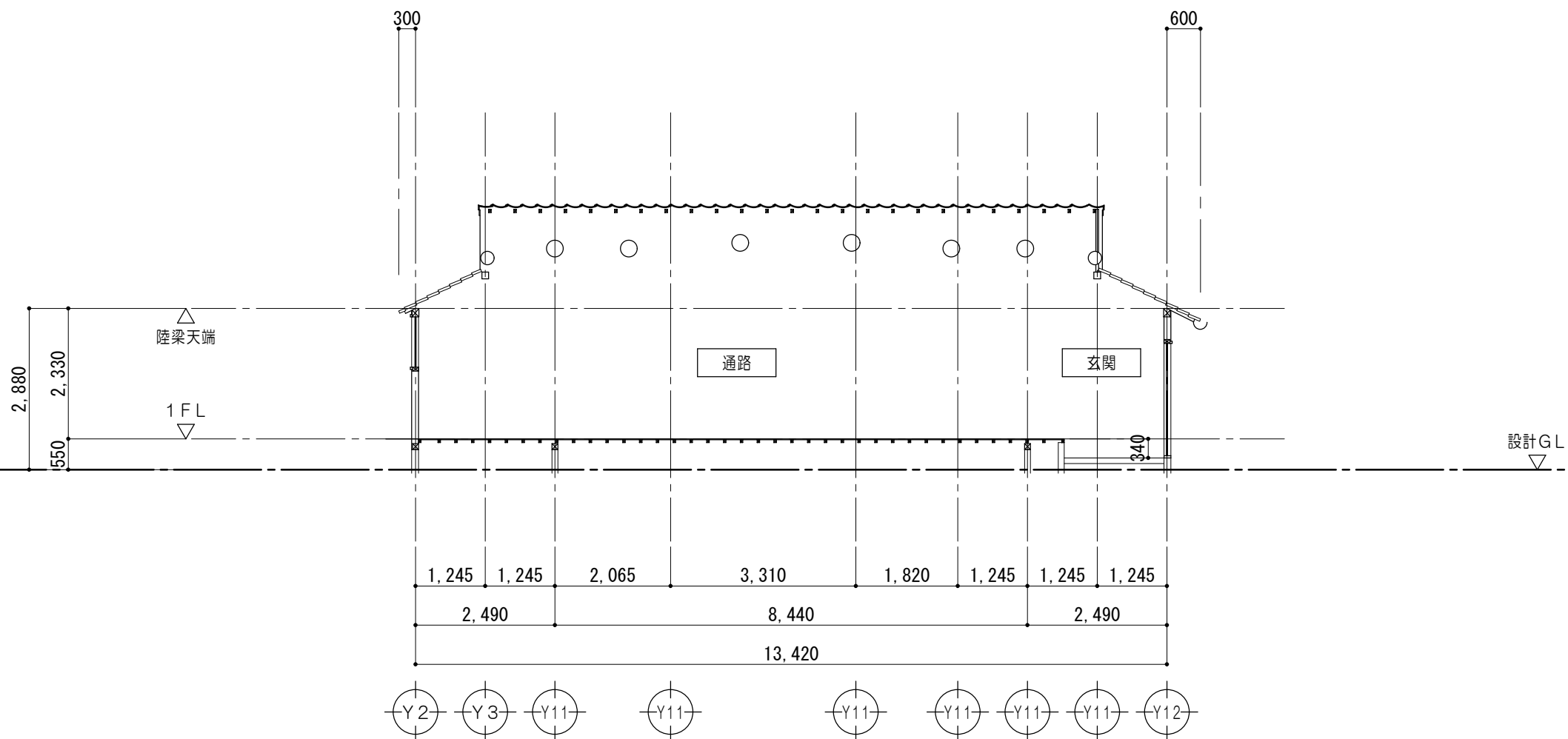


断面図 No. 2 1/100

改修後



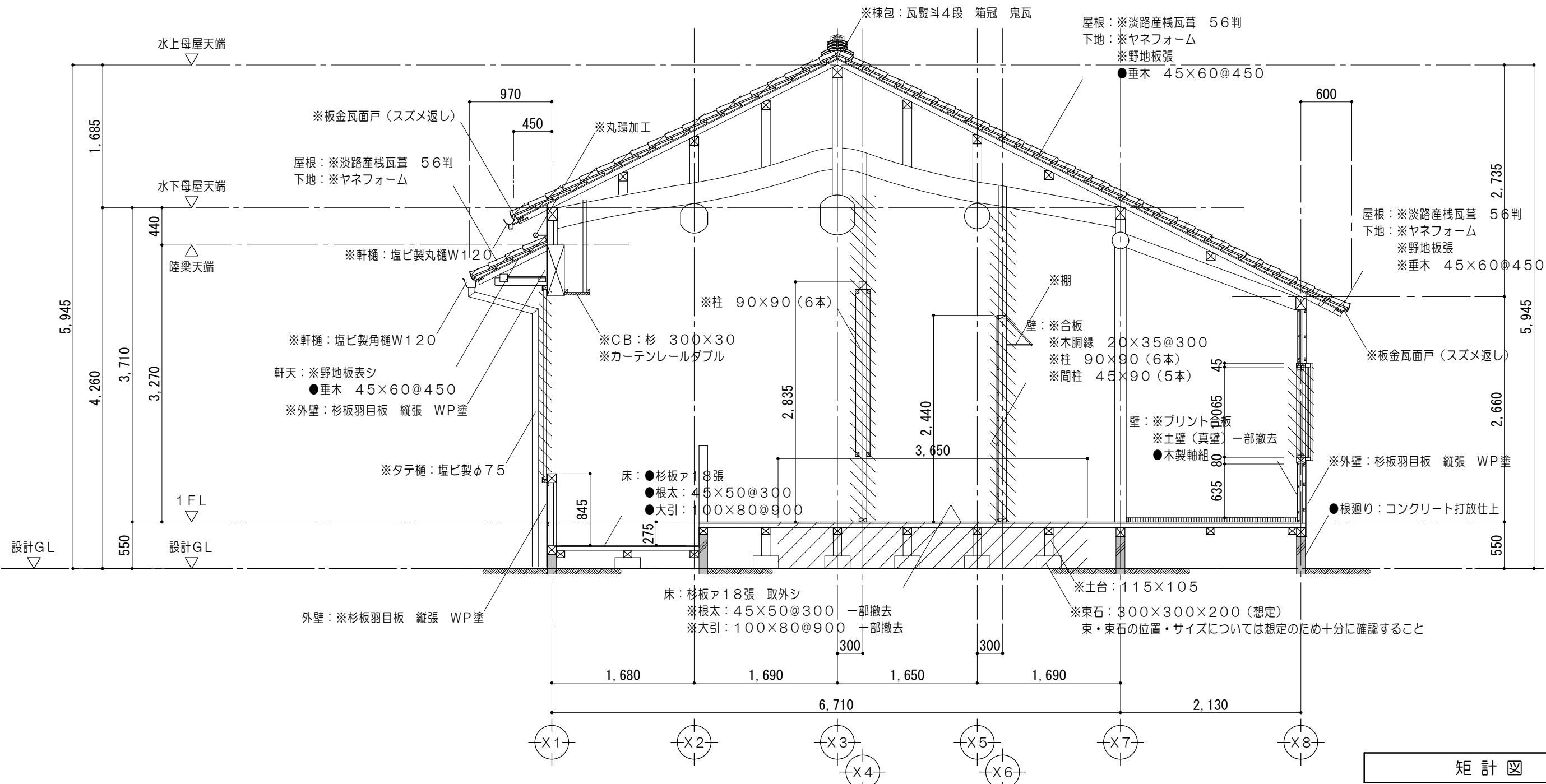
断面図 No. 1 1/100



断面図 No. 2 1/100

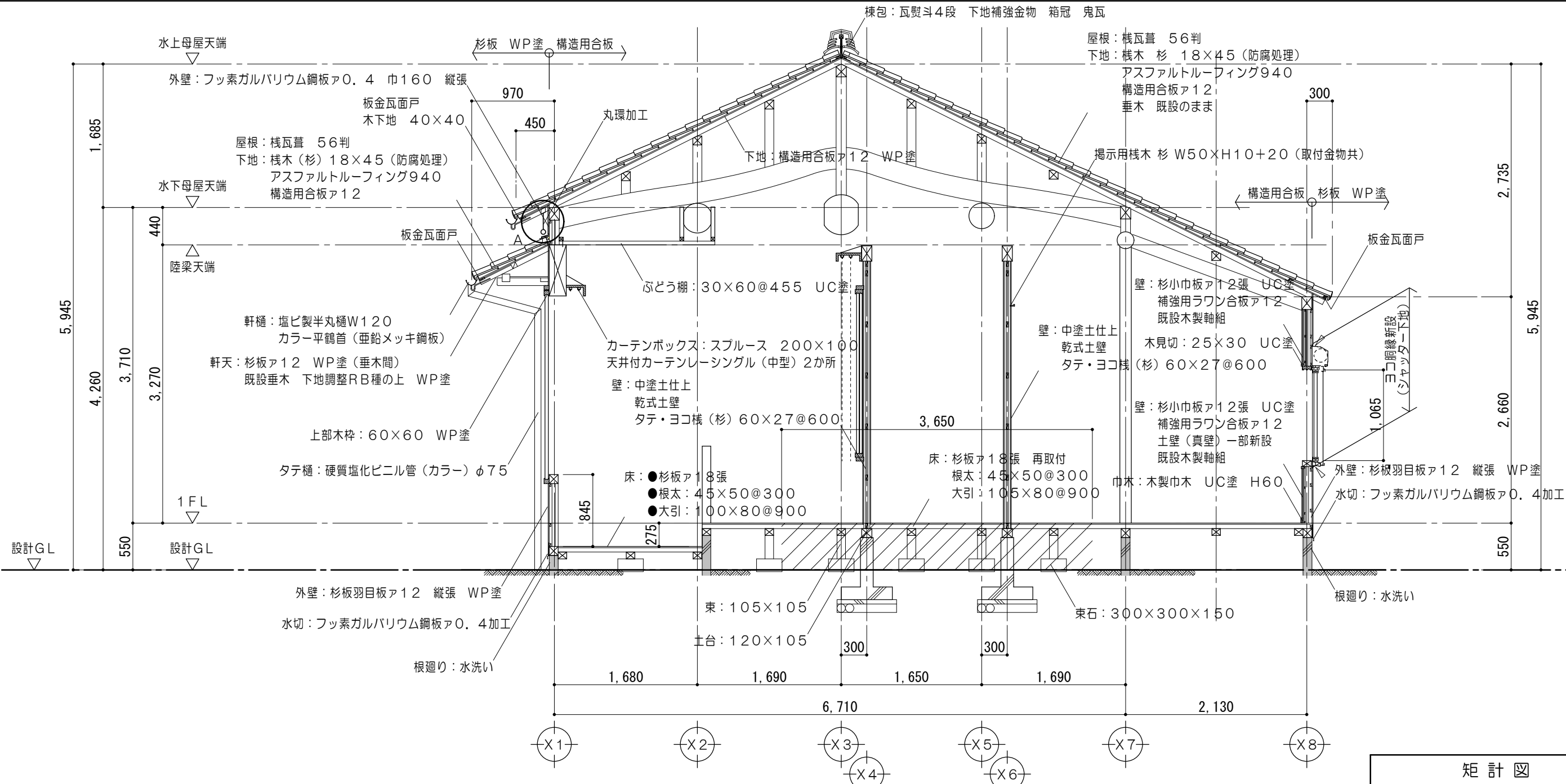
特 記 事 項							<div><div><div><div>MAHNO</div></div><div>株式会社</div></div><div>前野建築設計</div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div>	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号		代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	作図 <div><div>加藤</div><div>前田</div></div>	工事名称	令和7・8年度 安楽人形芝居舞台改修工事		設計日
											検図 <div><div>前野</div><div>将輝</div></div>	図面名称	<div>改修前</div> <div>改修後</div> 断面図		縮 尺	図面番号				
															A2:1/100	A015				
															A3:1/141					

改修前

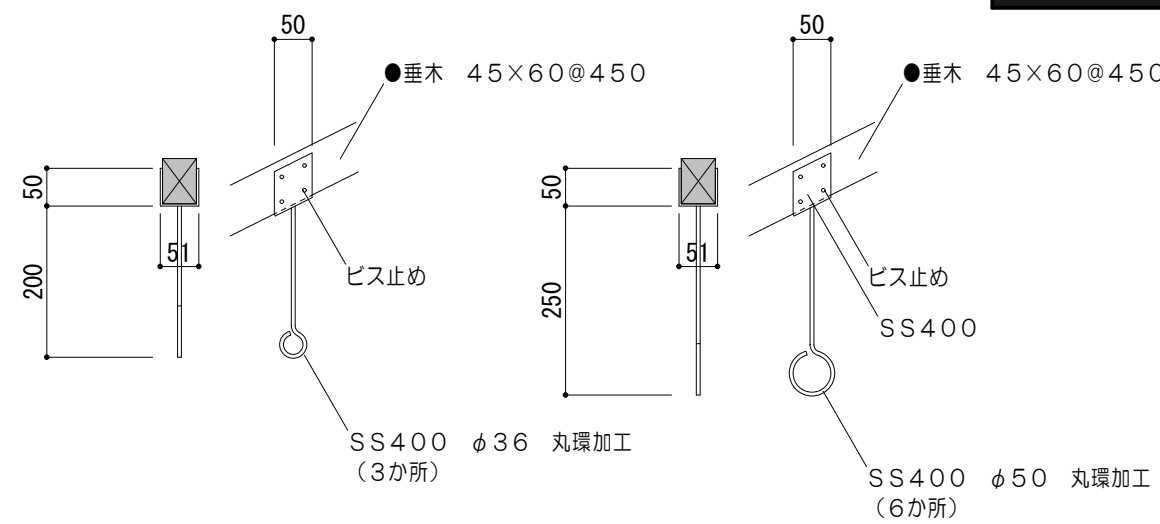


矩 計 図 1/50

改修後



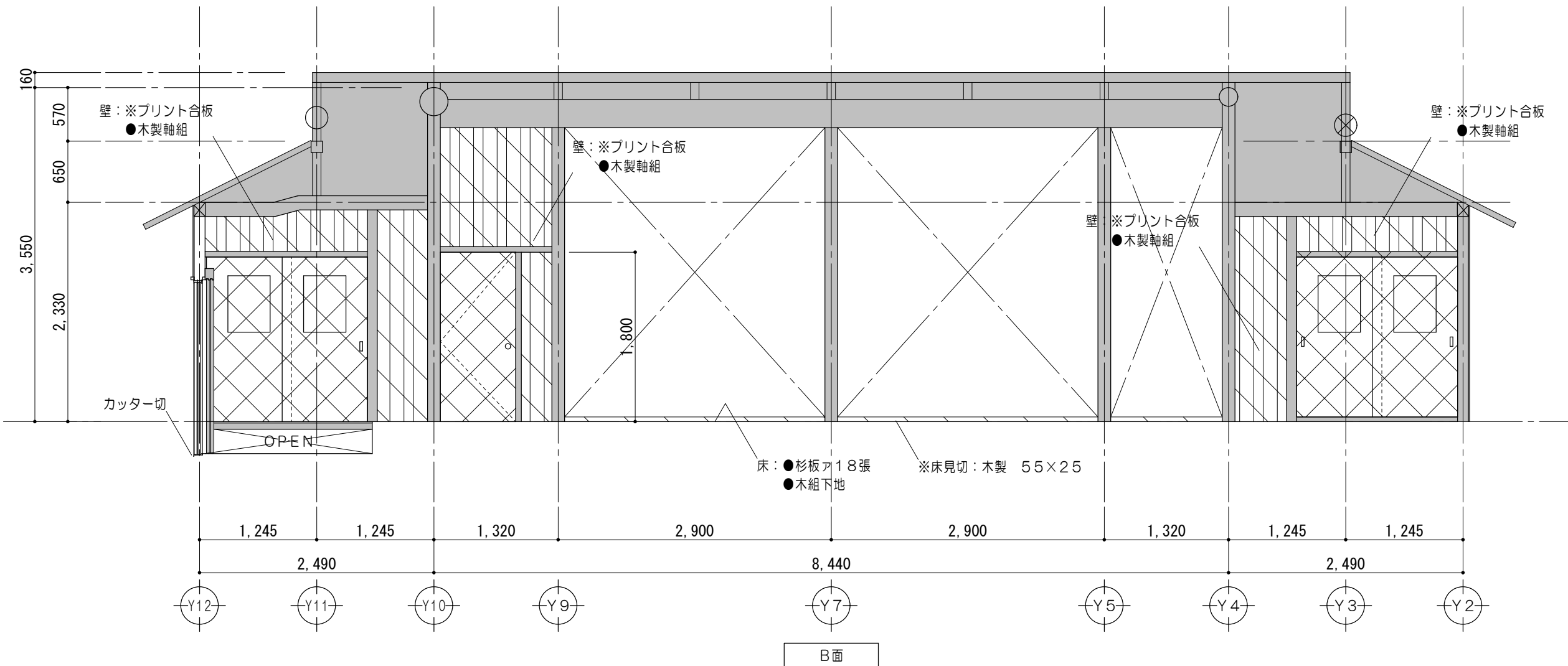
矩 計 図 1/50



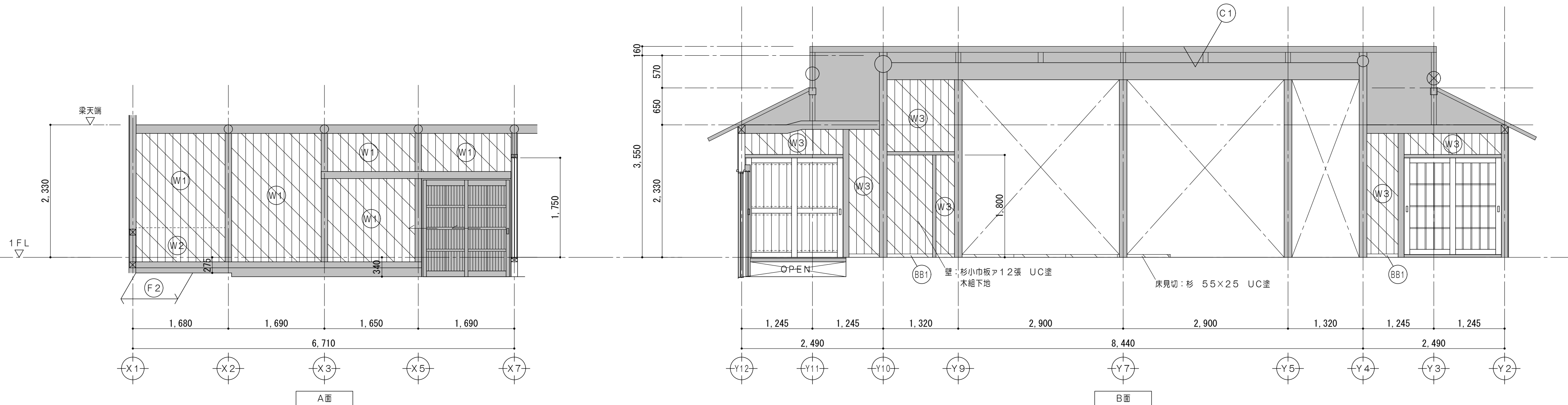
A 部 丸 環 詳 細 図 1/10

凡例（工事内容）	
	既設のまますを示す
	仕上・下地共新設を示す
	壁（仕上、下地共）撤去を示す
※	解体撤去を示す
●	既設のまますを示す
▲	取外シ再取付を示す
✓	シーリングを示す




特 記 事 項		<div><div><div><div><div></div></div><div>MAENO</div></div><div>株式会社</div><div>前野建築設計</div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div></div> <div>一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号</div>	代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早紀	設計担当	設計担当	法適合確認	作図 <div><div>加藤</div><div>前田</div></div>	工事名称 令和7・8年度 安楽人形芝居舞台改修工事	設計日 R07/03/19
		縮 尺 A2:1/50 A3:1/71		図面番号 A016		<div><div>改修前</div><div>改修後</div>矩計図</div>					

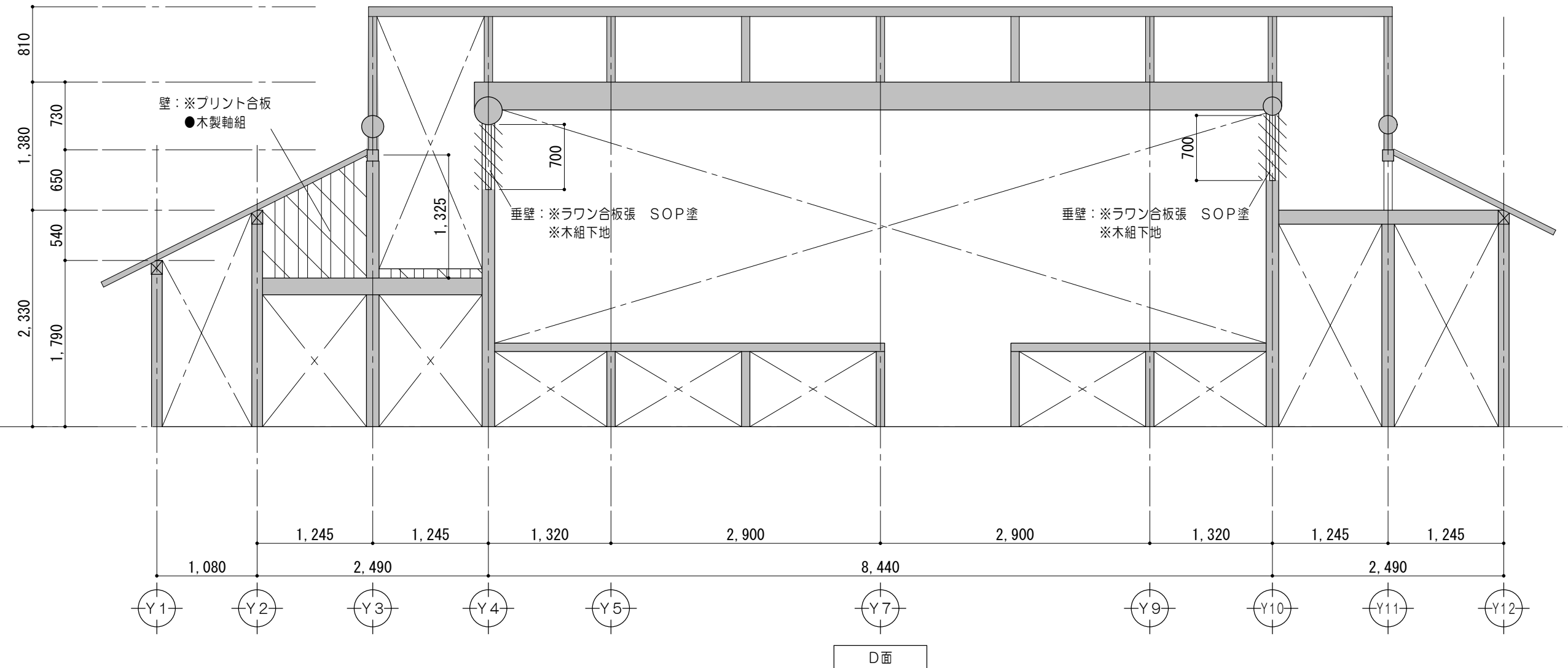
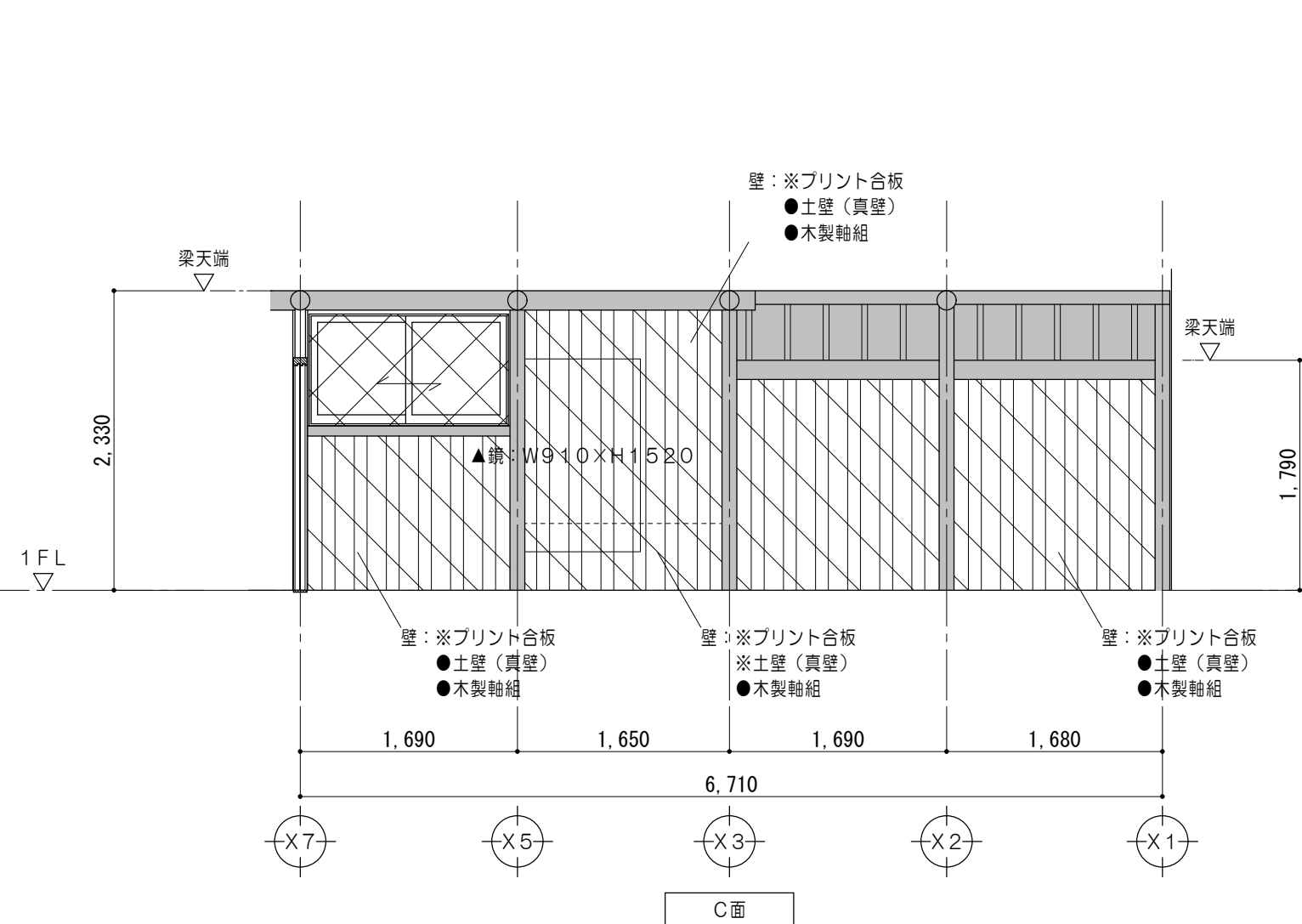


凡例（工事内容）							
	既設のままを示す		仕上・下地共撤去を示す	※	解体撤去を示す	▲	取外シ再取付を示す
	仕上撤去を示す		壁（仕上、下地共）撤去を示す	●	既設のままを示す		

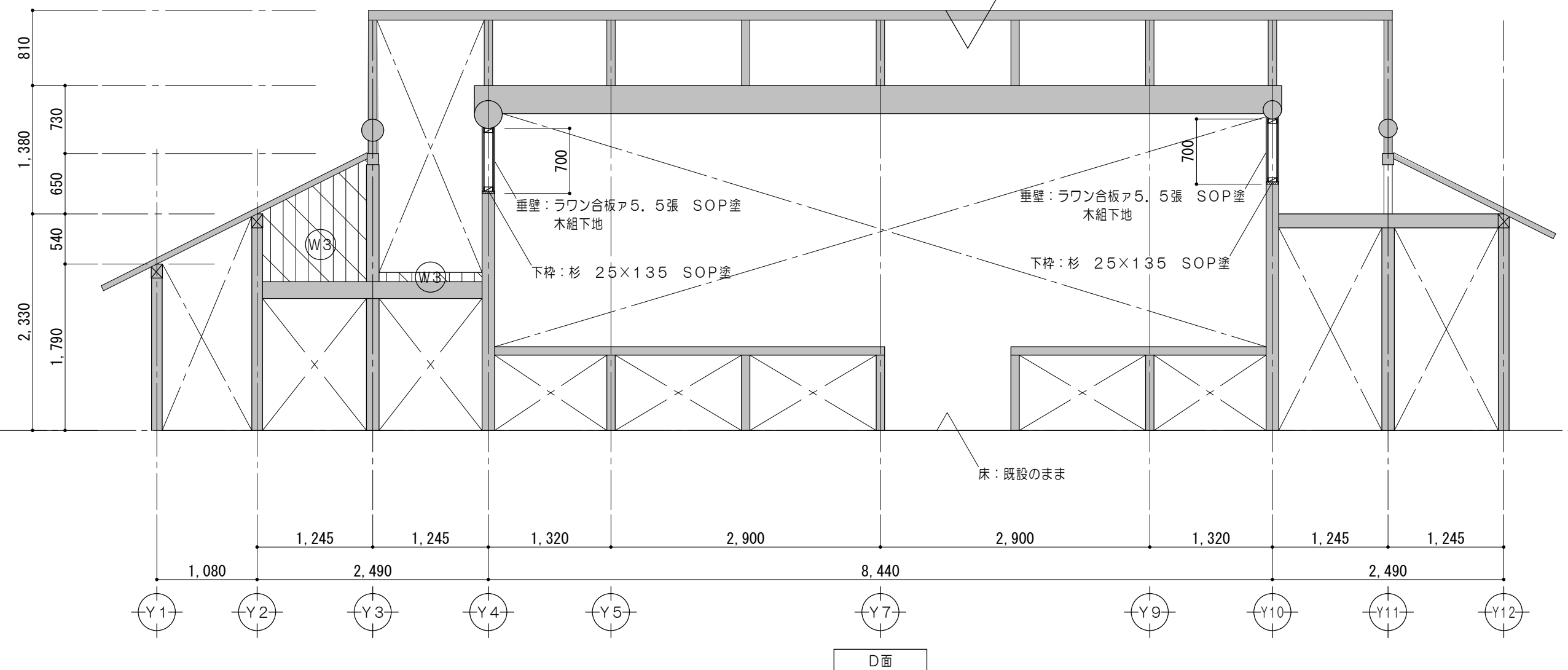
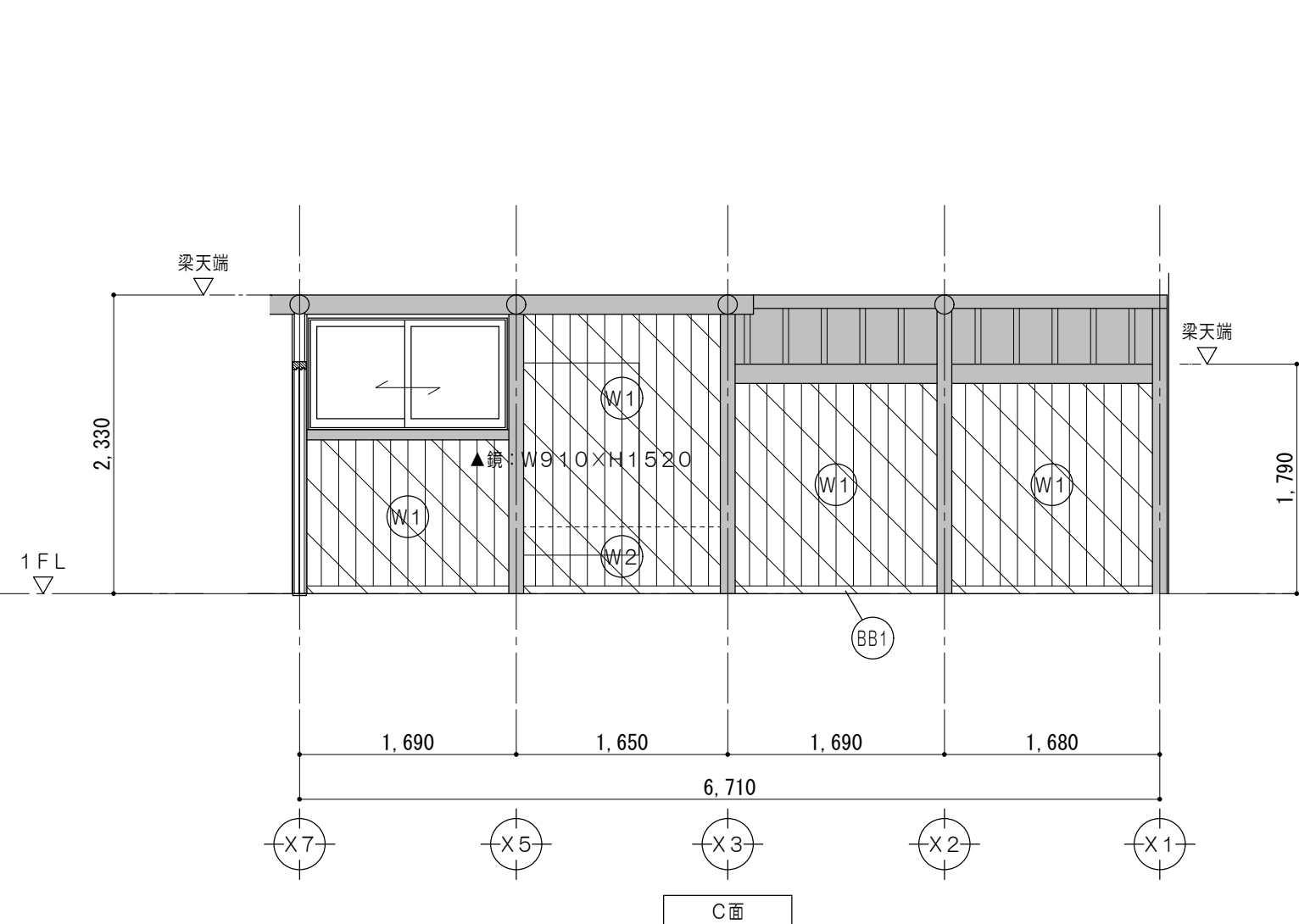


仕上凡例									
(F2)	床	杉板ア18張 既設木組下地	(BB1)	巾木：巾木 杉 UC塗 H60	(W2)	壁	杉小巾板ア12張 UC塗 ：土壁（真壁）新設 既設木製輪組		
			(W1)	杉小巾板ア12張 UC塗 壁：既設土壁（真壁） 既設木製輪組	(W3)	壁	杉小巾板ア12張 UC塗 ：既設木製輪組	(C1)	天井：構造用合板ア12 WP塗 既設小屑組





凡例（工事内容）					
	既設のままを示す		仕上・下地共新設を示す	●	既設のままを示す
	仕上新設を示す	∠	シーリングを示す	▲	取外シ再取付を示す

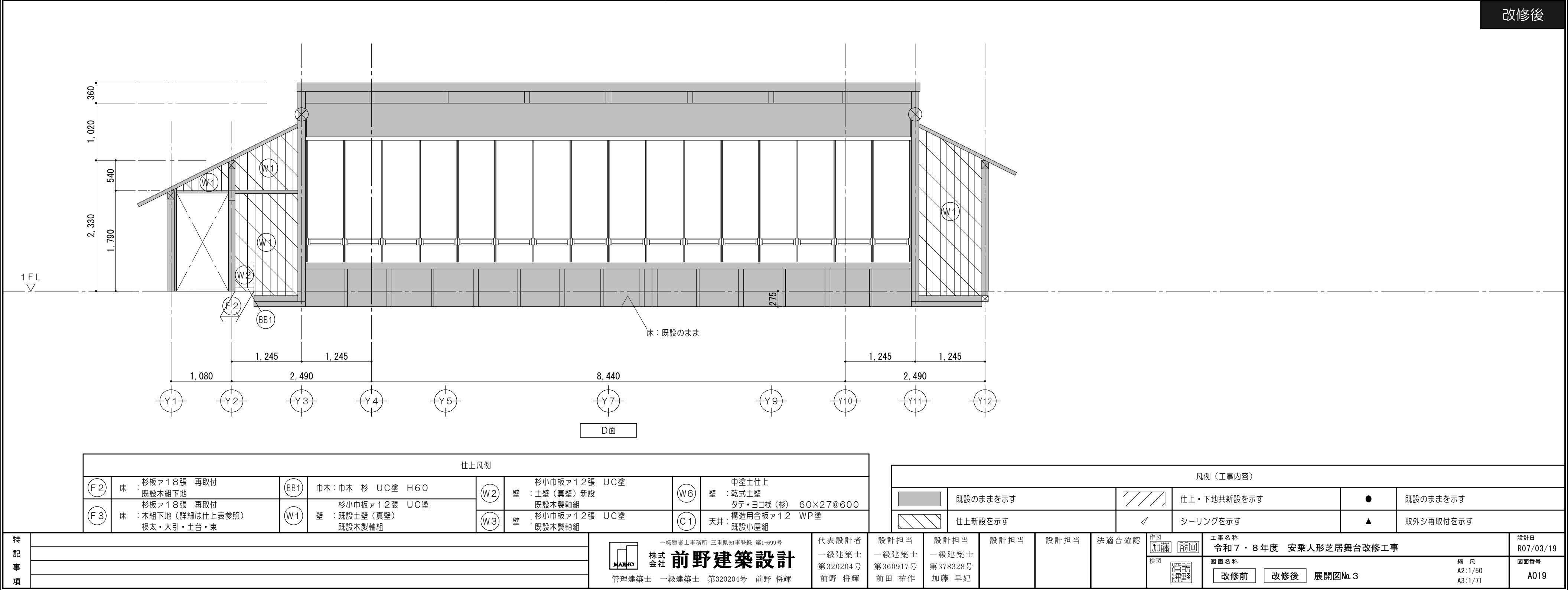
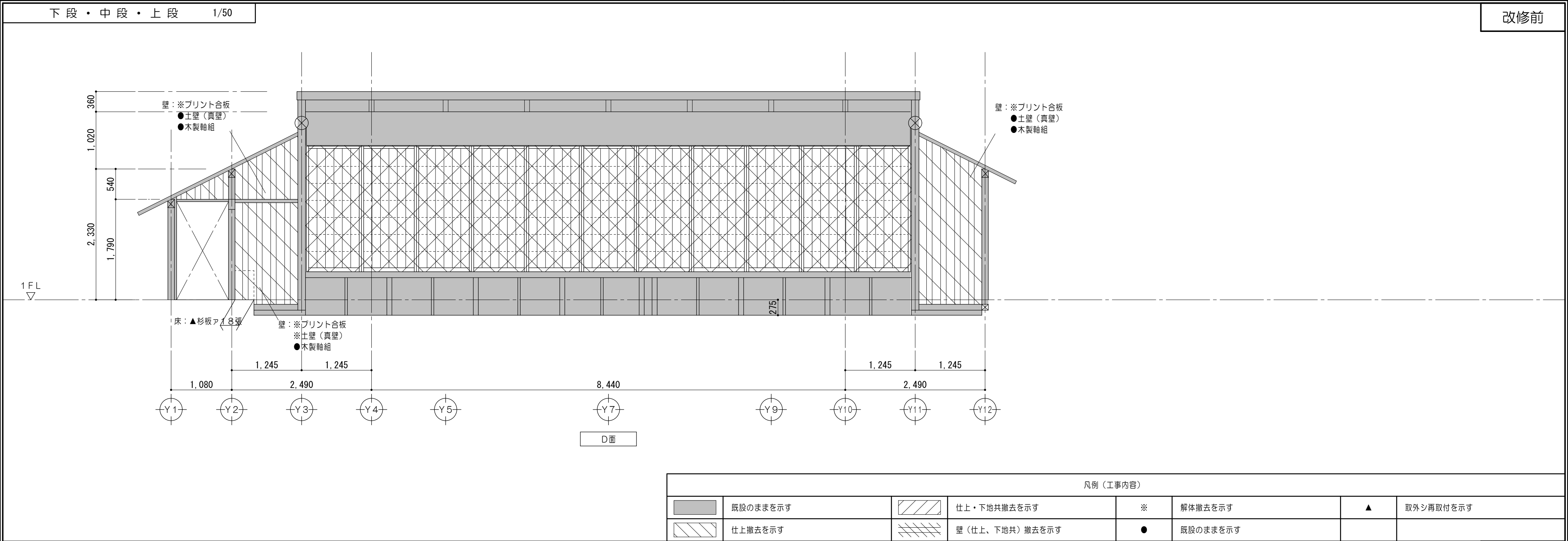


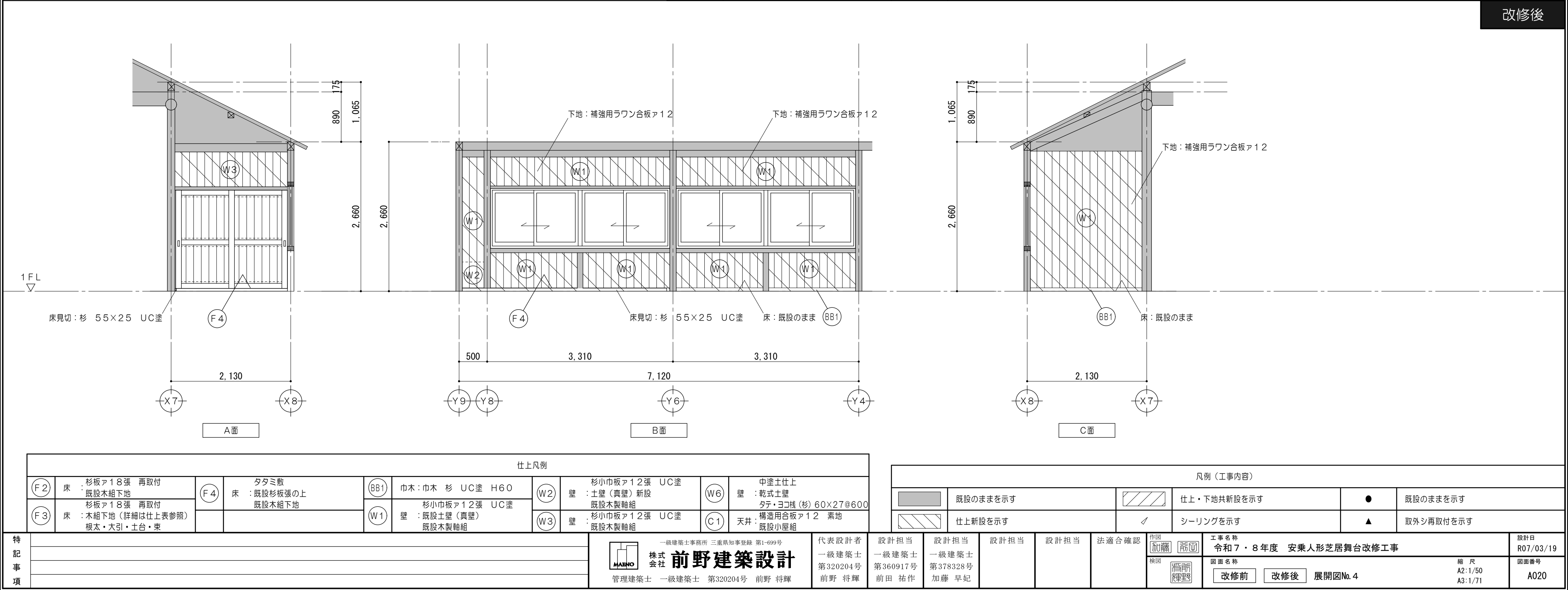
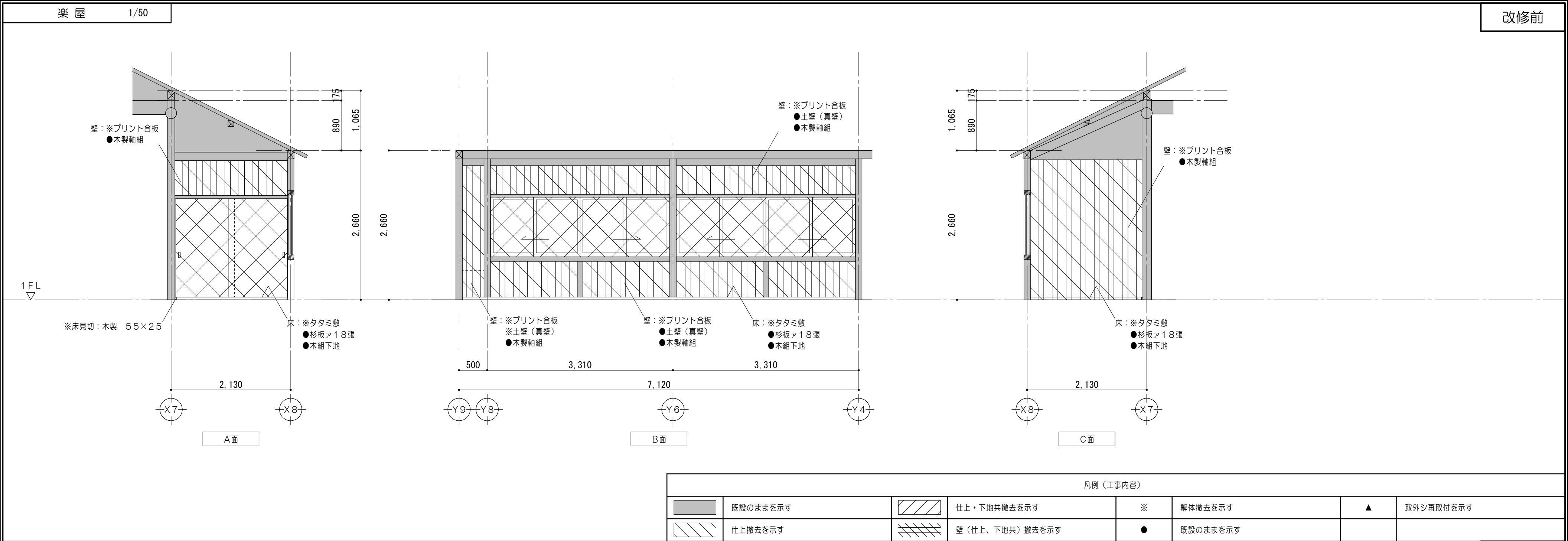
凡例（工事内容）							
	既設のままを示す		仕上・下地共撤去を示す	※	解体撤去を示す	▲	取外シ再取付を示す
	仕上撤去を示す		壁（仕上、下地共）撤去を示す	●	既設のままを示す		

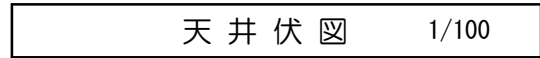




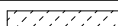
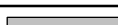
仕上凡例					
(BB1)	巾木：巾木 杉 UC塗 H60	(W2)	壁：杉小巾板ア12張 UC塗 ：土壁（真壁）新設 既設木製軸組		
(W1)	杉小巾板ア12張 UC塗 壁：既設土壁（真壁） 既設木製軸組	(W3)	壁：杉小巾板ア12張 UC塗 既設木製軸組	(C1)	天井：構造用合板ア12 WP塗 既設小屋組

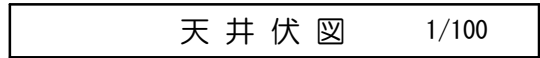
凡例（工事内容）					
	既設のままを示す		仕上・下地共新設を示す	●	既設のままを示す
	仕上新設を示す		シーリングを示す	▲	取外シ再取付を示す




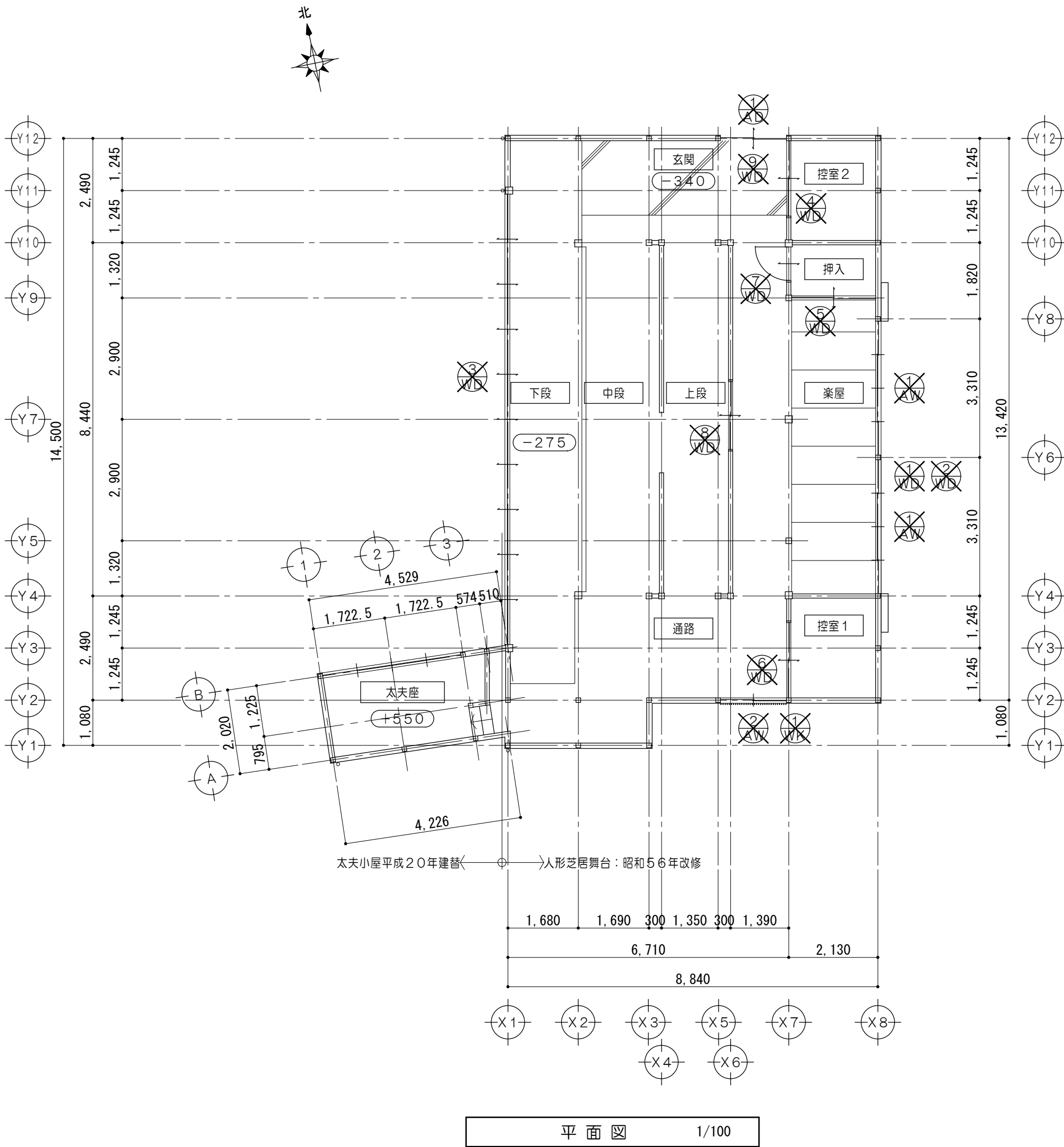




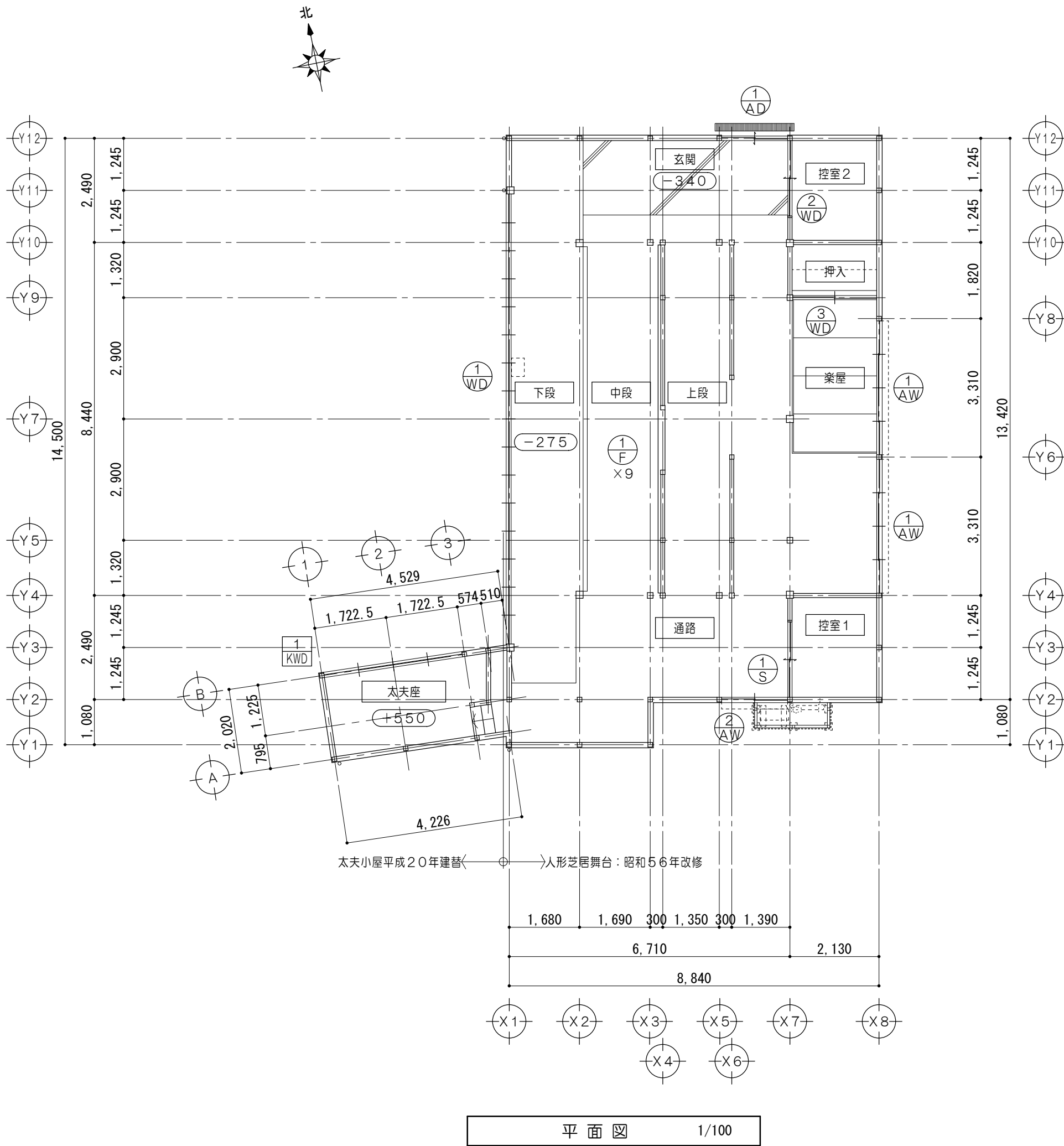
凡 例	
	天井：屋根小屋組表シ
	天井：ベニヤ合板ア4 撤去
	撤去範囲を示す
	既設のままの範囲を示す
●	既設のままを示す
※	撤去を示す



凡 例		
①	天井：構造用合板A12 WP塗	CB (A) カーテンボックスA カーテンレール (中型) シングル 2本
②	天井：ベニヤ合板A4張	CB (B) カーテンボックスB カーテンレール (中型) シングル 2本
③	天井：ビニルクロス張 ベニヤ合板A4	— — — 壁付カーテンレール シングル カーテン を示す
	既設のままの範囲を示す	天井廻縁は木製とすること。
●	既設のままを示す	




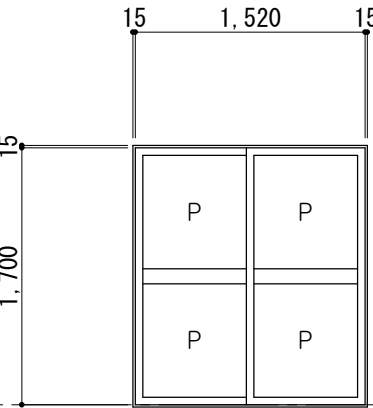
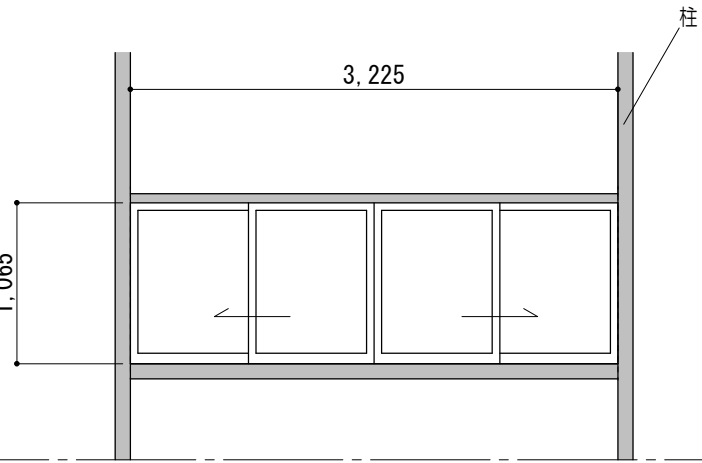
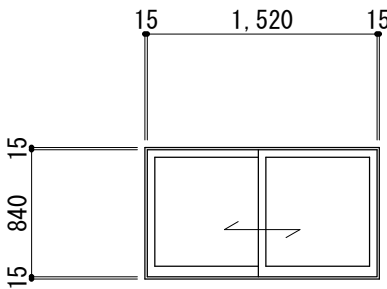


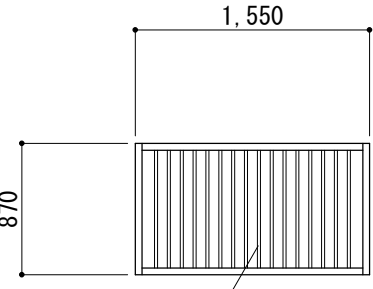
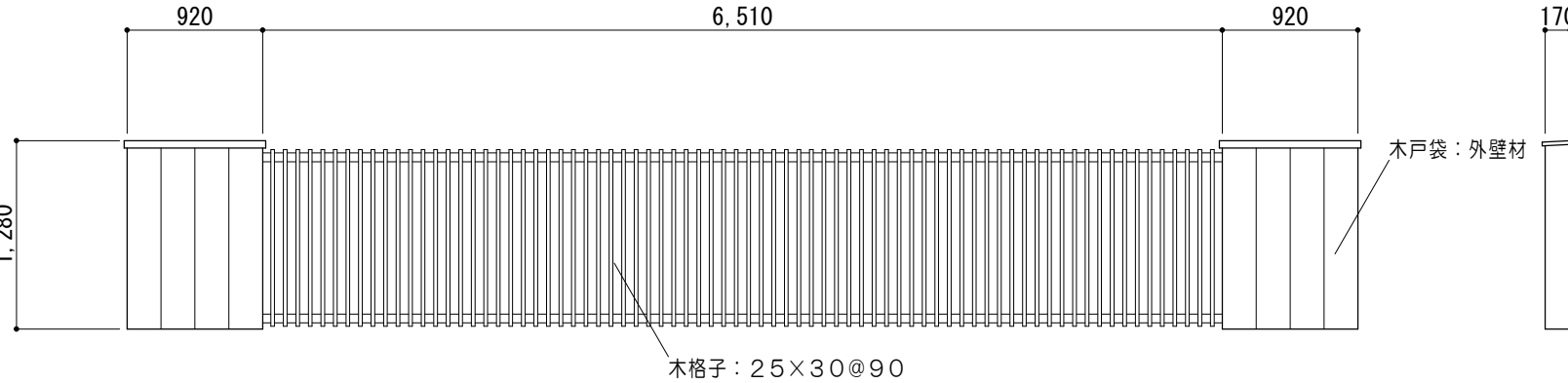
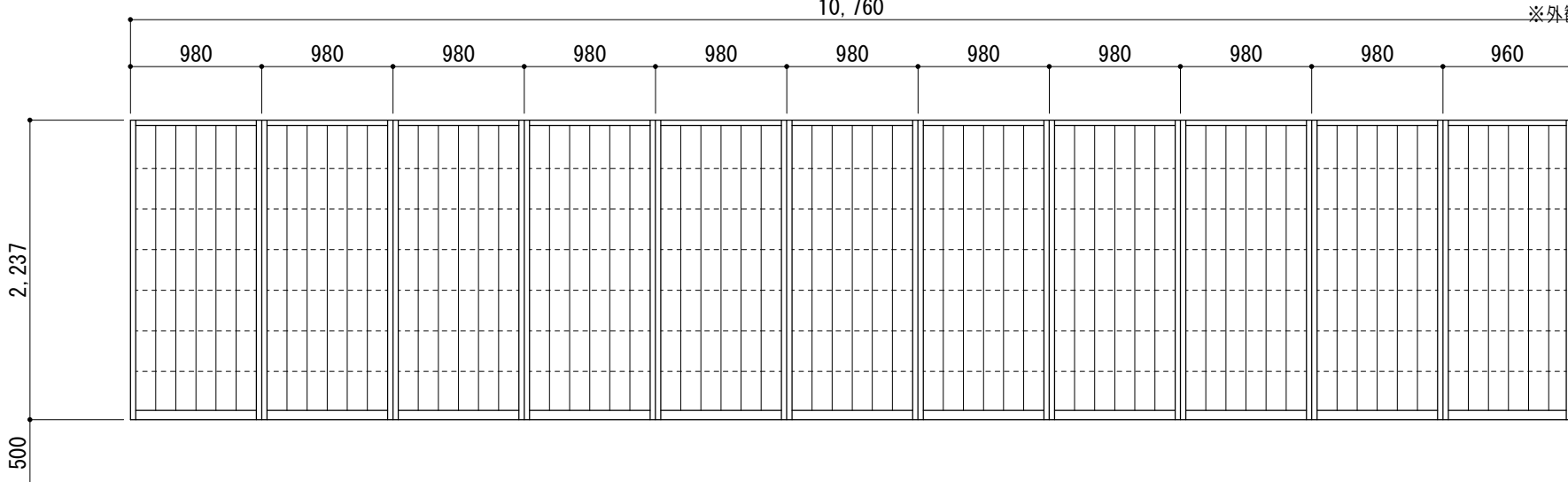


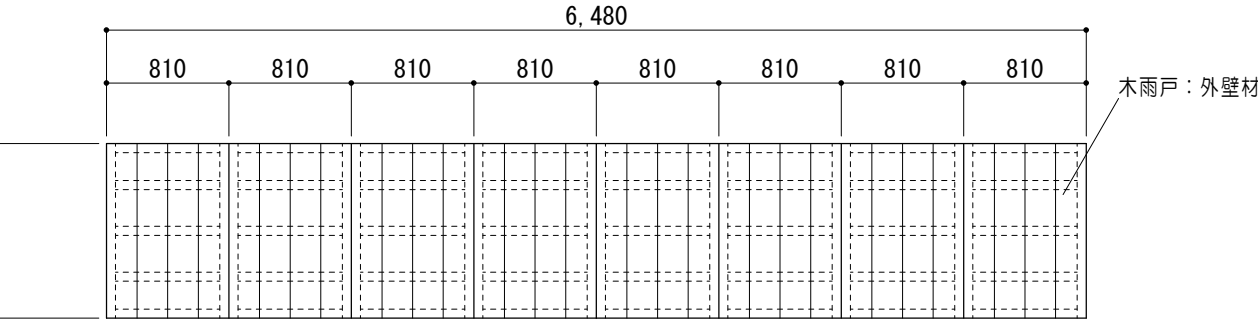






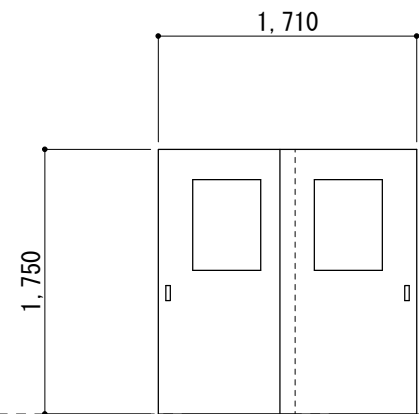
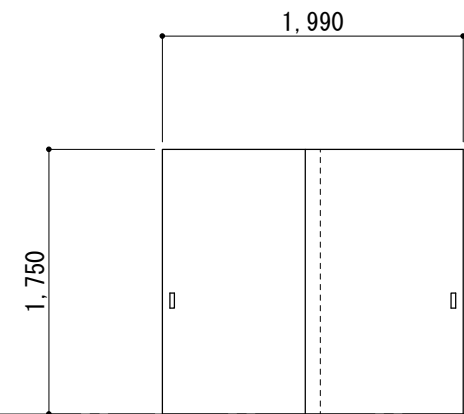
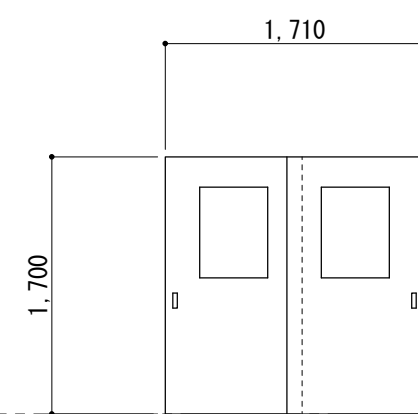
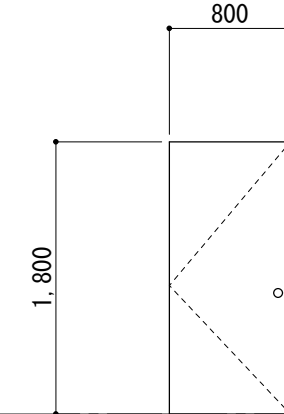


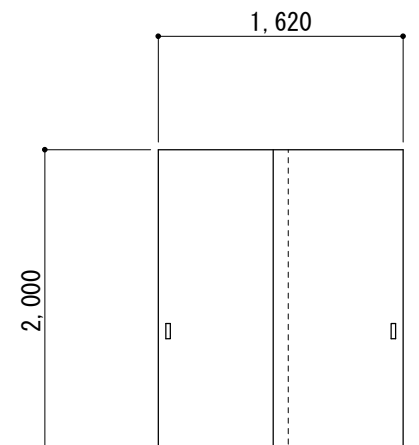
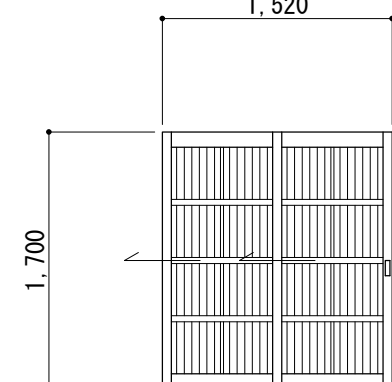
凡 例	
	既設建具を示す
	撤去建具を示す

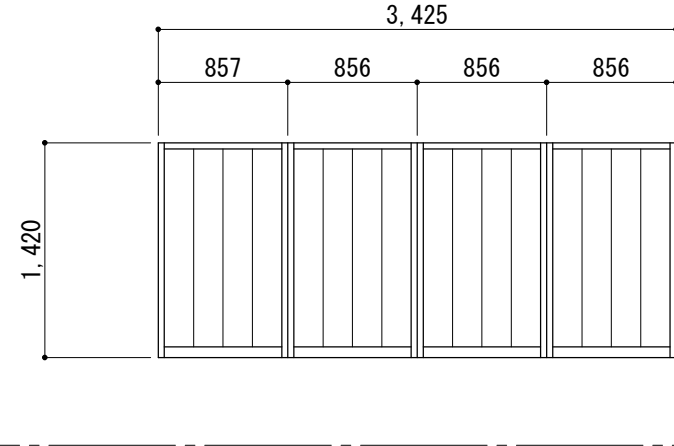


凡 例	
	新設建具を示す
	既設建具を撤去を示す
	既設建具塗替を示す

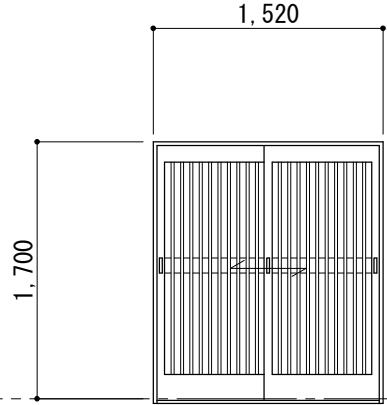
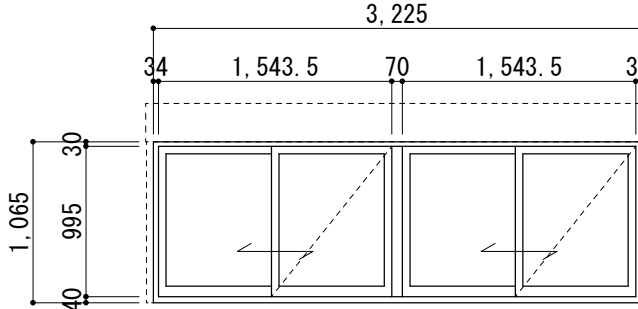
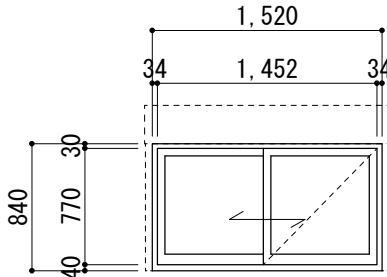
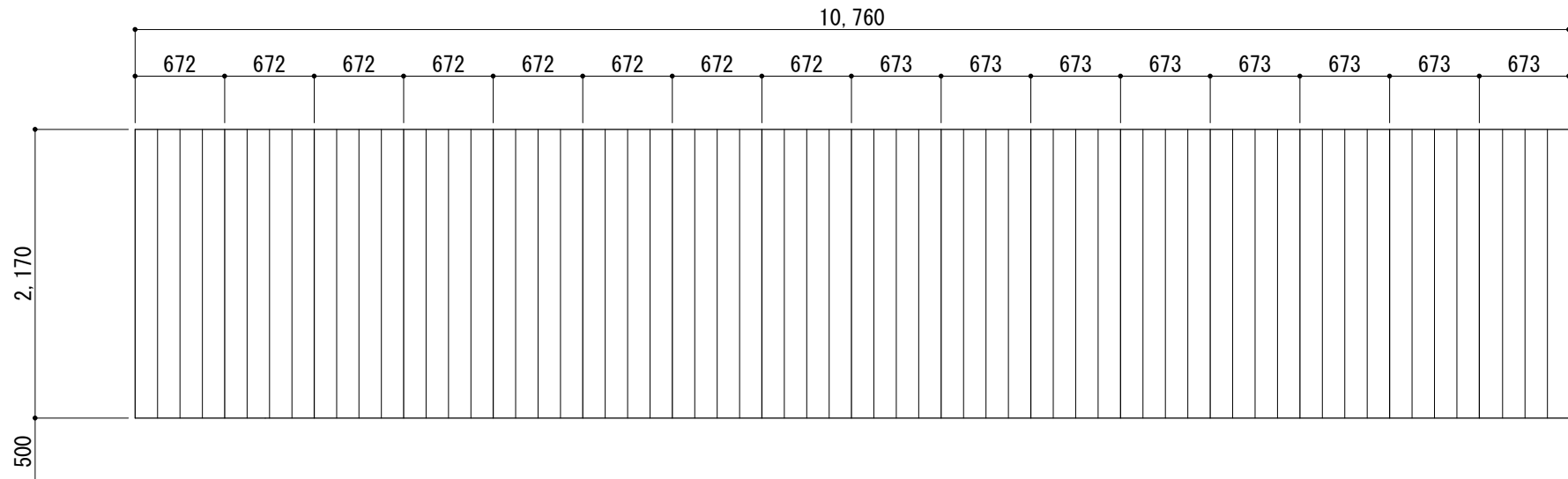
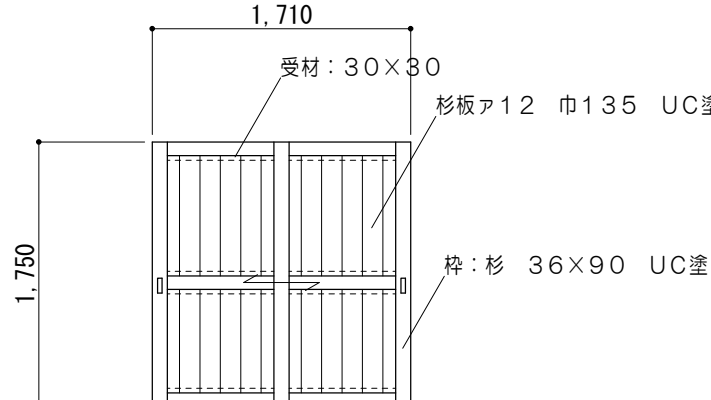
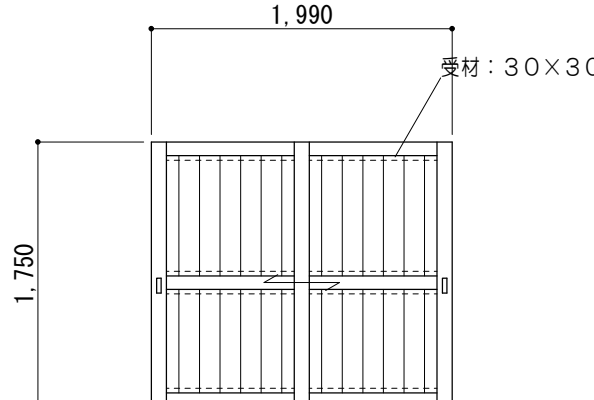
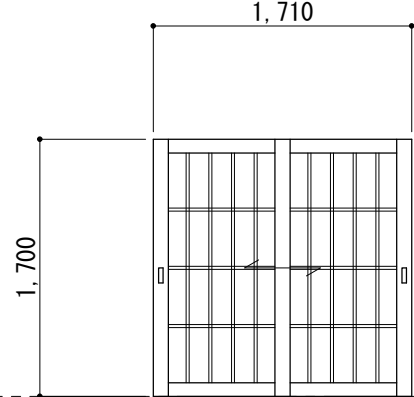
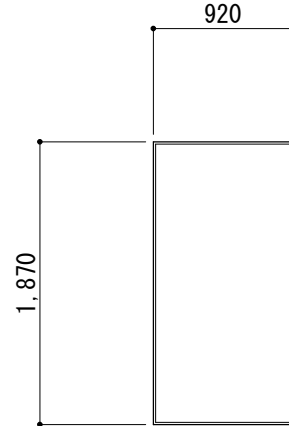
特 記 事 項		<div><div><div>一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号</div><div><div><div><div></div><div>MAHNO</div></div><div>株式会社</div><div>前野建築設計</div></div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div></div></div>	代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早妃	設計担当	設計担当	法適合確認	<div>作図 加藤 前田</div> <div>検図 前野 将輝</div>	工事名称 令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事			設計日 R07/03/19
	図面名称 <div>改修前</div> <div>改修後</div> 建具符号図												
	縮 尺 A2:1/100 A3:1/141												
	図面番号 A022												

撤去建具表 No. 11/50									
符号名称数量	 引違いアルミパネルサッシ	1	 引分けアルミサッシ	2	 引違いアルミサッシ	1			
姿図									
見込	硝子	70		フロート板ガラスA4（一部すりガラス）	70	フロート板ガラスA4			
仕上	アルミ		アルミ		アルミ				
金物	引違い錠、戸車、アングル、付属金物一式		アルミレール、クレセント、付属金物一式		戸車、クレセント、付属金物一式				
室名	玄関		楽屋		通路				
符号名称数量	 木製格子	1	 木戸袋＋木格子			1			
姿図									
見込	硝子								
仕上	木格子：20×25@85		杉板羽目板 縦張 WP塗 木格子：25×30@90						
金物									
室名	通路		楽屋						
符号名称数量	 木雨戸		8	 木雨戸（着脱式）		11			
姿図									
見込	硝子	扉枠 39		扉枠 39					
仕上	杉板羽目板 縦張 WP塗 木組下地：30×30、20×35@303		杉板羽目板 縦張 WP塗 木組下地：40×30、20×35@303						
金物									
室名					下段				

撤 去 建 具 表 No. 2										1/50																	
符号名称数量		 引違イ木製フラッシュ戸		1		 引違イ木製フラッシュ戸		1		 引違イ木製フラッシュ戸		1		 木製片開キドア		1											
姿 図																											
見 込 硝 子		<table><tr><td>扉</td><td>36</td></tr><tr><td>枠</td><td>—</td></tr></table> フロート板ガラスA4		扉	36	枠	—	<table><tr><td>扉</td><td>36</td></tr><tr><td>枠</td><td>—</td></tr></table>		扉	36	枠	—	<table><tr><td>扉</td><td>36</td></tr><tr><td>枠</td><td>—</td></tr></table> フロート板ガラスA4				扉	36	枠	—	<table><tr><td>扉</td><td>36</td></tr><tr><td>枠</td><td>—</td></tr></table>		扉	36	枠	—
扉	36																										
枠	—																										
扉	36																										
枠	—																										
扉	36																										
枠	—																										
扉	36																										
枠	—																										
仕 上		シナ合板フラッシュ				シナ合板フラッシュ				シナ合板フラッシュ				シナ合板フラッシュ													
金 物		戸車、ステンレスレール、堀込引手、付属金物一式				戸車、ステンレスレール、堀込引手、付属金物一式				戸車、ステンレスレール、堀込引手、付属金物一式				丁番、握り玉、付属金物一式													
室 名		控室2				押入				控室1				押入													
符号名称数量		 引違イ木製フラッシュ戸		1		 2連片引キ木製戸																					
姿 図																											
見 込 硝 子		<table><tr><td>扉</td><td>40</td></tr><tr><td>枠</td><td>—</td></tr></table>		扉	40	枠	—	<table><tr><td>扉</td><td>40</td></tr><tr><td>枠</td><td>—</td></tr></table>		扉	40	枠	—														
扉	40																										
枠	—																										
扉	40																										
枠	—																										
仕 上		シナ合板フラッシュ																									
金 物		戸車、ステンレスレール、堀込引手、付属金物一式				戸車、ステンレスレール、堀込引手、付属金物一式																					
室 名		控室2				玄関																					

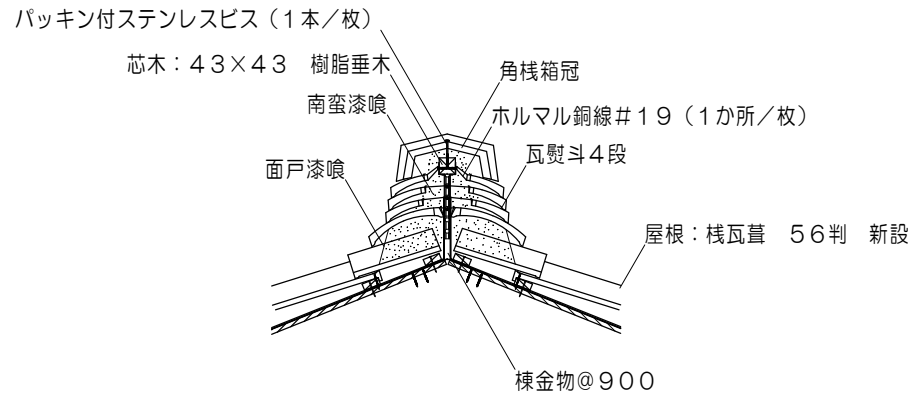
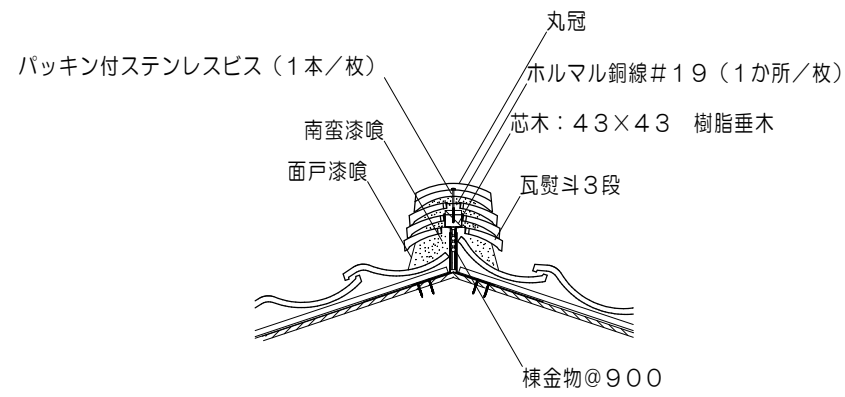
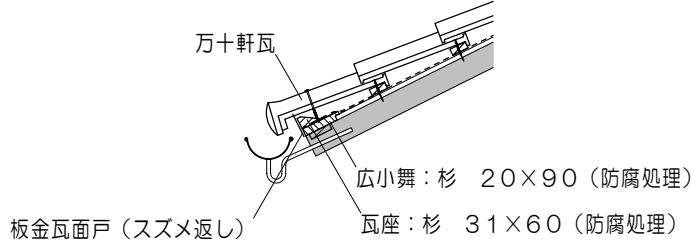
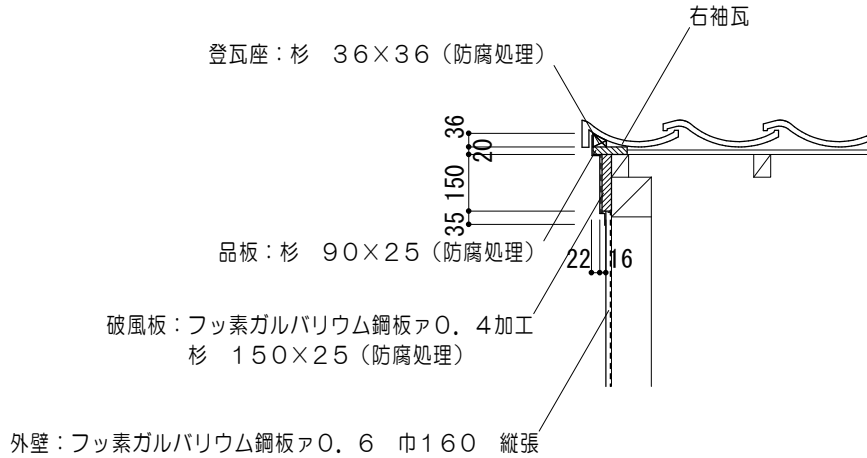
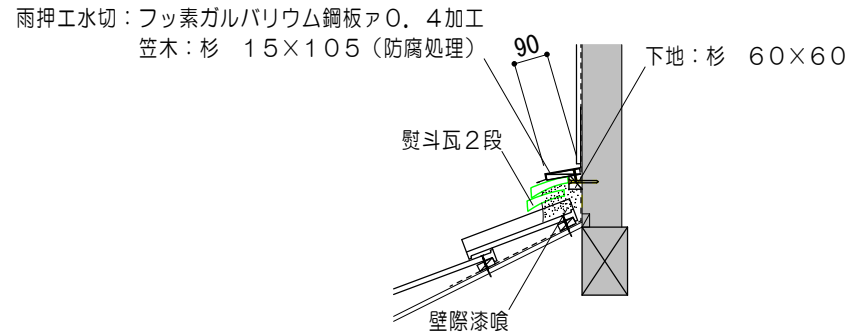
改 修 建 具 表					1/50					
符号名称数量		<table><tr><td>1</td></tr><tr><td>KWD</td></tr></table> 2連片引キ木製戸			1	KWD	1			
1										
KWD										
姿 図										
FL ▽										
見 込 硝 子		<table><tr><td>扉</td><td>40</td></tr><tr><td>枠</td><td>—</td></tr></table>		扉	40	枠	—			
扉	40									
枠	—									
仕 上		改修前		杉板羽目板 縦張 WP塗	改修後	下地調整RB種の上 WP塗替				
金 物										
室 名		太夫座								

特 記 事 項							一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号		代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	作図	工事名称	設計日	
								株式会社 前野建築設計	一級建築士 第320204号 前野 将輝	一級建築士 第360917号 前田 祐作	一級建築士 第378328号 加藤 早妃					令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事	R07/03/19	
									管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝	前野 将輝	加藤 早妃					図面番号		
															縮 尺 A2:1/50 A3:1/71	A024		

新 設 建 具 表										1/50																				
符号名称数量		<div><div>1</div><div>AD</div></div> 玄関アルミ引違い戸			1		<div><div>1</div><div>AW</div></div> 2連引違いアルミ複合樹脂サッシ（手動シャッター付）			2		<div><div>2</div><div>AW</div></div> 引違いアルミ複合樹脂サッシ（手動シャッター付）			1															
姿 図 FL ▽				※住宅用						※半外付タイプ（住宅用）						※半外付タイプ（住宅用）														
																														
見 込 硝子		7 0		フロートガラスァ4				8 6		フロストガラスァ5－A 1 3－フロートガラスァ4				8 6		フロストガラスァ5－A 1 3－フロートガラスァ4														
仕 上		アルミ陽極酸化塗装皮膜（B－2種）カラー有色対応可				アルミ陽極酸化塗装皮膜（B－2種）カラー有色対応可				アルミ陽極酸化塗装皮膜（B－2種）カラー有色対応可																				
金 物		引手、シリンダー召合せ錠、戸車、付属金物一式				クレセント、戸車、網戸、手動シャッター、中柱、付属金物一式				クレセント、戸車、網戸、手動シャッター、付属金物一式																				
室 名		玄関				楽屋				通路																				
符号名称数量		<div><div>1</div><div>WD</div></div> 木雨戸（着脱式）						W672：8 W673：8						<div><div>2</div><div>WD</div></div> 引違い木製戸				1		<div><div>3</div><div>WD</div></div> 引違い木製戸				1						
姿 図 FL ▽																														
見 込 硝子		扉 枠		48 —				扉 枠		36 —				扉 枠		36 —														
仕 上		杉板羽目板 縦張 WP塗（透湿防水シート張）、門60×60×L1350（2本）WP塗、門60×60×L2000（4本）WP塗 木組下地 30×30、30×30@303														枠：杉 36×90 UC塗 板：杉板ア12 UC塗				枠：杉 36×90 UC塗 板：杉板ア12 UC塗										
金 物		ステンレスハンドル、付属金物一式														戸車、ステンレスレール、堀込引手、付属金物一式				戸車、ステンレスレール、堀込引手、付属金物一式										
室 名		下段														控室1				押入										
符号名称数量		<div><div>1</div><div>S</div></div> 引違い障子				1		<div><div>1</div><div>F</div></div> ふすま戸				9																		
姿 図 FL ▽																														
																														
見 込 硝子		扉 枠		36 —		ワーロンシート張		3 0																						
仕 上		枠：杉 36×90 UC塗 杉 20×20 UC塗				ふすま張 無地（普及品） ラワン合板フラッシュ																								
金 物		戸車、ステンレスレール、堀込引手、付属金物一式				付属金物一式																								
室 名		控室1				中段																								

特 記 事 項		<div><div><div><div></div></div><div>株式会社</div></div><div>前野建築設計</div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div>	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号		代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	作図 <div><div>加藤</div><div>前田</div></div> <div>検図 <div>加藤</div><div>前田</div></div>	工事名称	設計日	
			一級建築士 第320204号 前野 将輝		一級建築士 第360917号 前田 祐作	一級建築士 第378328号 加藤 早妃							令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事	R07/03/19
													図面名称	図面番号
													新設建具表	A025

縮 尺
A2:1/50
A3:1/71

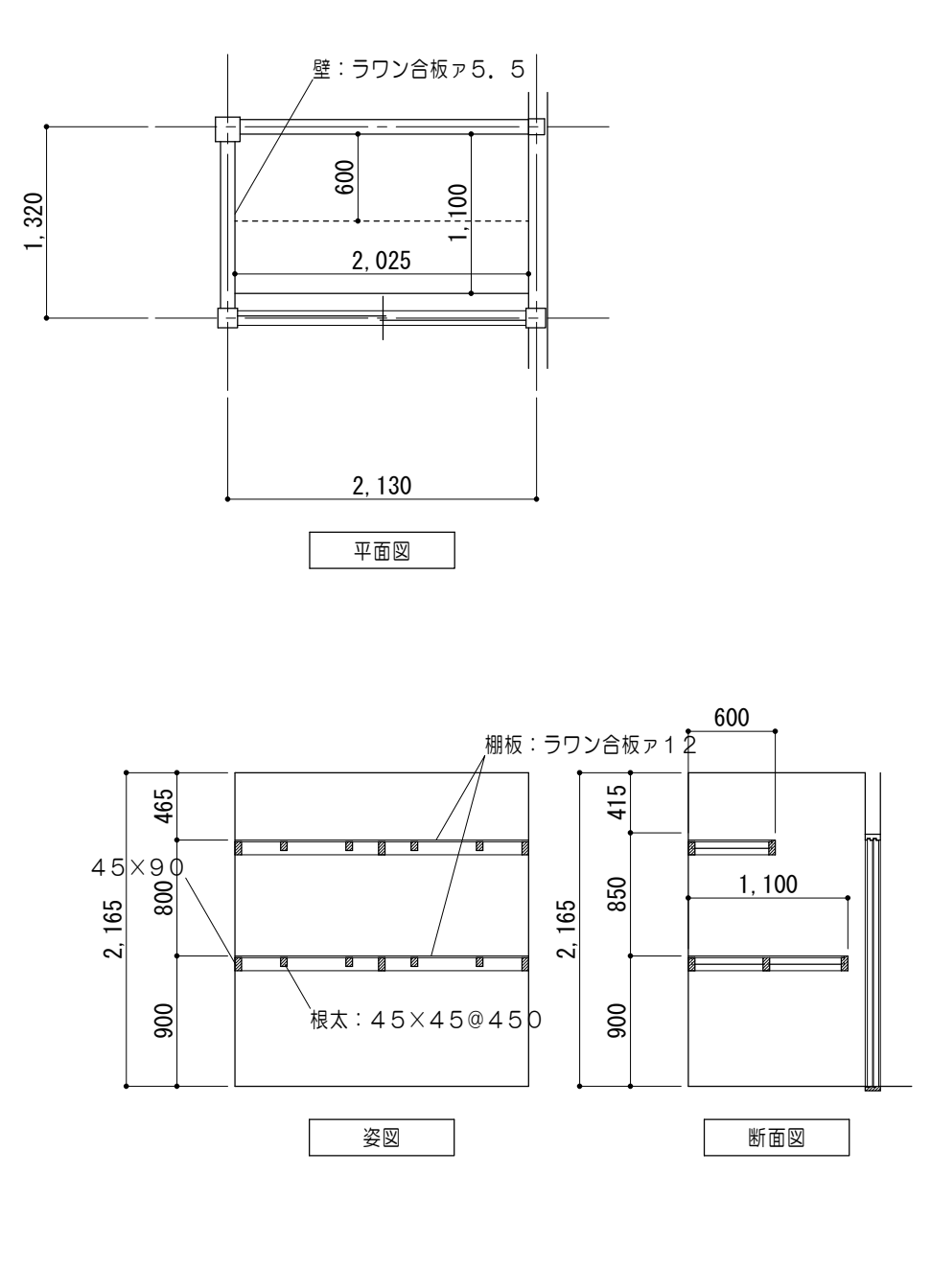
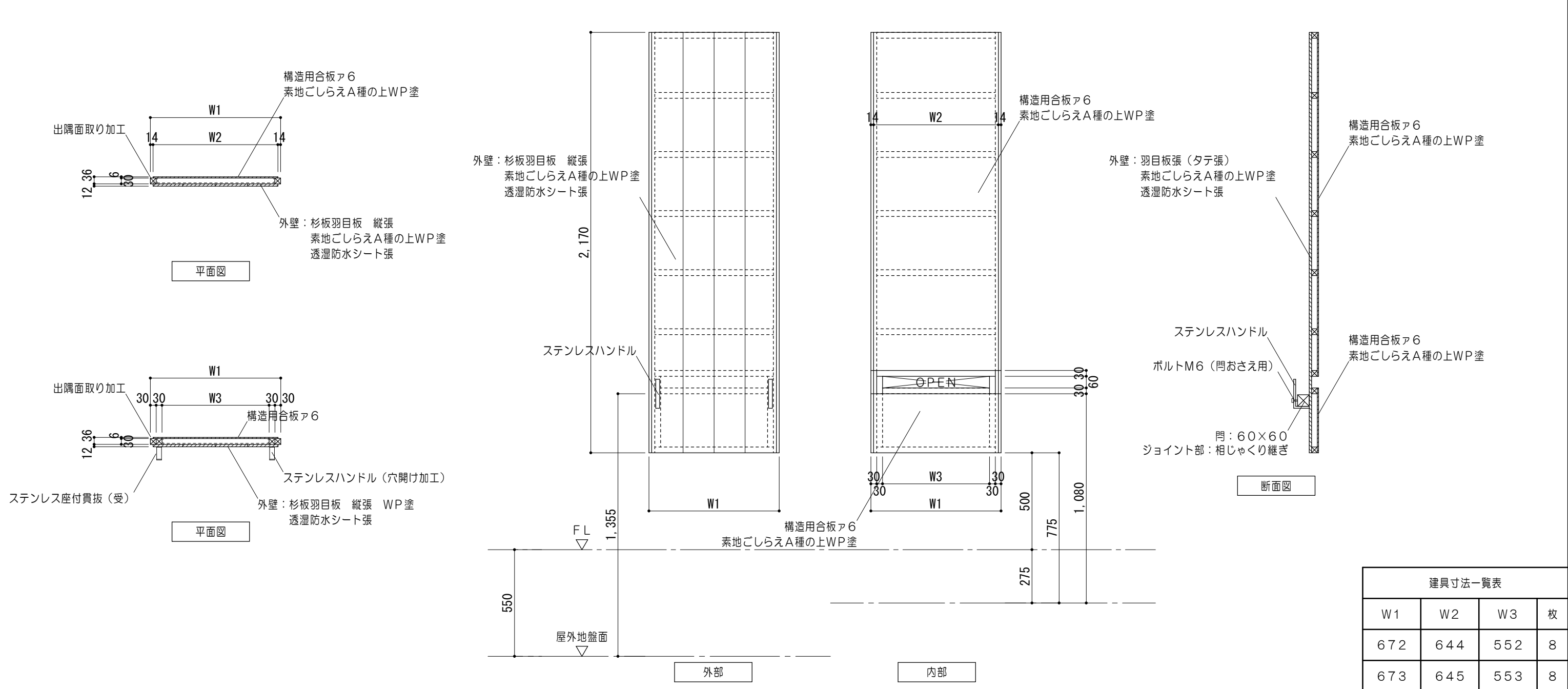
各部詳細図 No. 1														
棟包 詳細図		1/30	隅棟包 詳細図		1/30	軒先 詳細図		1/30	ケラバ 詳細図			1/30		
<div></div>			<div></div>			<div></div>			<div></div>					
妻面水上 詳細図		1/30												
<div></div>														
特 記 事 項			<div><div><div><div>MAHNO</div><div>株式会社</div><div>前野建築設計</div></div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div></div>			代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	作図 加藤 前野	工事名称	設計日
								令和7・8年度 安楽人形芝居舞台改修工事	R07/03/19					
								図面名称	図面番号					
								各部詳細図No. 1	A026					

WD 1 木雨戸 詳細図

1/30

押入棚詳細図

1/50

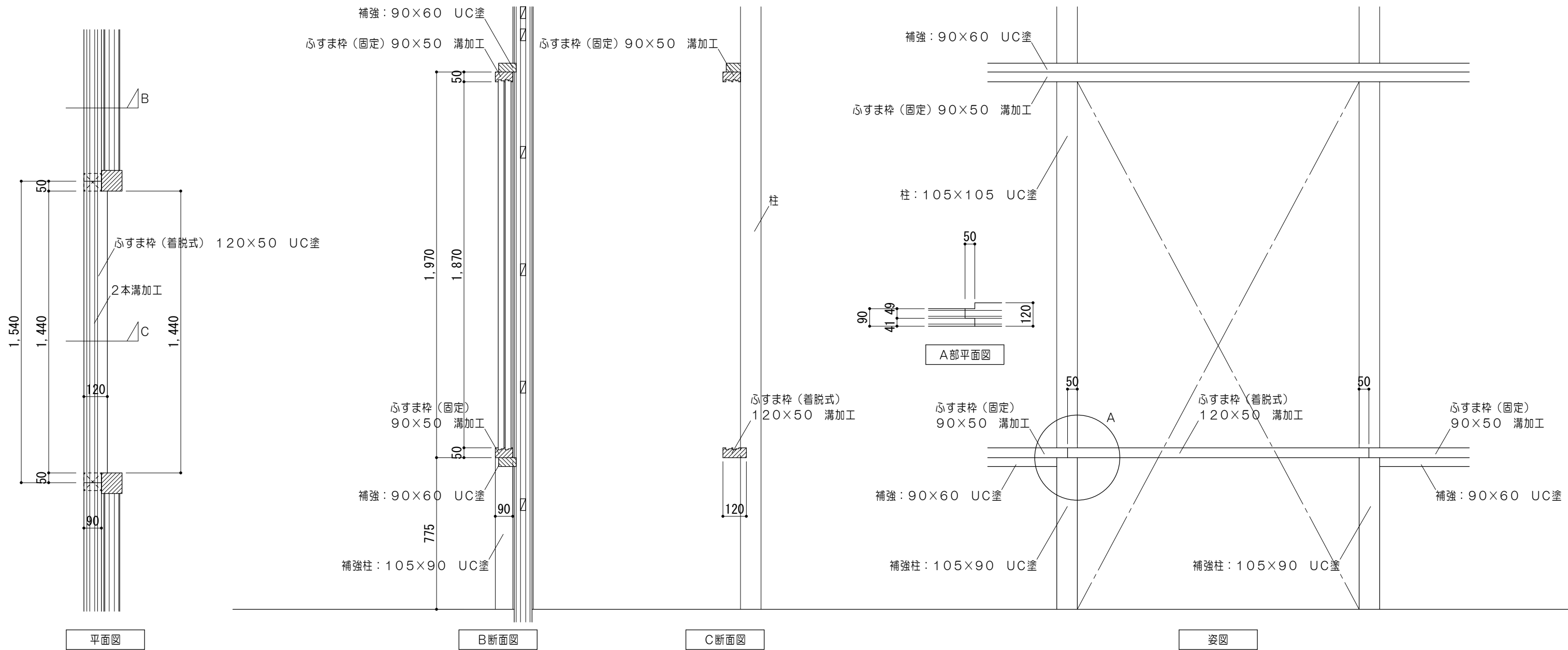
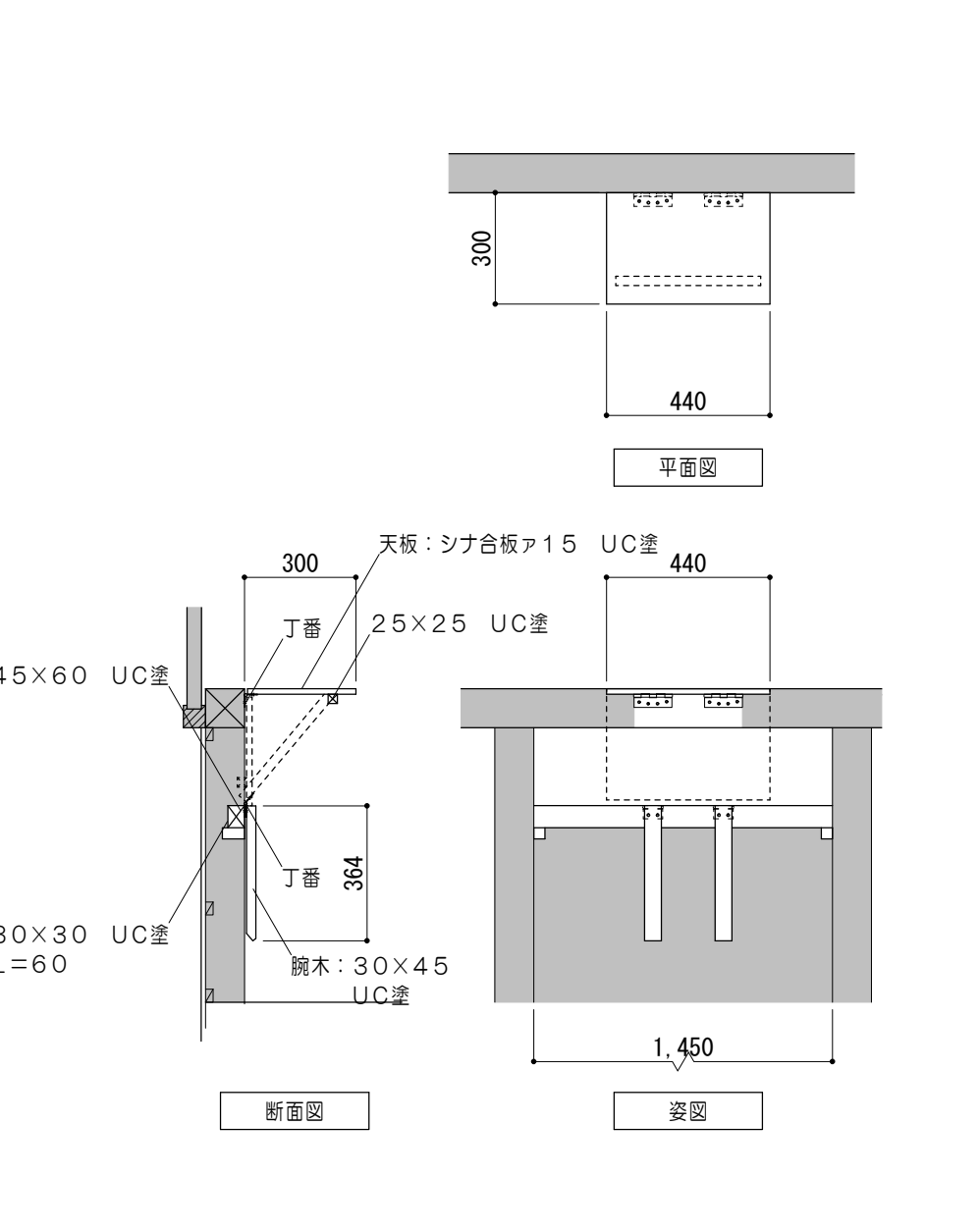


舞台装置詳細図

1/30

ふすま枠 詳細図

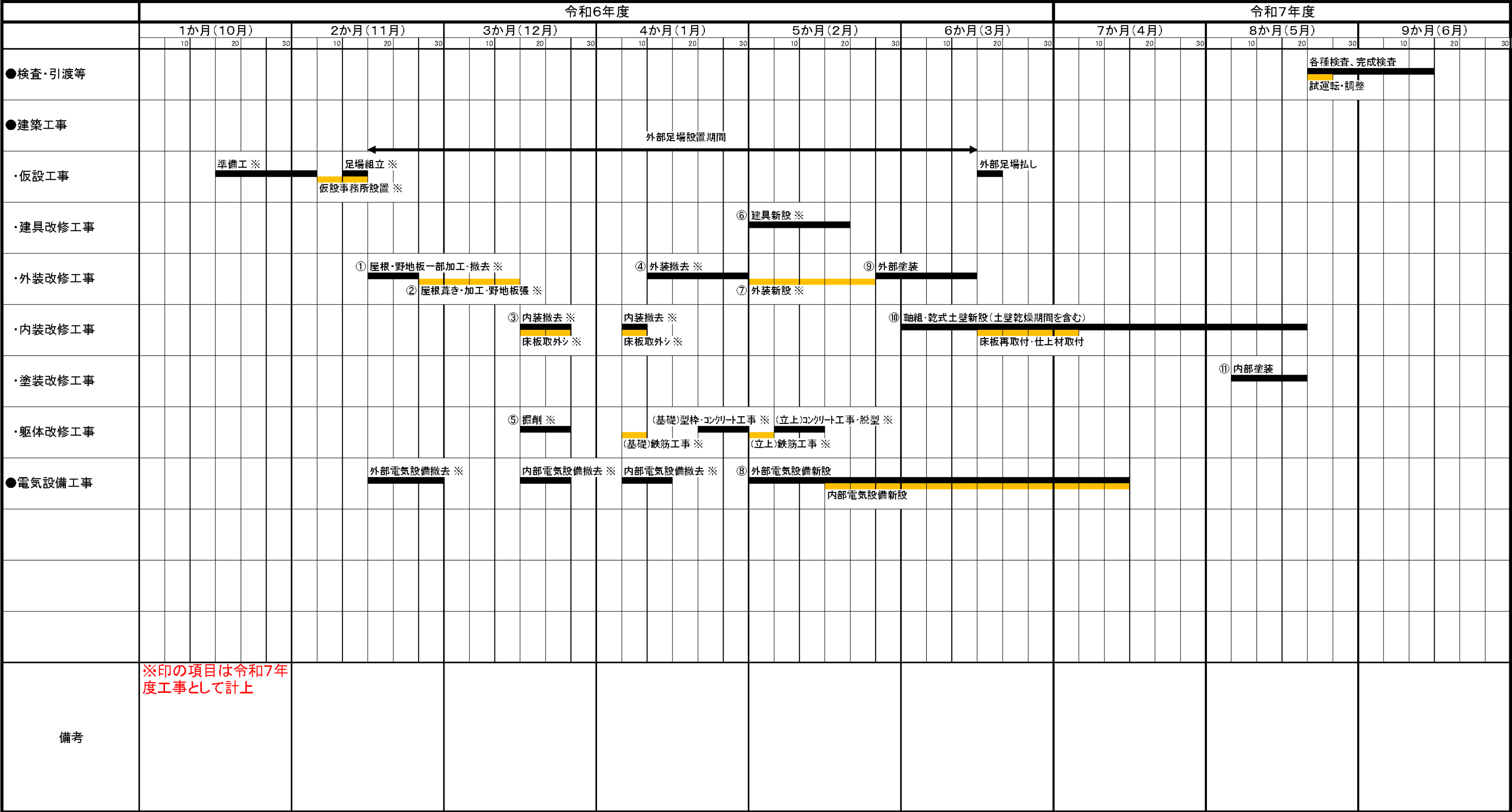
1/30

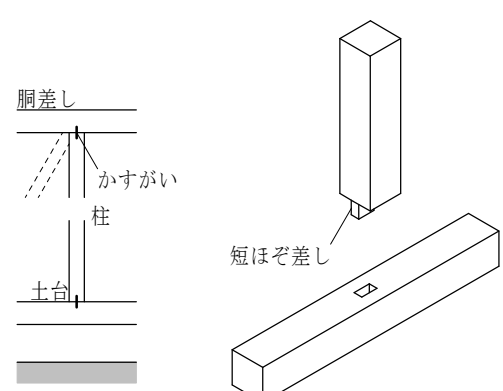
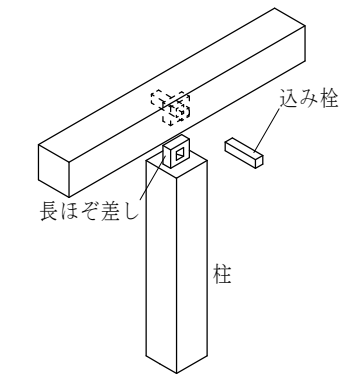
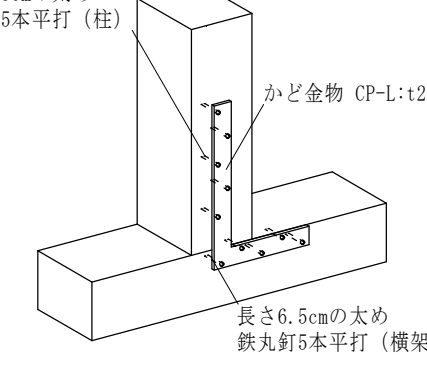
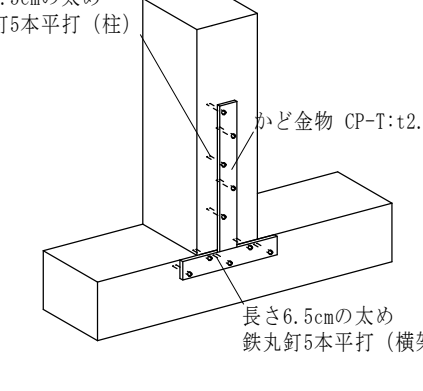
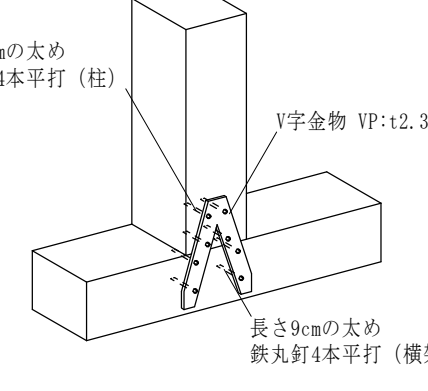
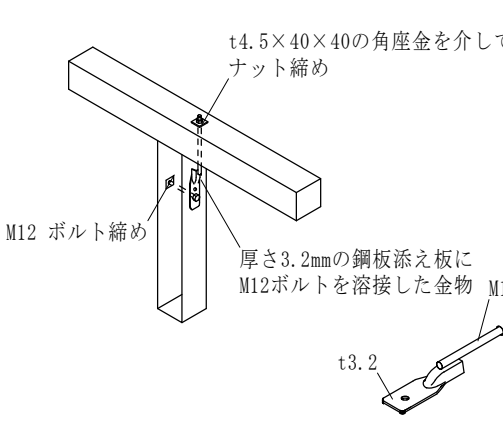
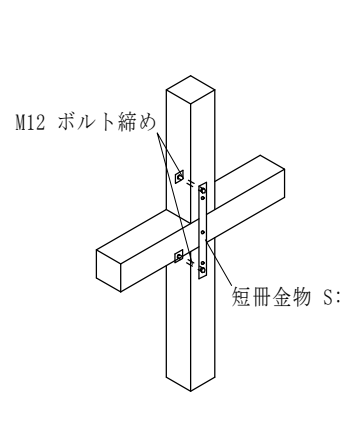
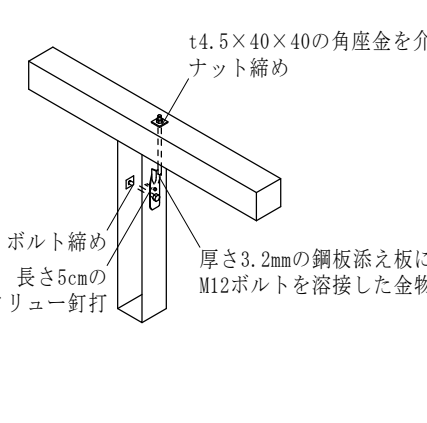
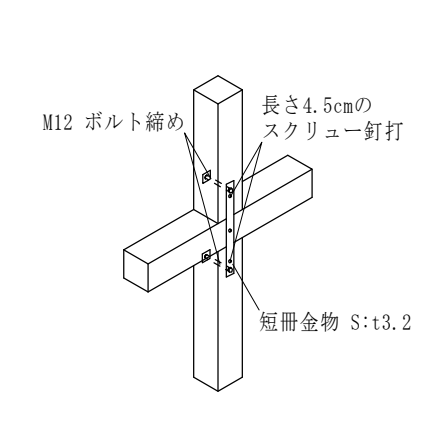
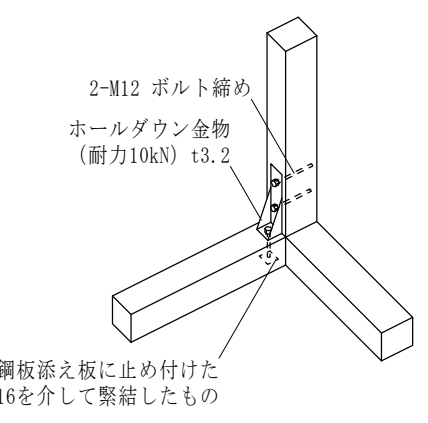
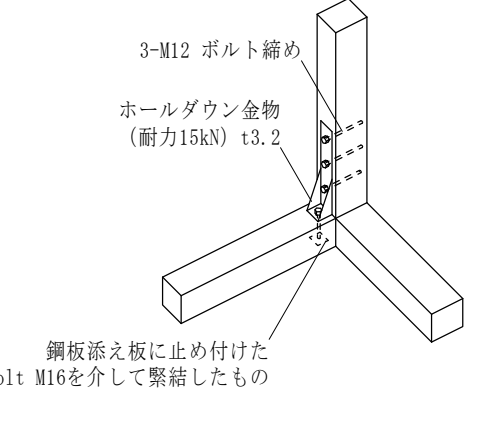
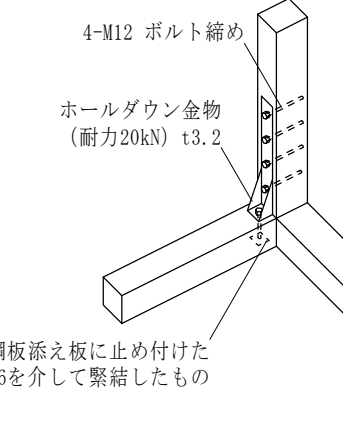
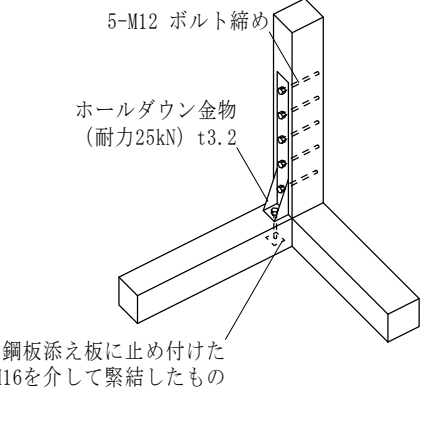
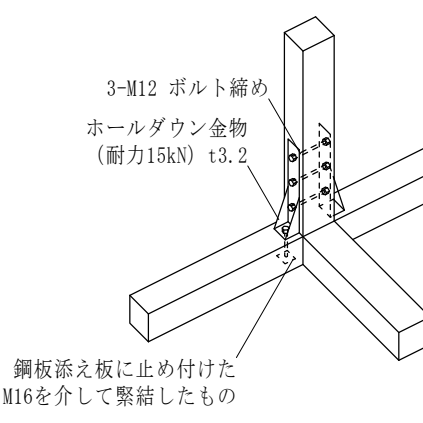
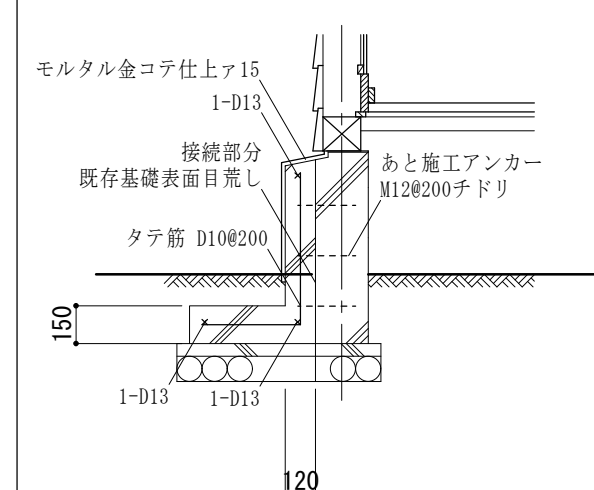
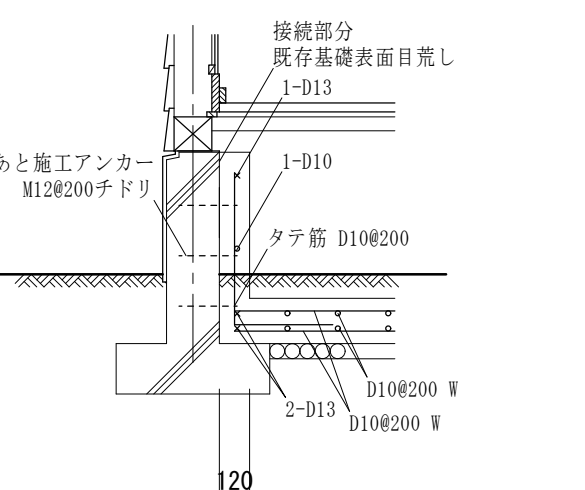
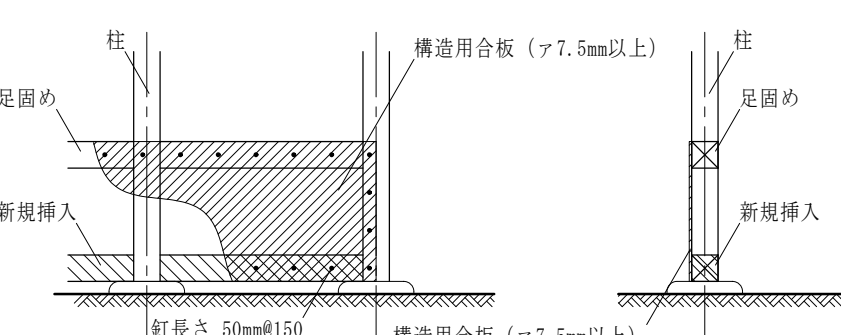
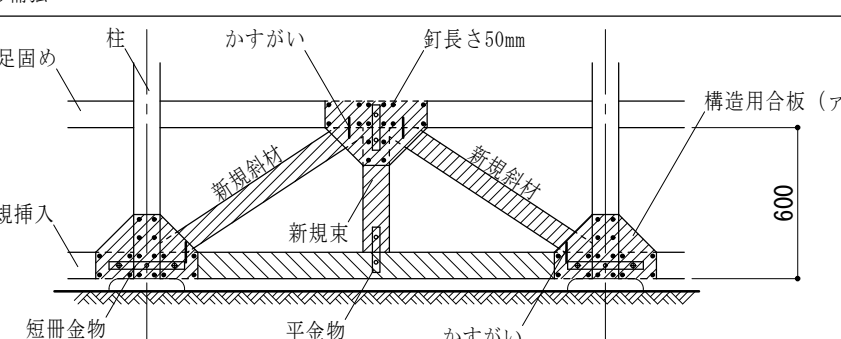


各部詳細図No.3

<div><div>5 D</div><div>ぶどう棚 詳細図</div><div>1/20、1/50</div></div> <div><p>断面図 1/20</p><p>平面図 1/50</p></div>	<div><div>6 D</div><div>カーテンボックス A 詳細図</div><div>1/20</div></div> <div><p>カーテンボックス A 詳細図 1/20</p></div> <div><div>7 D</div><div>カーテンボックス B 詳細図</div><div>1/20</div></div> <div><p>カーテンボックス B 詳細図 1/20</p></div>	<div><div>8 D</div><div>通気口 詳細図</div><div>1/20</div></div> <div><p>通気口 詳細図 1/20</p></div>
<div><div>9 D</div><div>雨水枡 詳細図</div><div>1/20</div></div> <div><p>雨水枡 詳細図 1/20</p></div>	<div><div>10 D</div><div>アスファルト舗装 詳細図</div><div>1/20</div></div> <div><p>アスファルト舗装 詳細図 1/20</p></div>	<div><div>11 D</div><div>目隠シルーバー 詳細図</div><div></div></div> <div><p>目隠シルーバー 詳細図</p></div>

◆安乗人形芝居舞台 概略工程表



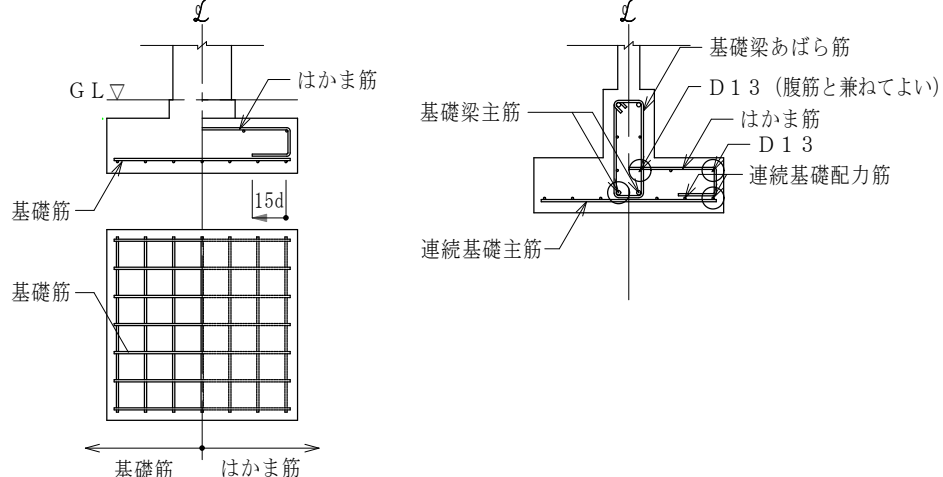
木構造耐震補強工事特記仕様書		§ 4 接合補強金物標準図													
§ 1 一般事項		特記：使用する金物類は、建告第1460号に該当する、日本住宅・木材技術センターのZ金物相当品とする 下図は告示による表記であり、メーカー仕様による該当品の使用も可である													
①	使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。	い	・短ほぞ差し、かすがい打ち	ろ	・長ほぞ差し込み栓打ち		・かど金物（CP-L）	は	・かど金物（CP-T）		・山形プレート（VP）				
②	設計図書の優先順位は下記による。 1）本特記仕様書 2）設計図 3）標準図 4）仕様書 5）・木造住宅の耐震診断と補強方法2012年版 6）日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6		短期許容耐力 1.62 kN		短期許容耐力 3.81 kN（暫定数値）		短期許容耐力 3.38 kN		短期許容耐力 5.07 kN		短期許容耐力 5.88 kN				
③	既存構造、補強計算方法 1）構造 2）既存基礎 3）計算														
		こ	・羽子板ボルト／スクリー釘なし（SB-F2、SB-E2）		・短冊金物・スクリー釘なし（S）		ほ	・羽子板ボルト／スクリー釘あり（SB-F、SB-E）		へ	・引き寄せ金物（HD-B10、S-HD10）				
			短期許容耐力 7.50 kN		短期許容耐力 7.50 kN		短期許容耐力 8.50 kN		短期許容耐力 8.50 kN		短期許容耐力 10.0 kN				
															
		と	・引き寄せ金物（HD-B15、S-HD15）		ち	・引き寄せ金物（HD-B20、S-HD20）		り	・引き寄せ金物（HD-B25、S-HD25）		ぬ	・引き寄せ金物（HD-B15、S-HD15）×2個			
			短期許容耐力 15.0 kN		短期許容耐力 20.0 kN		短期許容耐力 25.0 kN		短期許容耐力 30.0 kN						
															
§ 2 工事計画		§ 5 基礎補強標準図													
①	本工事は、既存の木造構造体に対して部材を補修または増設することによって耐震性の向上及び構造の改善を図るもので、既存構造体との接合が極めて重要である。また、この施工は限られた場所で行われるもので、一般の建築工事とは施工方法等相当異なる面がある。よって、設計の趣旨及び最終的な建物の状態を十分理解した上で工法を選び、施工計画をたてなければならない。 特に次の点に十分注意すること。 a）構造体寸法、階高寸法その他は実測による。 b）適切な接合金物を選択する。 c）既存構造体の金物締直しを行う。 d）騒音、粉塵及び汚染などの支障を及ぼす範囲をできるだけ小さくする。 e）仕上及びコンクリート等の撤去に際しては、最小限必要な範囲とし、残りの部分を傷めないように十分注意する。また、腐朽部分は取り替える。 f）既存配管、配線及び器具等を十分に調査し、損傷を与えないように注意すること。 g）施工に先立ち全行程の施工計画書を作成し、監督員及び監理者に承認を得ること。 試験を伴う場合は、試験方法、及び結果報告書を遅滞なく行うこと。なお、施工計画書は工事種目別ごとに作成すること。 工事項目は下記による。 ・耐力壁設置【筋かい】（・外壁面 ・内壁面） ・耐力壁設置【面材】（・外壁面 ・内壁面） ○耐力壁設置【・鉄骨 ○乾式土壁】（・外壁面 ○内壁面） ・金物取付（・柱梁接合部 ・筋かい端部） ・金物締直し ・屋根面補強（・筋かい補強 ・合板補強） ○小屋面補強（・筋かい補強 ○合板補強） ・2階床面補強 ・1階床下補強 ○基礎補強 ・地盤補強 ・腐朽部分取替 ・屋根葺土撤去 上記工事に伴う撤去・修復等工事 ○真壁補修 ○有（○土壁補修 ・モルタル補修） ・無 ※無しの場合、真壁の耐力は考慮しない。	○全面（鉄筋コンクリート基礎に該当） ・部分（クラック補修）													
	既設筋かいの端部補強の方法 ○使用する金物類は、建告第1460号1号に該当する、日本住宅・木材技術センターのZ金物相当品とする。メーカー仕様による該当品の使用も可である 既設筋かいの壁倍率 ・壁倍率1.5倍（30×90以上の木材） ・壁倍率2.0倍（45×90以上の木材） ・壁倍率3.0倍（90×90以上の木材）	使用材料等 A 基礎 ○直接基礎 ・独立基礎 ○布基礎 ・ベタ基礎 ・地耐力 ・RC ・PHC ・杭基礎 ・杭耐力 B 鉄筋 ○SD295（D16以下） ・SD345（D19以上） ・ C コンクリート ○Fc=24 N/mm² D あと施工アンカー ○接着系アンカー（ピッチ、径、埋込長さは詳細図による） ・金属系アンカー E その他		・布基礎補強		・べた基礎補強		床下補強標準図（基礎がない場合） ・面材による補強							
②	図面と仕様書との内容に相違があった場合や不明な箇所が生じた場合は、すべて監督員との協議によるものとする。														
③	次の写真は工事記録として残すこと。 （1）解体時及び解体完了時の主要構造部。 （2）改修箇所の改修前、改修中、改修後 （3）脱着機器等の前、後					・斜材による補強									
④	構造材の含水率は下記の値以下とする。 ・1.5% ○2.0% ・（ ）% 工事現場における含水率の測定は、搬入後建方前とし、内容は以下の通りとする。 （1）測定は、高周波水分計又は電気抵抗式水分計による。 （2）測定箇所は、1本の製材の異なる2面について、両木口から300mm以上離れた2か所及び中央部1か所とし、計6か所とする。 （3）含水率は、6か所の平均値とする。 （4）含水率測定結果の判定は、平均値が所定の含水率以下の場合を合格とする。														
§ 3 特別な材料及び工法															
①	特別な材料 ○別添図面に示す ・なし 特別な工法 ○別添図面に示す ・なし														
特記事項		一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝		代表設計者 一級建築士 第360917号 前野 将輝		設計担当 一級建築士 第320204号 前田 祐作		設計担当		設計担当		法適合確認	作図 計 認 図 検 図 認 監 理	工事名称 令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事 図面名称 木構造耐震補強工事特記仕様書 縮尺 A2: NS A3: NS	設計日 R07/03/19 図面番号 S003 (原図: A2)

3-1 基礎の配筋及び杭頭補強の方法

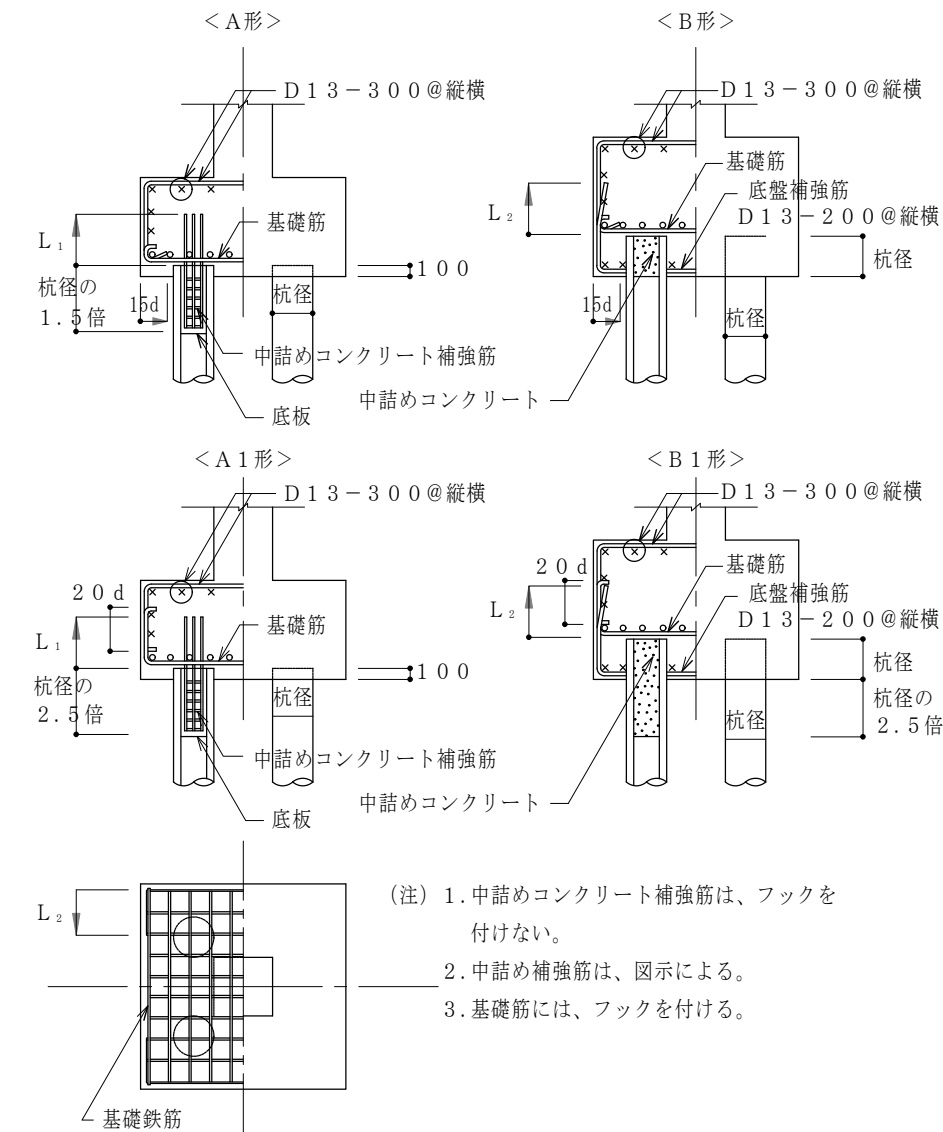
直接基礎の場合の配筋は下図による。

(a) 獨立基礎

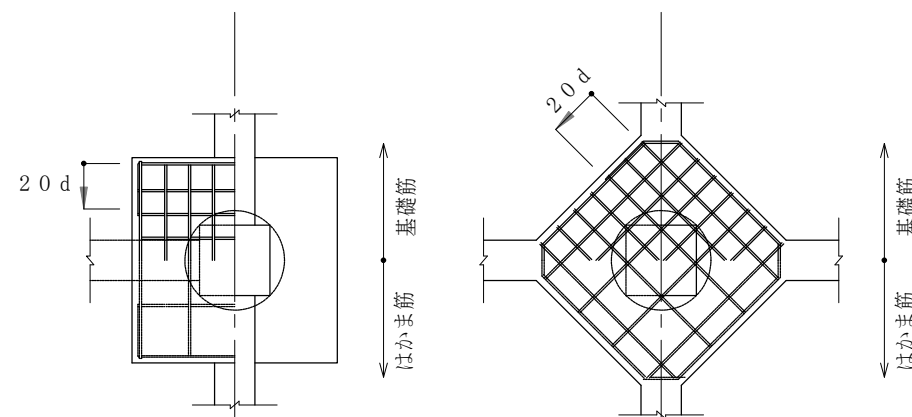
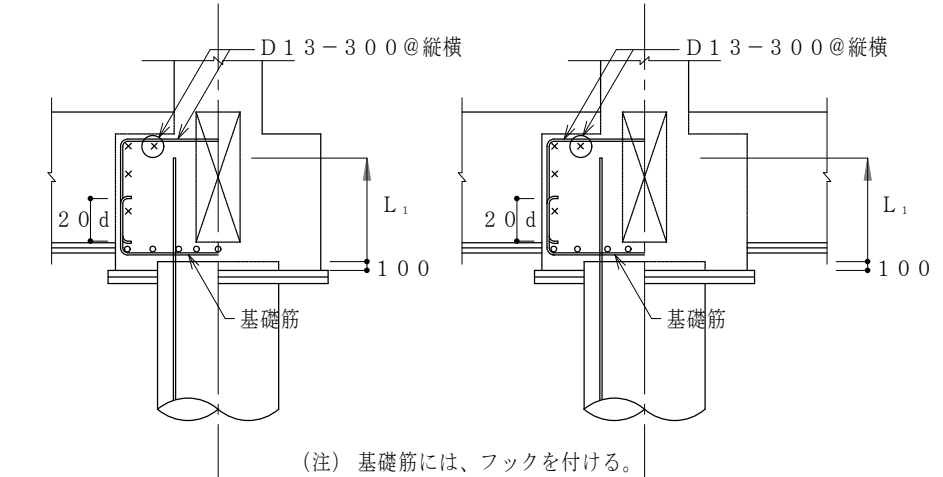
(b) 連續基礎



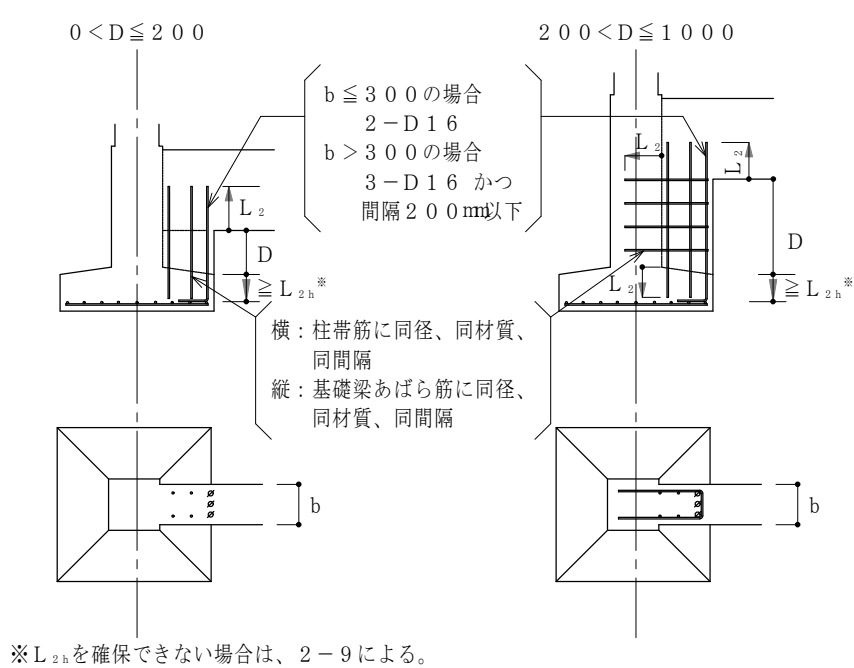
既製コンクリート杭の杭頭補強の方法は、下図の A 形、B 形又は、A 1 形又は B 1 形とし、適用は特記による。なお、中詰めコンクリートは基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。



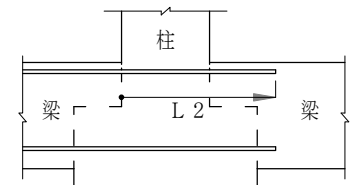
場所打ち杭基礎の配筋は、下図による。



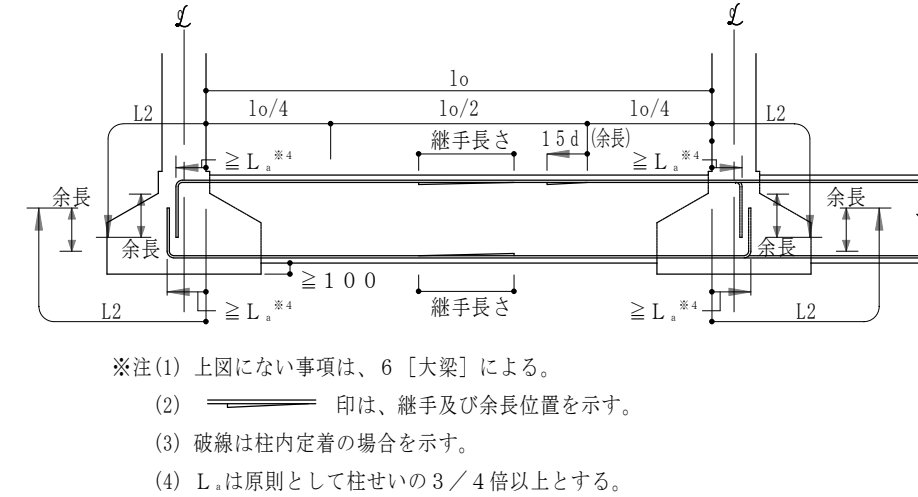
基礎接合部の補強配筋は下図による。



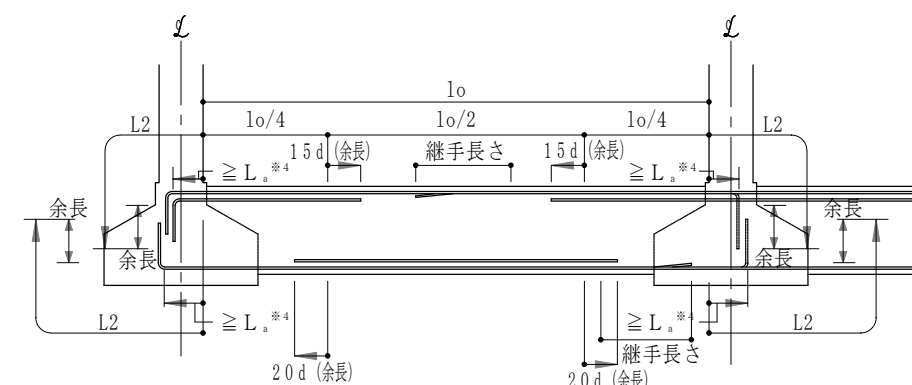
- (a) 上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。
- (b) 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
- (c) 梁筋を柱内に定着する場合は、柱の中心軸を越えてから定着させる。




4-2-1 基礎梁にスラブがつかない独立基礎
基礎梁にスラブがつかない独立基礎の場合は下図による。



基礎梁にスラブがつく独立基礎の場合は下図による。
ただし、耐圧スラブがつく場合は、4-2-3による。



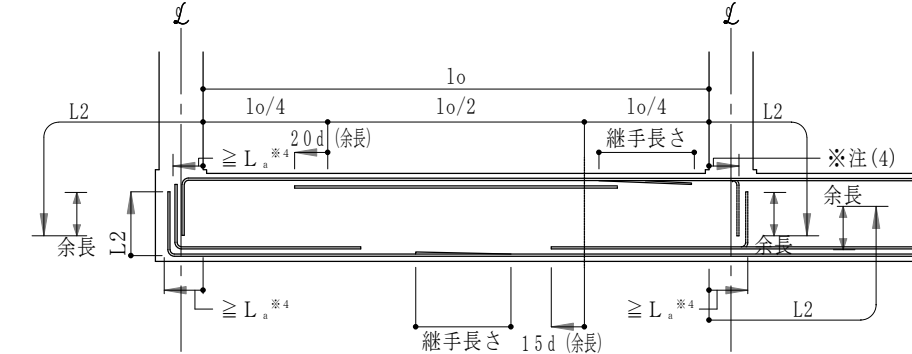
※注(1) 上図にない事項は、6 [大梁] による。

(2)  印は、継手及び余長位置を示す。


(3) 破線は柱内定着の場合を示す。

(4) L_s は原則として柱せいの $3/4$ 倍以上とする。

連続基礎及びべた基礎の場合は下図による。



※注(1) 上図にない事項は、6 [大梁] による。

(2)  印は、継手及び余長位置を示す。

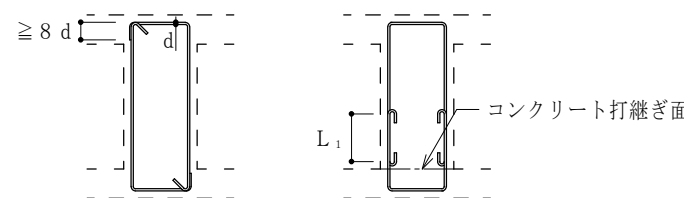
(3) 破線は柱内定着の場合を示す。

(4) L_p は原則として柱せいの $3/4$ 倍以上とする。

4-3-1 あぼら筋

(a) あばら筋の径及び間隔は図示による。

(b) あばら筋組立ての形及びフックの位置は、6-4による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ梁せいが1.5 m以上の場合は下図によることができる。



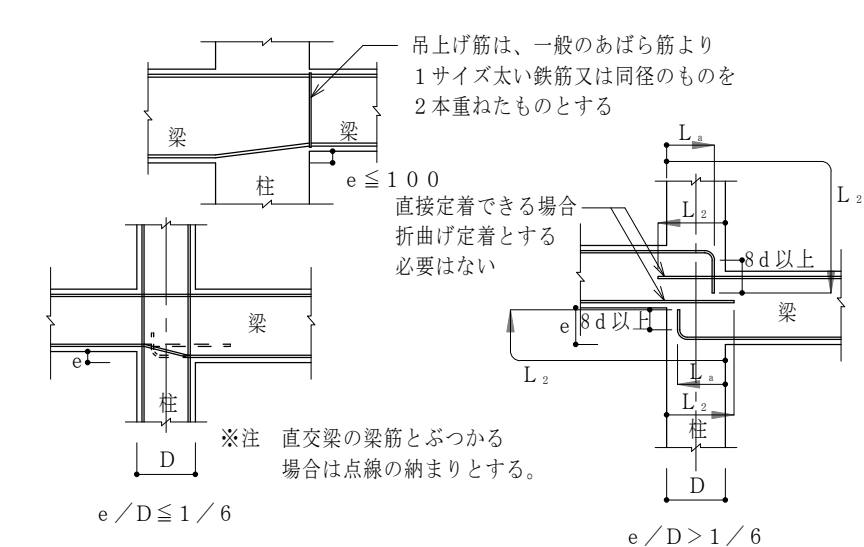
あばら筋の割り付けは、4-6による。

4-3-3 腹筋及び巾止め筋

腹筋及び巾止め筋は、4-5及び4-6による。ただし、梁せいが1.5mを超える場合は特記による。

(a) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は、特記による。特記がなければ、1 : 4 とする。

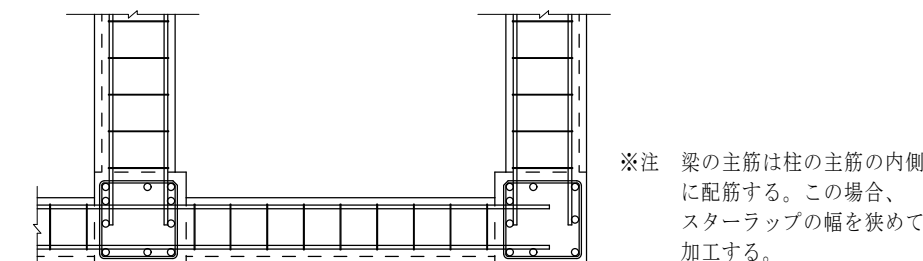
(b) 段違い梁は、監督職員の承諾を受けて、下図によることができる。



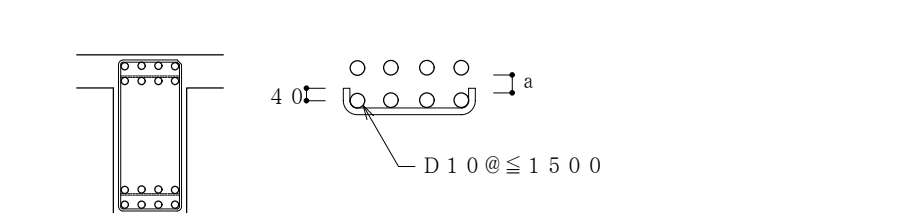
(c) 柱と梁側面が同一の場合の配筋は下図による。

ただし、梁のフカシが発生する場合、フカシ量については設計図による。

設計図にない場合は、監督職員と協議する。

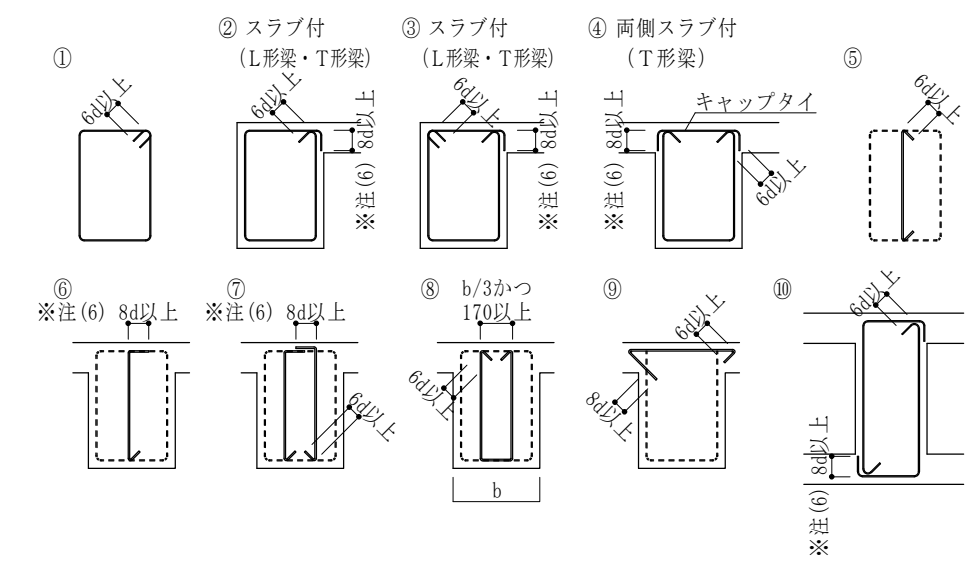


(f) 2 段筋のスペーサーは下図による。



※注 a は 1.5 d かつ粗骨材の最大寸法の 1.25 倍かつ 25 mm の最大のものとする。

(a) あばら筋（副あばら筋を含む）の組立ての形及びフックの位置については下図の通りとする。



(1) 図⑪は梁せいの大きい場合とする。

(2) ⑩⑪は梁せいの大きい場合とする。

(3) ⑨はピッチ $2p$ で交互配置とする。

(4) 溶接継手は5-2「帯筋」を参照とする。

(5) ⑩は、溶接継手又は重ね継手のどちらかとする。

(6) 柱面より梁せい $1.5D$ の範囲内、 180° 又は 135° フックとする。

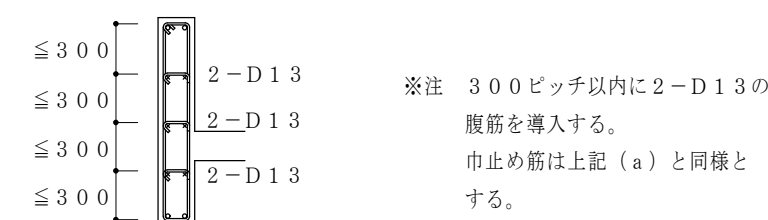
(b) フックの位置は、①の場合は交互とし、②の場合はL形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、③の場合は、スラブの付く側を90°折曲げとする。

4-6 補助筋

(a) 腹筋及び巾止め筋・その他補助筋は、設計図による。設計図に指示がない場合は下図の通りとする。

	腹筋	D < 600 不要
		600 ≤ D < 900 2-D10 (1段)
		900 ≤ D < 1200 4-D10 (2段)
		1200 ≤ D D10 @ 300以内
		巾止筋 D10 @ 1000以内で割り付ける。
	受筋	D10 @ 1000以内で割り付ける。

(b) 壁梁の場合の腹筋及び巾止め筋は、設計図による。設計図に指示がない場合は下図の通りとする。

[illegible]

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No.3

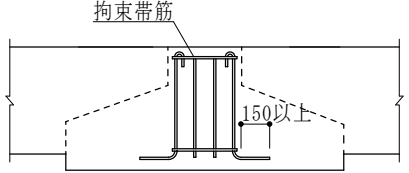
5-1 柱主筋の継手、定着及び余長

5-1-1 柱主筋の余長

柱主筋の定着及び余長は右図による。

※注(1) 2-5で定めた鉄筋には、フックをつける。

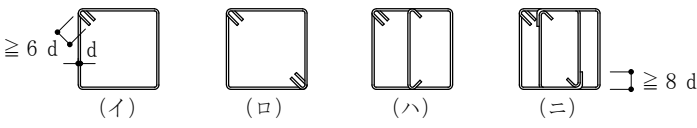
※注(2) 弾性固定柱脚（認定工法）を使用する際は、弾性固定柱脚標準図による。



5-2 帯筋

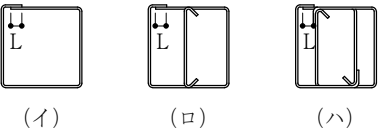
- (a) 帯筋の種類及び間隔は、図示による。
- (b) 帯筋組立ての形は、下図とし、適用は特記による。特記がなければ下記による。
- (1) H形を標準とする。
- (2) H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
- (3) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。フレア溶接要領は2-5〔溶接〕による。

I. H形



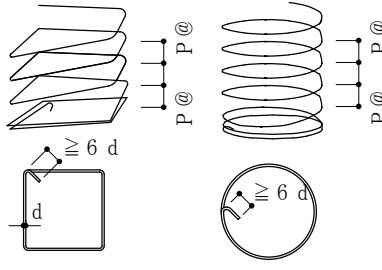
(イ) (ロ) (ハ) (ニ)

II. W-I形 (注) 溶接は、鉄筋の組立前に行う。



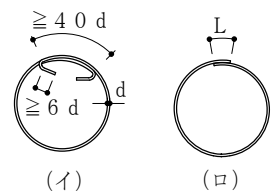
(イ) (ロ) (ハ)

III. S P形(スパイラル筋)



(イ) (ロ)

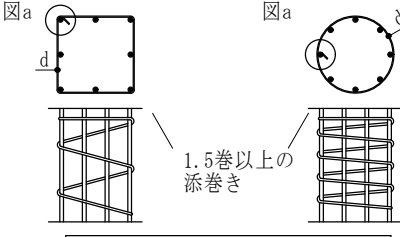
IV. 丸形



(イ) (ロ)

- ※注 S P形において柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻を行う。(d) 参照。
- (c) フック及び継手の位置は、交互とする。
- (d) スパイラル筋の末端処理及び継手は下記のとおりとする。
- (1) 末端は1.5巻以上の添巻をし、図aのフックをつける。
- (2) 重ね継手は重ね長さ50d以上とし、図a又は図bのフックをつける。

図a 図b

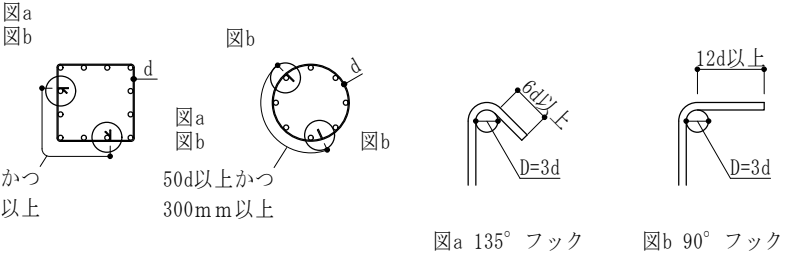


1: 片面溶接の場合 10d以上
両面溶接の場合 5d以上
ただしD16以下

スパイラル筋末端部（定着部）

溶接の場合

図a 図b



50d以上かつ 300mm以上

図a 図b

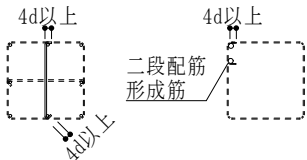
図a 135° フック 図b 90° フック

12d以上

D=3d

図a 135° フック 図b 90° フック

(e) 補助筋は下図の通りとする。



4d以上

二段配筋 形成筋

巾止め筋

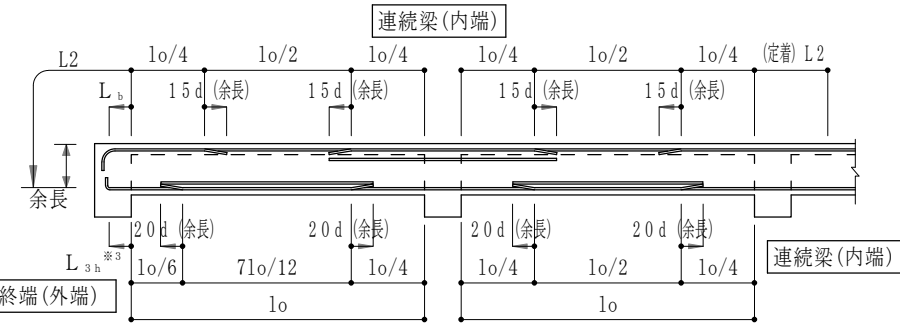
二段配筋の場合

※注 補助筋はD10をピッチ600以内割り付ける。

6-1 小梁主筋の継手、定着及び余長

7-1-1 連続小梁の場合

連続する小梁の継手、定着及び余長は下図による。



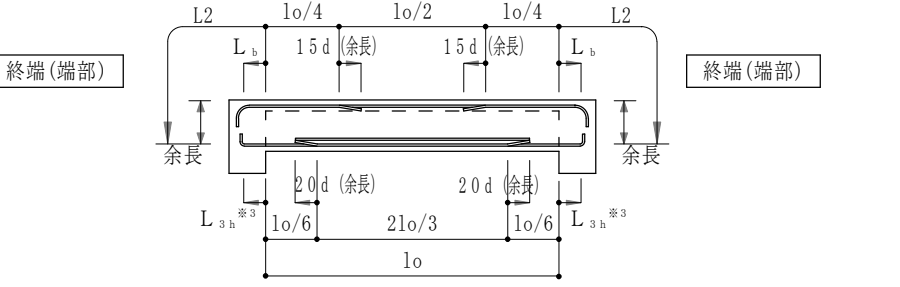
※注(1) 印は、余長位置を示す。

(2) 上図にない事項は、4〔基礎梁〕及び6〔大梁〕による。

(3) L_{3a}を確保できない場合は、2-9による。

7-1-2 梁の端部で間隔の異なる場合

梁の端部で間隔の異なる小梁の継手、定着及び余長は下図による。

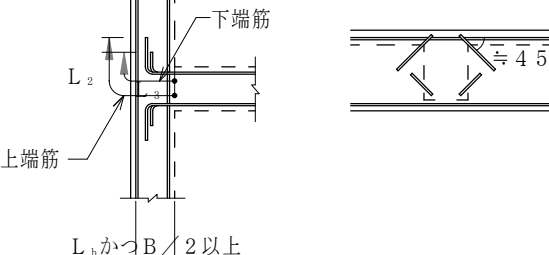


※注(1) 印は、余長位置を示す。

(2) 上図にない事項は、4〔基礎梁〕及び6〔大梁〕による。

(3) L_{3a}を確保できない場合は、2-9による。

<直交する梁への定着>



※注(1) 印は、余長位置を示す。

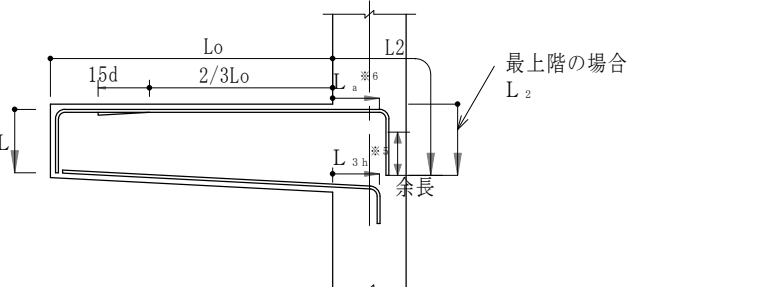
(2) 上図にない事項は、4〔基礎梁〕及び6〔大梁〕による。

(3) L_{3a}を確保できない場合は、2-9による。

6-2 片持ち梁主筋の定着及び余長

7-2-1 先端に小梁のない場合

先端に小梁のない片持ち梁筋の定着及び余長は下図による。



※注(1) 上図にない事項は、6〔大梁〕による。

(2) 印は、余長位置を示す。

(3) 先端の折曲げの長さLは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。

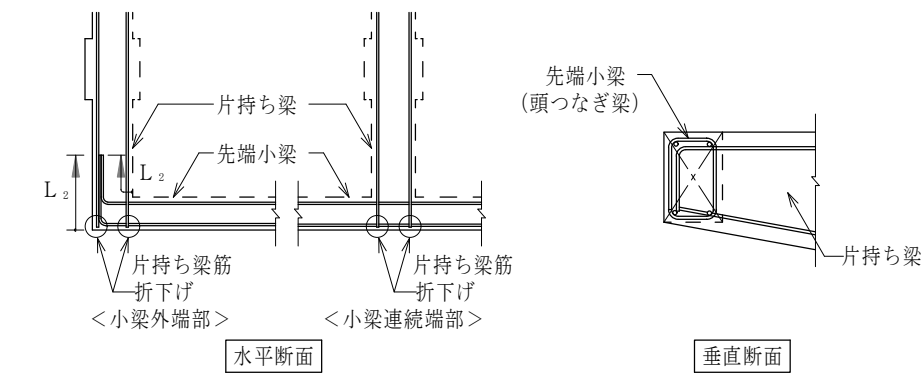
(4) 最上階は通し配筋として、隣接する梁へ定着する場合は設計図の特記による。その場合、柱頭部に拘束筋を配筋する。

(5) L_{3a}を確保できない場合は、2-9による。

(6) Lは原則として柱せいの3/4倍以上とする。

7-2-2 先端に小梁のある場合

先端に小梁のある片持ち梁筋の定着は下図による。

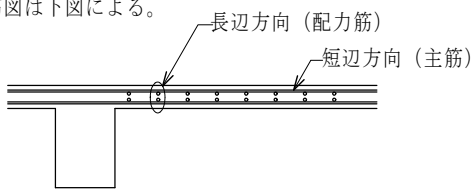


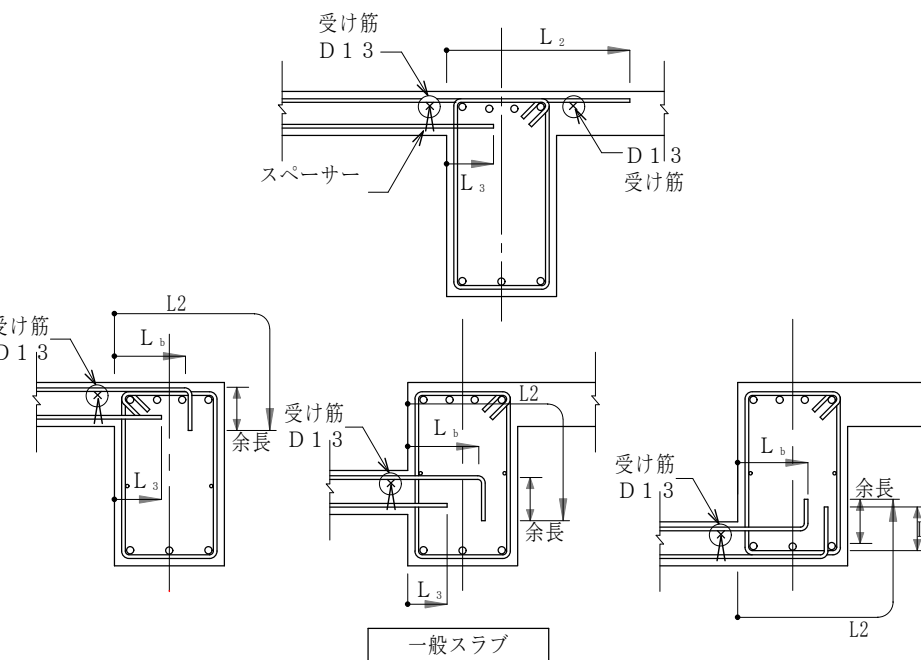
※注(1) 上図にない事項は、前項7-2-1による。

(2) 先端小梁終端部の主筋は、片持ち梁内に水平定着する。

(3) 先端小梁の連続端は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

7-1 スラブの配筋（一般事項）

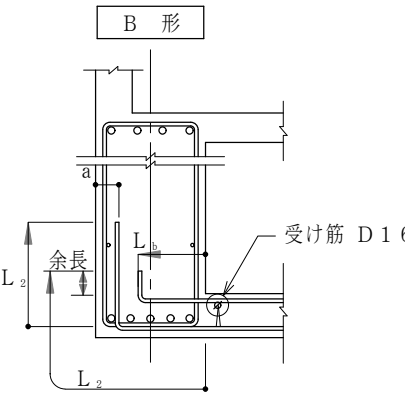
- (a) スラブの配筋は設計図による。
- (b) スラブの基準配筋図は下図による。
- 
- (c) 配筋は中央から割付け、端部は定められた間隔以下とする。
- (d) 重ね継手長さは、L1とする。
- (e) 定着長さ及び受け筋は、下図（上段）による。ただし、引き通すことができない場合は、下図（下段）により、梁内に定着する。なお、片持ちスラブの場合は9-4による。



一般スラブ

7-2 耐圧スラブの配筋

9-2-1 最終端

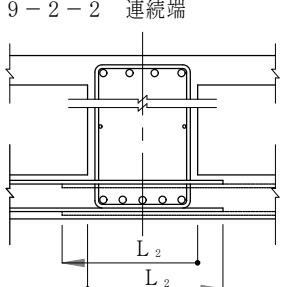


※注(1) 上端筋は基礎梁面より定着長さをとるか、引き通し配筋とする。

下端筋は連続して引き通すか、または基礎梁コンクリート面より定着長さをとる。

(2) 基礎梁幅が大きく、左右のスラブ筋の定着長さが十分でも、基礎梁下のスラブ筋の1/2以上は連続させる。

9-2-2 連続端



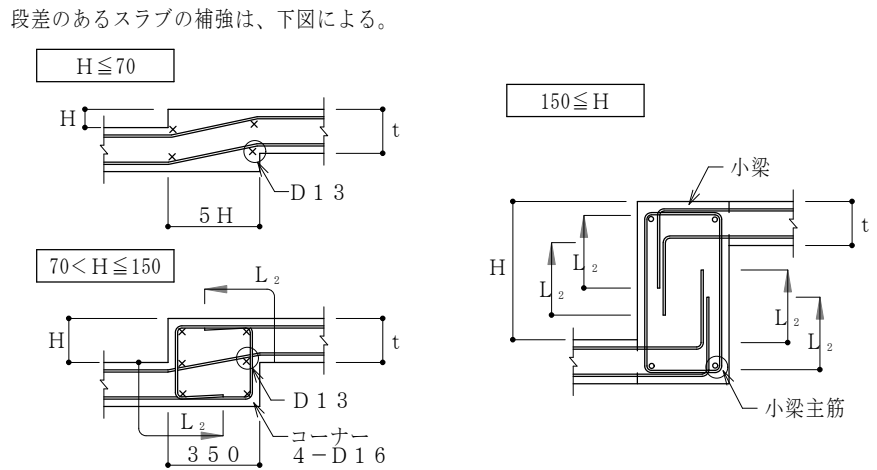
※注(1) 上端筋は基礎梁面より定着長さをとるか、引き通し配筋とする。

下端筋は連続して引き通すか、または基礎梁コンクリート面より定着長さをとる。

(2) 基礎梁幅が大きく、左右のスラブ筋の定着長さが十分でも、基礎梁下のスラブ筋の1/2以上は連続させる。

7-3 段差のあるスラブの補強

段差のあるスラブの補強は、下図による。



H ≤ 70

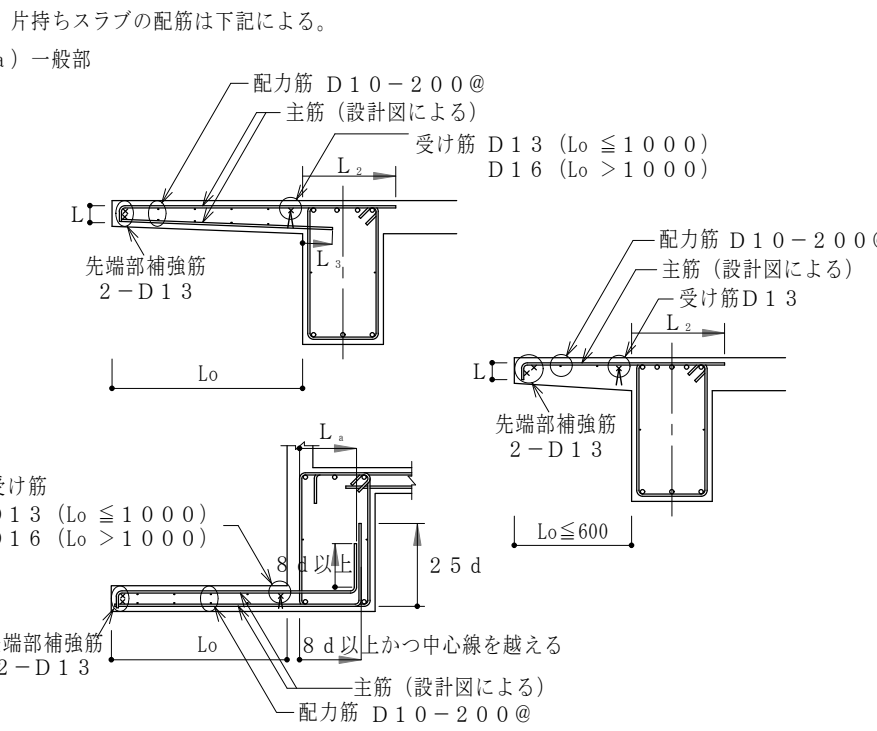
150 ≤ H

70 < H ≤ 150

7-4 片持ちスラブの配筋

片持ちスラブの配筋は下記による。

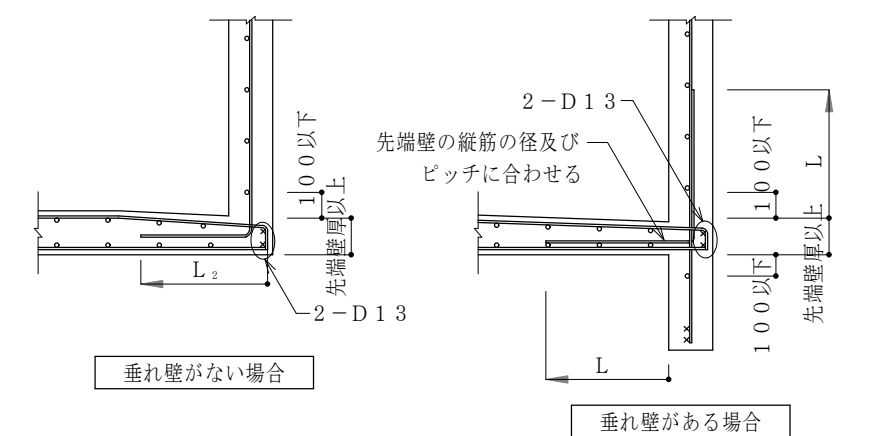
(a) 一般部



※注(1) 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

(2) スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着長さとする。

(b) 先端に壁が付く場合



垂れ壁がない場合

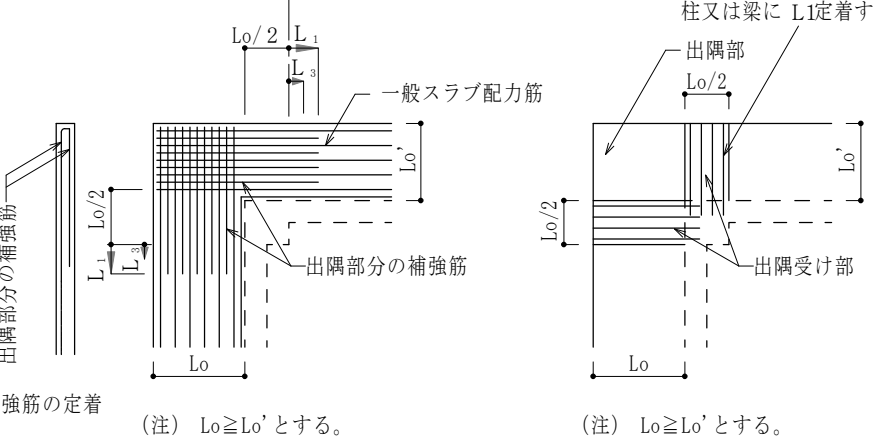
垂れ壁がある場合

(c) 出隅部

(1) 補強の配筋は図示による。図示がなければD10@100ダブルとする。

配筋方法は、下図による。

(2) 出隅受け部（下図のハッチ部分）の配筋は図示による。



出隅部分の補強筋

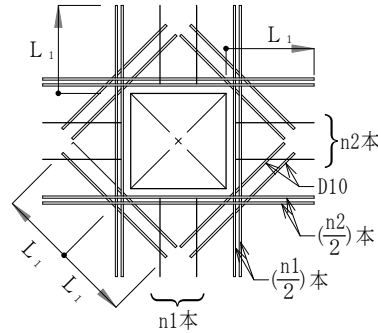
出隅部分補強配筋

出隅受け部補強筋

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No.4

7-5 スラブ開口部の補強

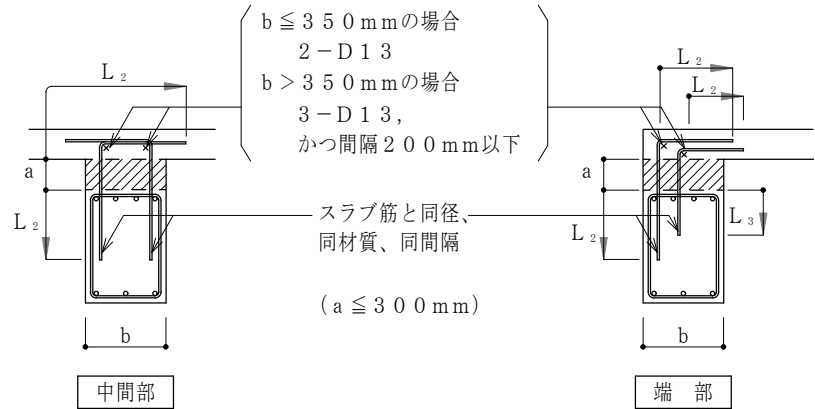
スラブ開口部の補強は図示による。図示がなければ下記による。
(a) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、下図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (L=2L₁) シングルを上下筋の内側に配筋する。



(b) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

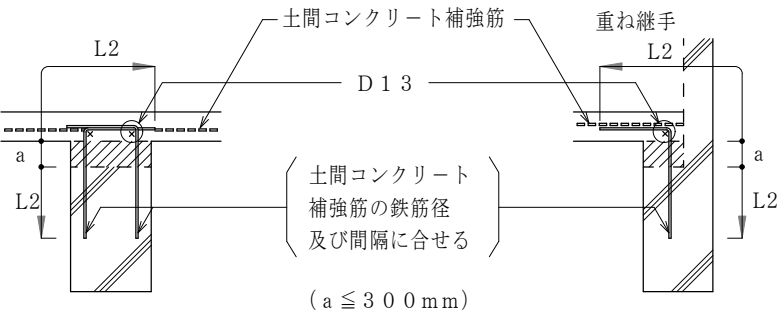
7-6 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、下記による。ただし、土間スラブとは、土 (捨てコンクリート等の場合を含む) に接する構造スラブをいう。

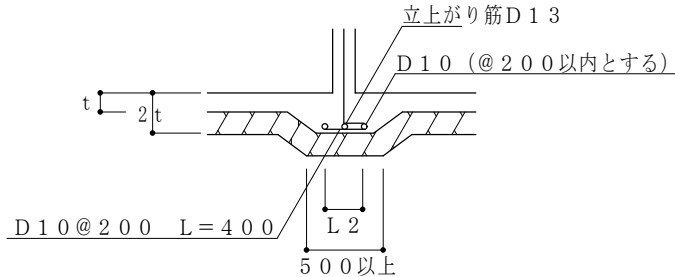


7-7 土間コンクリートの補強筋

(a) 土間コンクリートの補強筋 (土間配筋) は設計図による。
(b) 基礎梁との接合部は下図による。

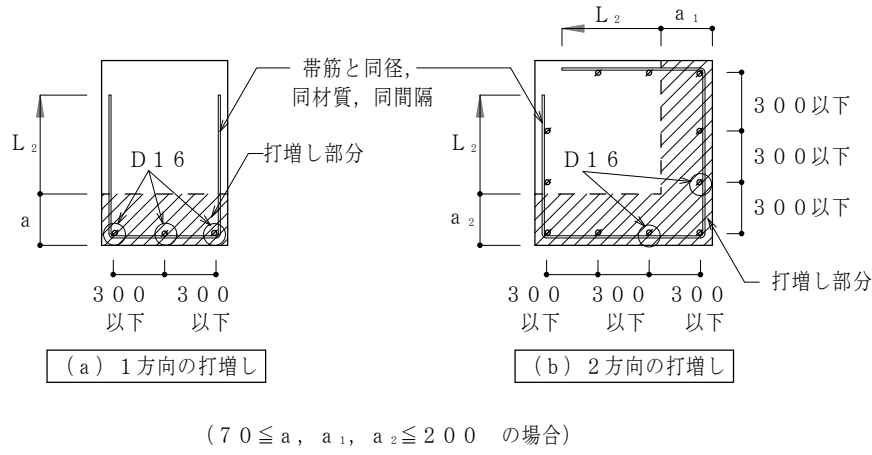


(c) 雑壁下に基礎梁 (基礎小梁を含む) がいない場合、特記なき限りは下図による。



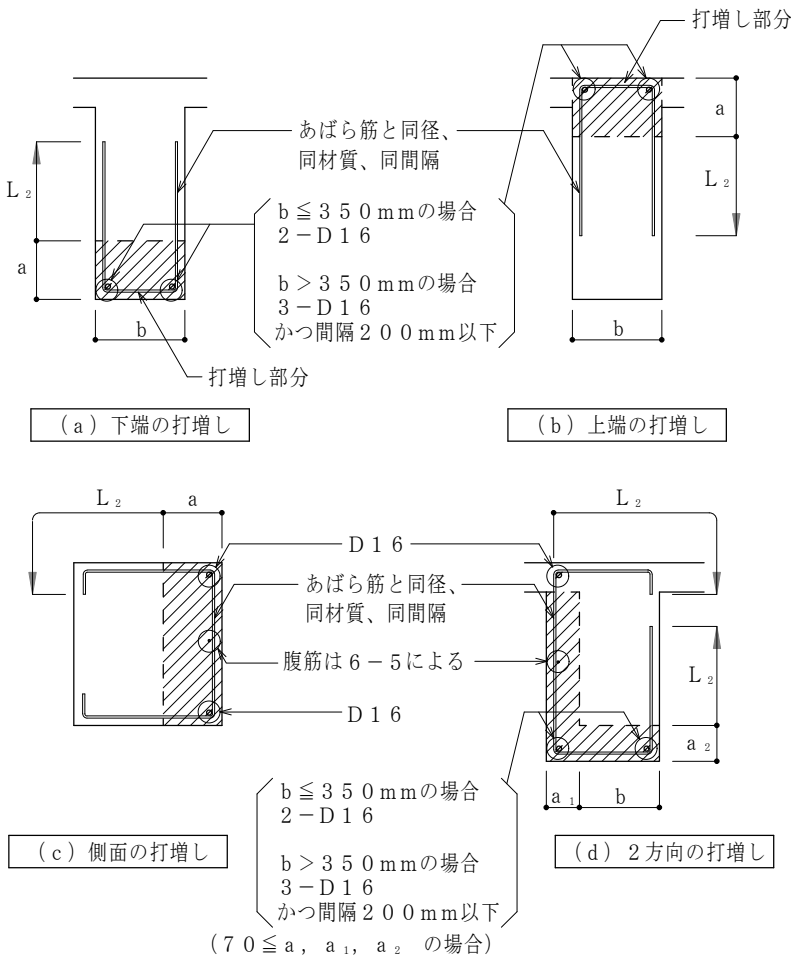
8-1 柱の打増し補強

柱の打増し補強は、下図により、打増し幅が70mm以上の場合に適用する。なお、梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



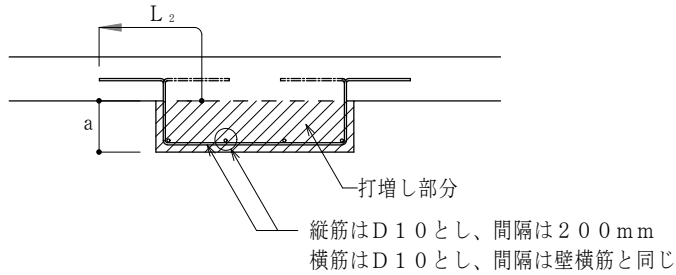
8-2 梁の打増し補強

梁の打増し補強は、下図により、打増し幅が70mm以上の場合に適用する。なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



8-3 壁の打増し補強

壁の打増し補強配筋は下図により、打増し厚さaが50mm以上に適用する。



9 コンクリートブロック帳壁

9-1-1 一般事項

- (a) 主筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、構造体に定着する。なお、主筋には継手を設けてはならない。ただし、両面5d以上又は片面10d以上のアーク溶接を行う場合は、継手を設けることができる。
- (b) 壁横筋は、壁端部縦筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の横筋に重ね継手とする。
- (c) 壁鉄筋の重ね継手長さは40dとし、定着長さは下記による。
- (1) 帳壁配力筋の構造体部分への定着長さは25dとする。ただし、保員の承諾を受けて、あと施工アンカーとすることができる。
- (2) (1)以外の定着長さは40dとする。
- (d) ブロック積みのスパン及び高さは、下記による。

ブロック厚さ	スパン及び高さ
100	2500
150	3500

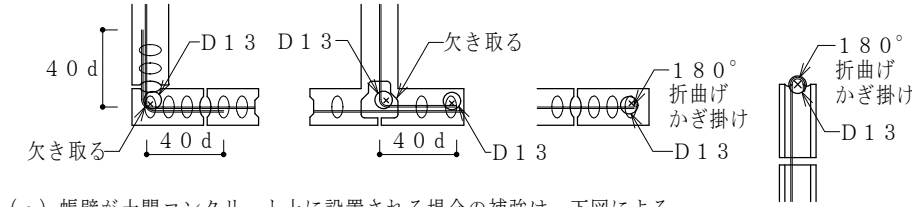
9-1-2 各部の配筋

(a) 壁の配筋は設計図による。ただし、設計図に指示がなければ下表による。

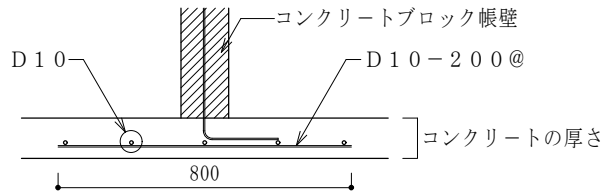
<壁の配筋>

縦筋	横筋	開口補強筋 (縦横筋)	端部補強筋
D10@400	D10@400	1-D13	1-D13

(b) 帳壁の交差部、端部 (開口部) の配筋は、下図による。

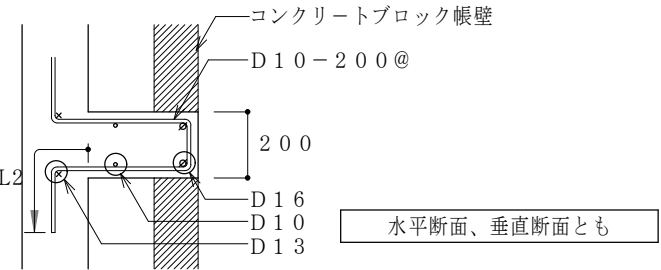


(c) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。



(d) コンクリートブロック帳壁との取合い

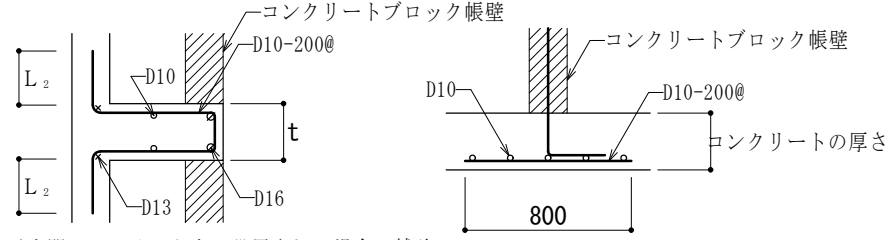
- (1) 控壁の配置は、設計図による。
- (2) 配筋は、下図による。



10 コンクリートブロック帳壁との取合い

(a) 控壁の配筋

控壁の配筋は、水平、垂直とも左下図による。

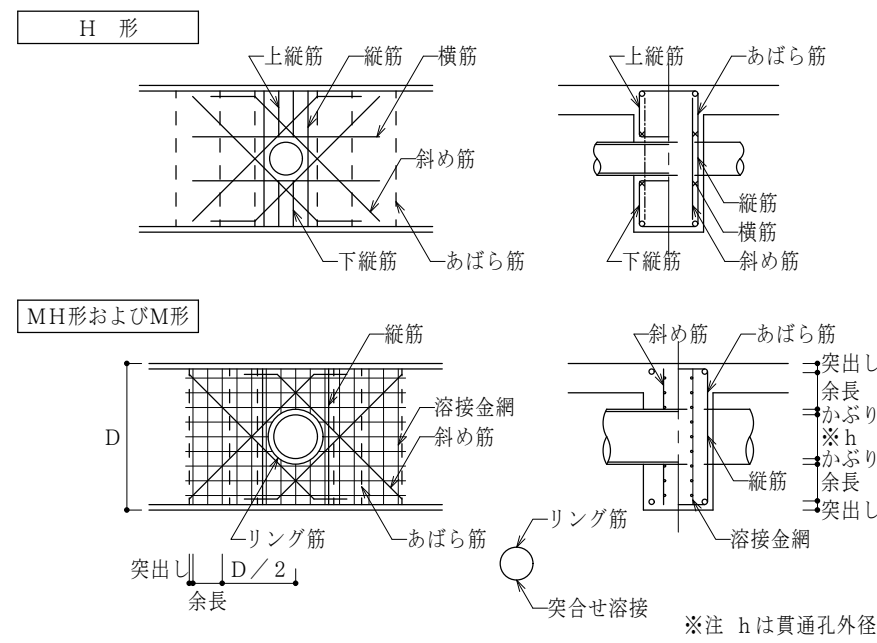


(b) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強

帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は右上図による。

11-1 梁貫通孔の補強 (一般事項)

(a) 梁貫通孔の補強は下記による。梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。

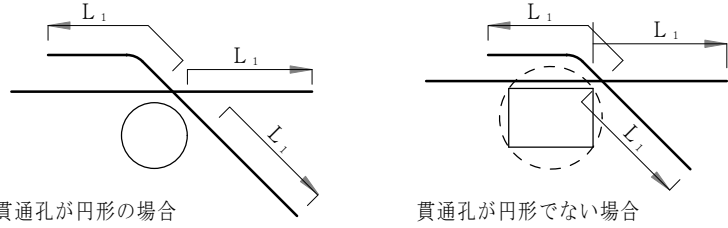


(b) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。

(c) 孔の上下方向の位置は梁せいの中心付近とし、梁中央部が端は梁下端より1/3Dの範囲には設けてはならない。

(d) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。但し、基礎梁及び壁付帯梁は除く。

- (e) 孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (f) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (g) 補強筋は主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。



(h) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略する。

(i) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。

(j) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。

なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。

(k) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

(1) その他、高強度梁貫通補強筋を使用する場合は、大臣認定または日本建築センターの技術審査証明を受けた工法とすること。

15-2 補強の形式と種類

補強形式は下表により、配筋種別は設計図 (または、下表) による。

15-2-1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

※注 - - - は一般部分のあばら筋を示す。

15-2-2 M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	リング	配筋図
M1	2-2-D13	なし	なし	
M2	4-2-D13			
M3	4-2-D13	2-6φ@100	13φ	
M4	6-2-D13			

※注 - - - は一般部分のあばら筋を示す。

15-2-3 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リング	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH2		2-2-D13			
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ@100	13φ	
MH4	4-2-D13				
MH5	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ@100	13φ	
MH6	4-2-D16				
MH7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ@100	13φ	
MH8	4-2-D19				

15-2-4 補強配筋種別と使用部位・数量

階	梁記号	スリーブ外径	補強配筋種別	スリーブ材質	数量
※	使用部位、スリーブ外径、数量	は設計図による。	補強配筋種別は、大臣認定または日本建築センターを受けた		
			高強度梁貫通補強筋を使用するものとする。		

特記事項	

一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号

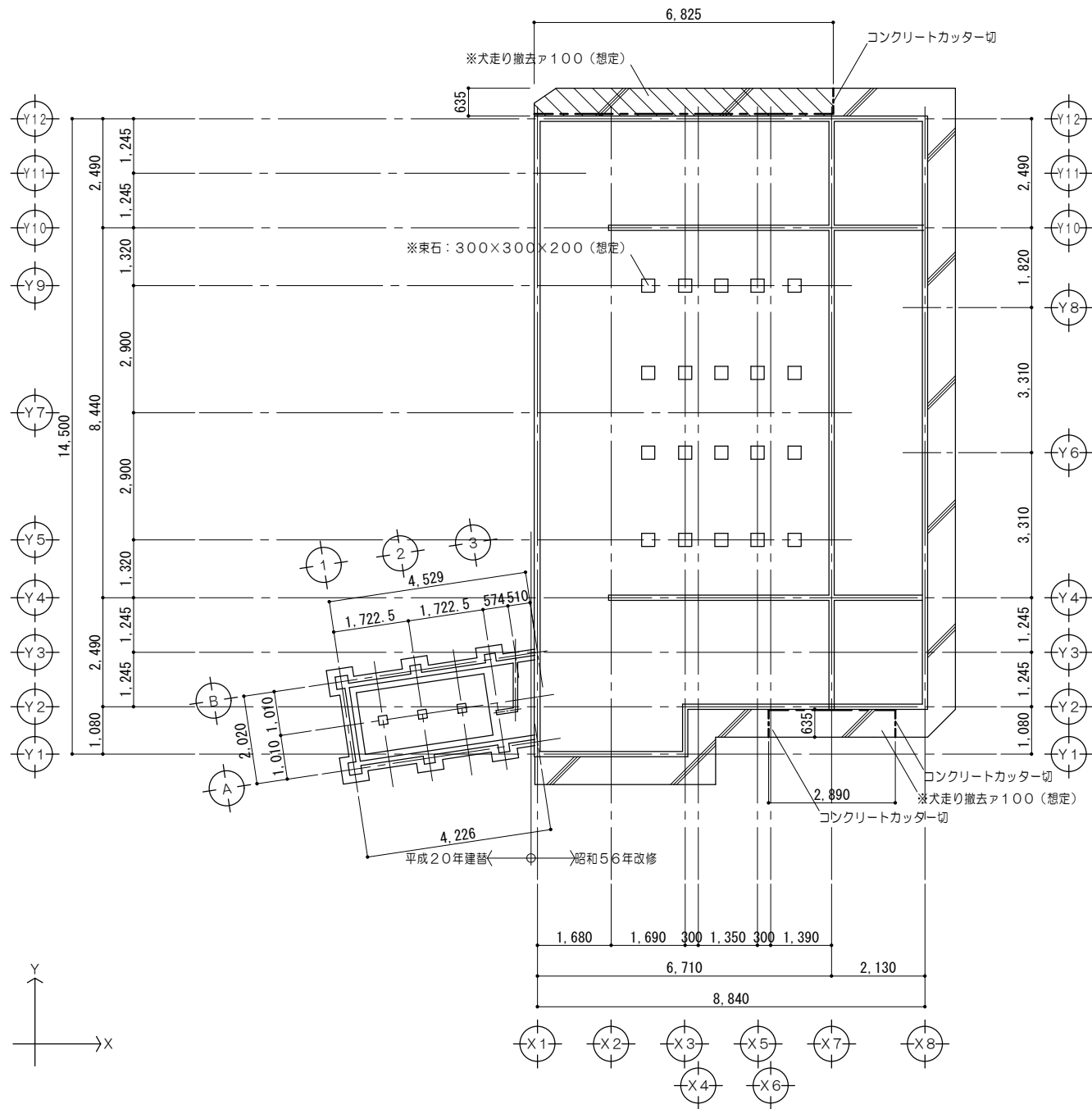
MAINO

株式会社 前野建築設計

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

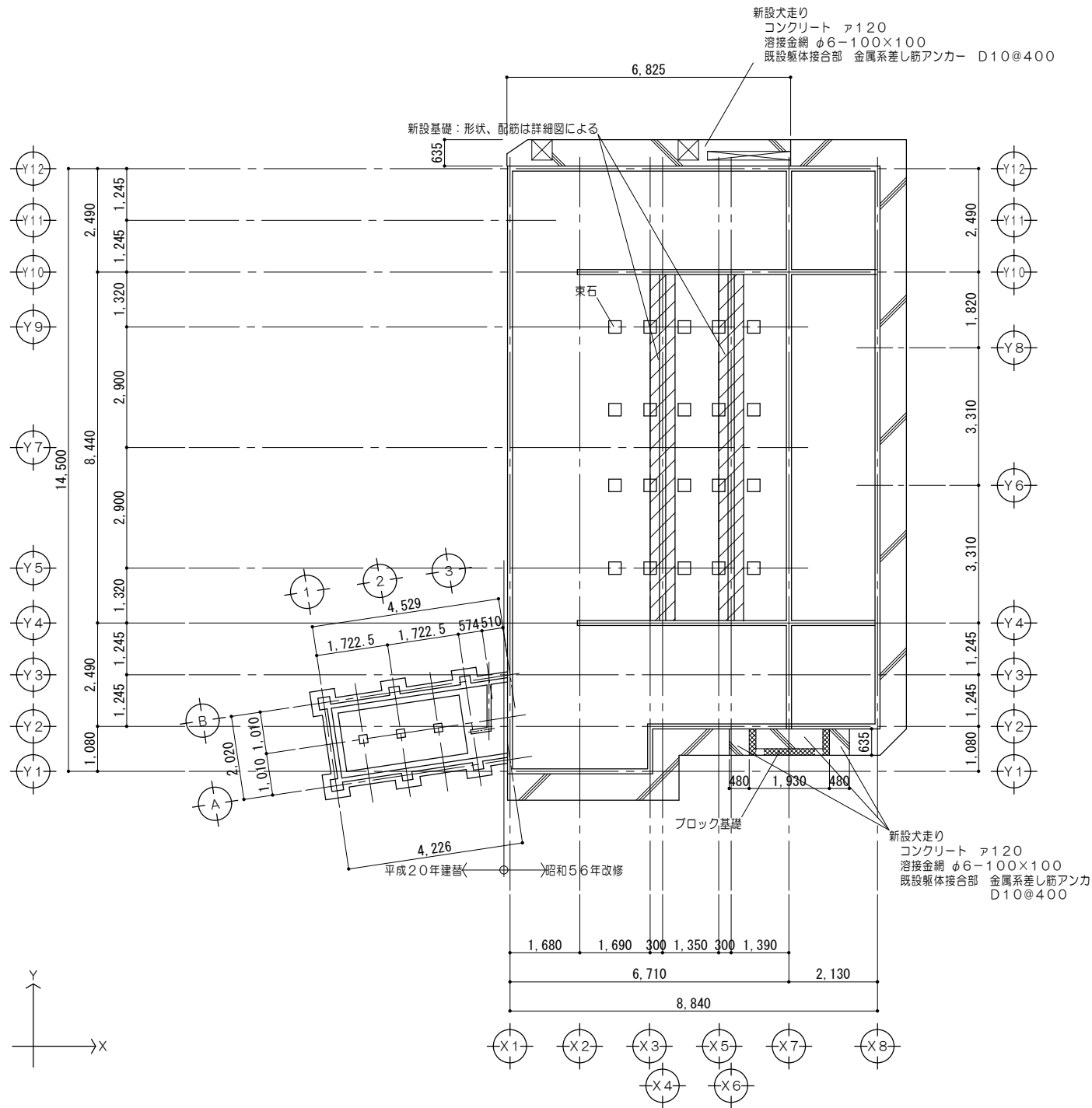
代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認
一級建築士 第320204号 前野 将輝	一級建築士 第360917号 前田 祐作				

作図	工事名称	設計日
検図	令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事	R07/03/19
	図面名称	図面番号
	鉄筋コンクリート構造配筋標準図No.4	S007 (原図:A2)
	縮尺	
	A2: NS	
	A3: NS	



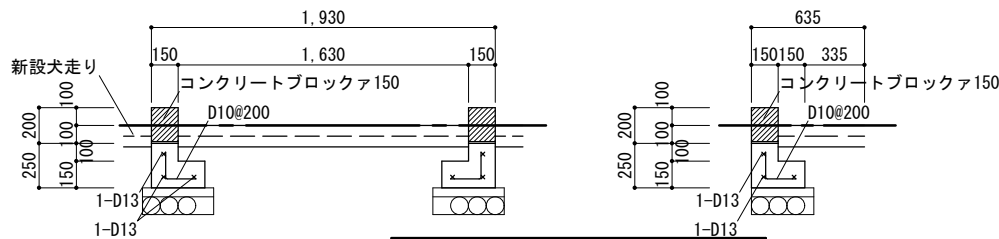
基礎伏図 1/100

※註記：昭和56年改修範囲は当時の記録（写真）からの想定
東・東石の位置・サイズについては想定のため十分に確認すること



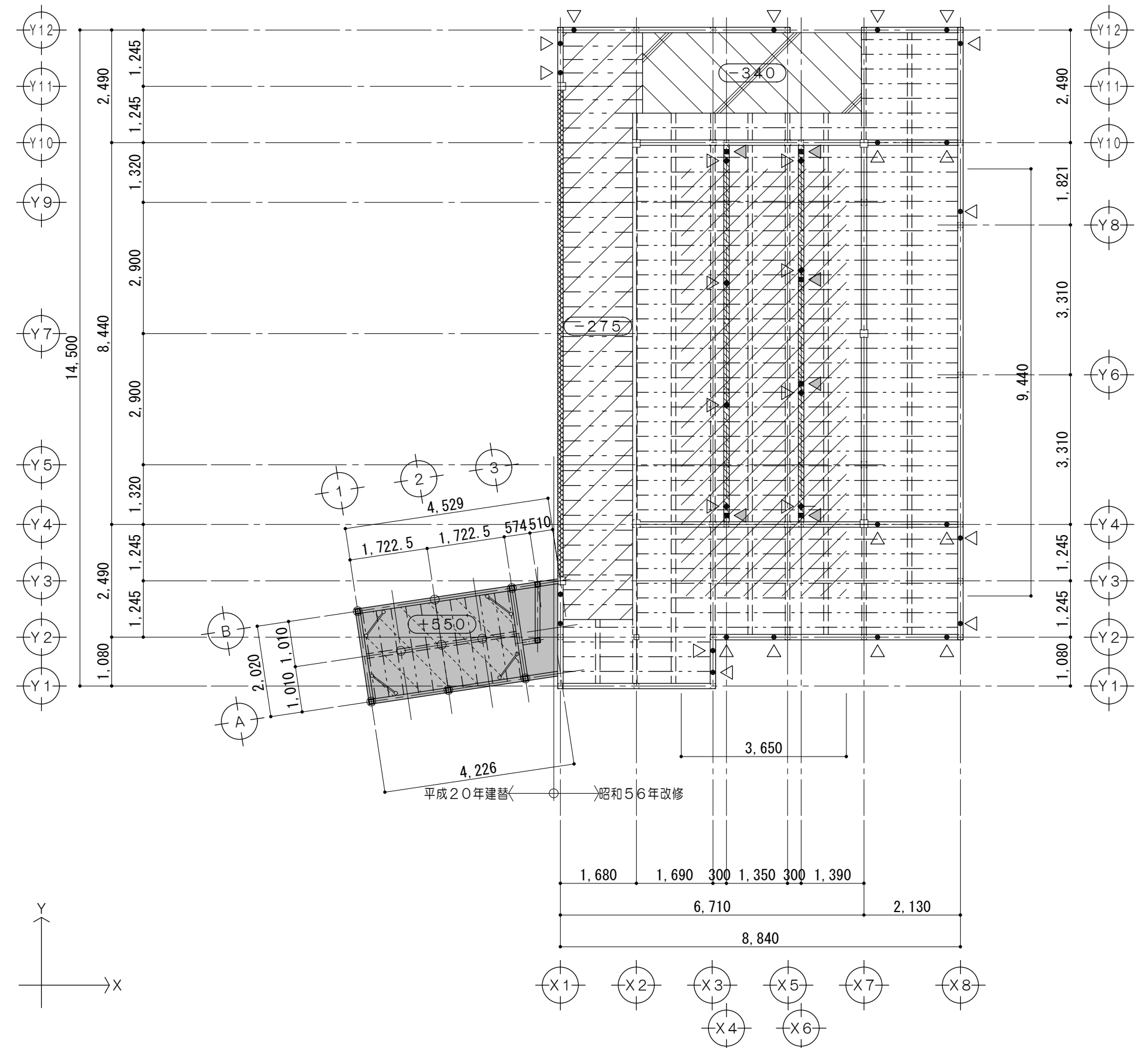
基礎伏図 1/100

※註記：昭和56年改修範囲は当時の記録（写真）からの想定
東・東石の位置・サイズについては既設に合わせる



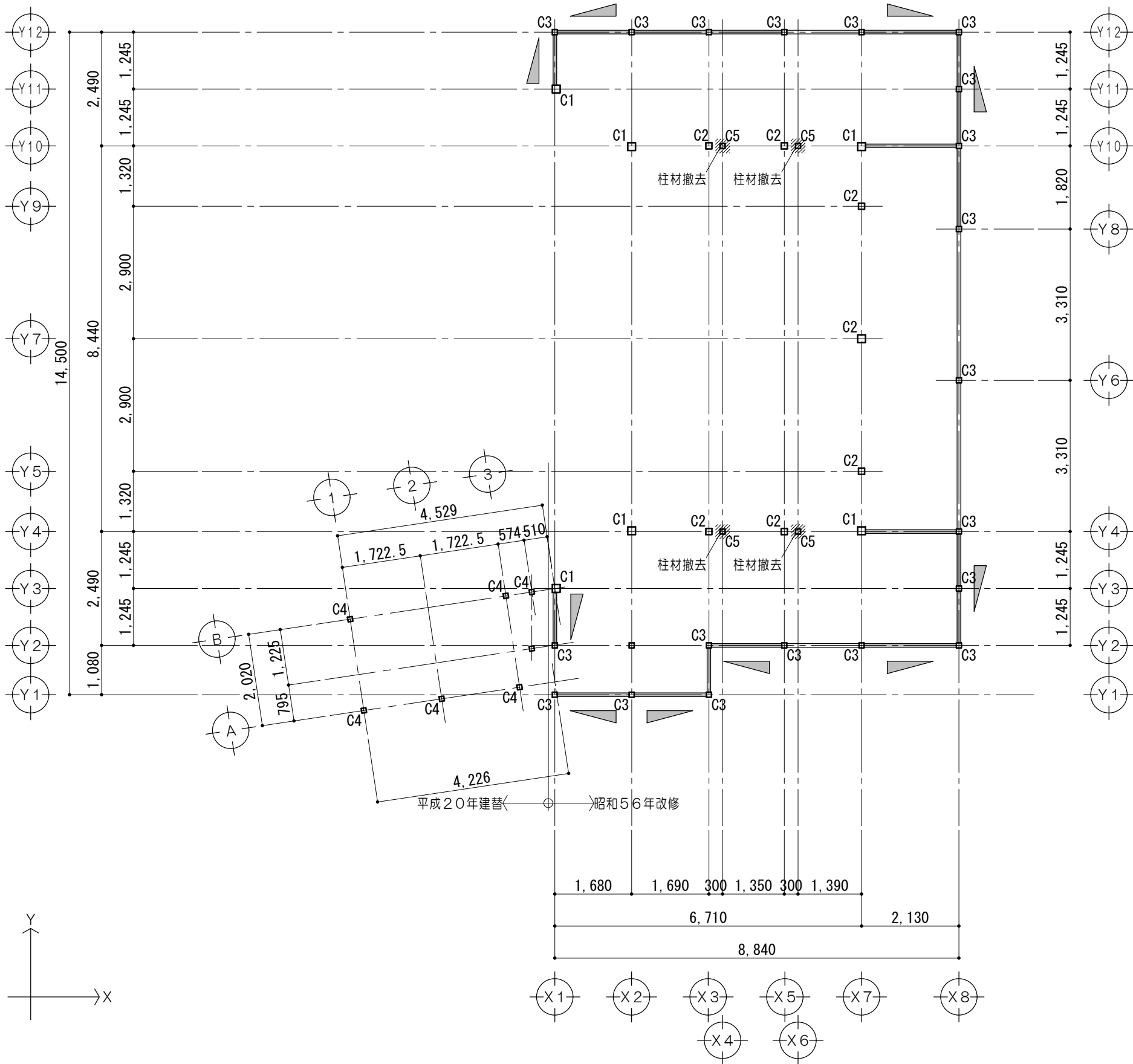
目隠しルーバー基礎詳細図 1/30

特 記 事 項											設計日 R07/03/19																		
一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号												設計日																	
<div><div><div><div>MAHNO</div><div>株式会社</div></div><div>前野建築設計</div></div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div>												代表設計者		設計担当		設計担当		設計担当		設計担当		法適合確認		作図		工事名称		設計日	
												一級建築士 第320204号 前野 将輝		一級建築士 第360917号 前田 祐作								令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事		R07/03/19					
												前野 将輝		前田 祐作								図面名称		縮尺		図面番号			
																				改修前 改修後 基礎伏図		A2:1/30, 100 A3:1/42, 141		S008 (原図: A2)					



床 伏 図 1/100

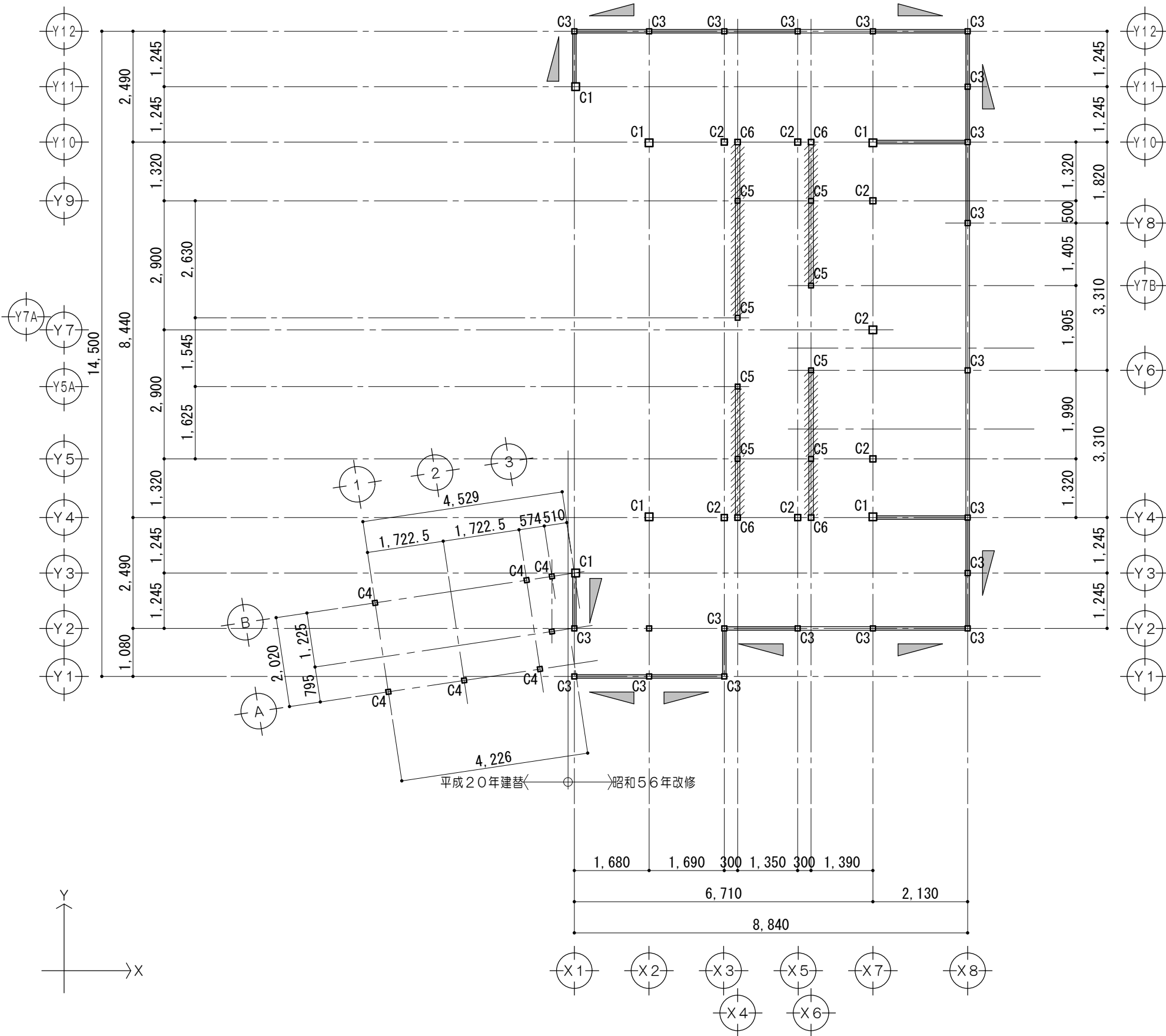
凡 例						
改修範囲	昭和56年		土台 : 115×105 (昭和56年改修時取替材)	新設		新設土台 : 115×105 (ヒノキ)
			大引 : 100× 80@900 (昭和56年改修時取替材)			新設アンカーボルト : 1-M12 埋込長さ : L=250 アンカーボルトのピッチ: @2730以内 (新設部)
			根太 : 45× 50@300 (昭和56年改修時取替材)			
建替範囲	平成20年		土台 : 105×105 (平成20年建替材)	新設		新設ホールダウン金物: 20kN 新設アンカーボルト : 1-M16 埋込長さ : L=360
			大引 : 105×105 (平成20年建替材)			
			根太 : 55× 55@330 (平成20年建替材)			新設接合系アンカー : M12 埋込長さ : L=100 引張耐力 : 33kN せん断耐力 : 23kN
			火打 : 90× 90 (平成20年建替材)			



柱壁伏図 1/100

柱リスト	
C1	170×170 材種不明 (当初材)
C2	135×135 材種不明 (当初材)
C3	115×115 ヒノキ (昭和56年改修時取替材)
C4	105×105 ヒノキ (平成20年建替材)
C5	90×90 スギ (時期不明)

凡 例	
	土壁（全壁） ア50（昭和56年改修時取替材）
	土壁（開口あり）ア50（昭和56年改修時取替材）
	筋かい30×105 （昭和56年改修時取替材）
	柱 寸法などは柱リストによる



柱壁伏図 1/100

柱リスト	
C1	170×170 材種不明 (当初材)
C2	135×135 材種不明 (当初材)
C3	115×115 ヒノキ (昭和56年改修時取替材)
C4	105×105 ヒノキ (平成20年建替材)
C5	105×105 ヒノキ 柱 新設
C6	120×120 ヒノキ 柱 新設

凡 例	
	土壁（全壁） ア50（昭和56年改修時取替材）
	土壁（開口あり）ア50（昭和56年改修時取替材）
	乾式土壁（全壁）片側張 新設
	筋かい30×105 （昭和56年改修時取替材）
	柱 寸法などは柱リストによる

特記事項	

株式会社 前野建築設計

一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者
一級建築士
第320204号
前野 将輝

設計担当
一級建築士
第360917号
前田 祐作

設計担当

設計担当

設計担当

法適合確認

作図

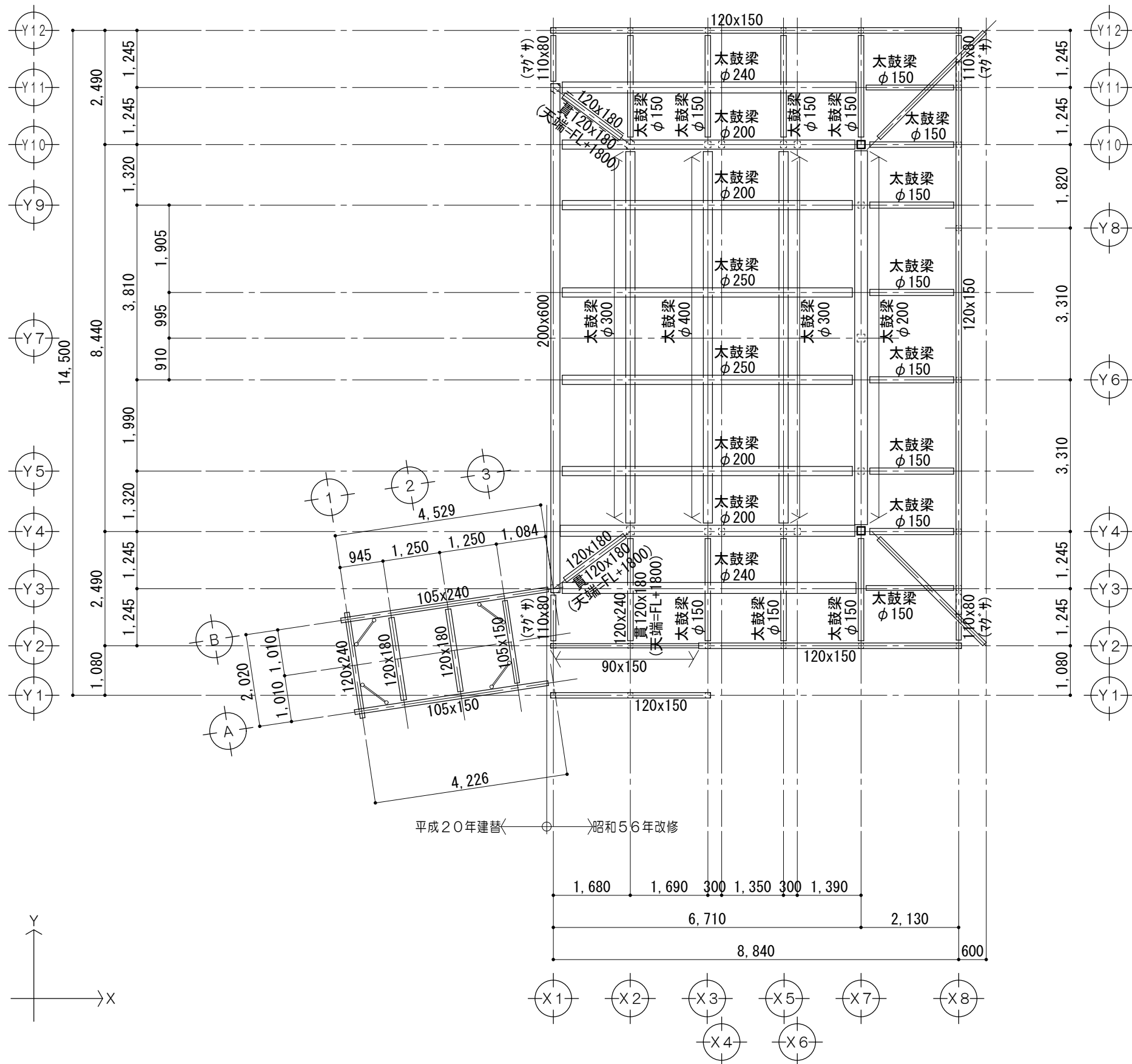
検図

工事名称
令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事

図面名称
改修前 改修後 柱伏図

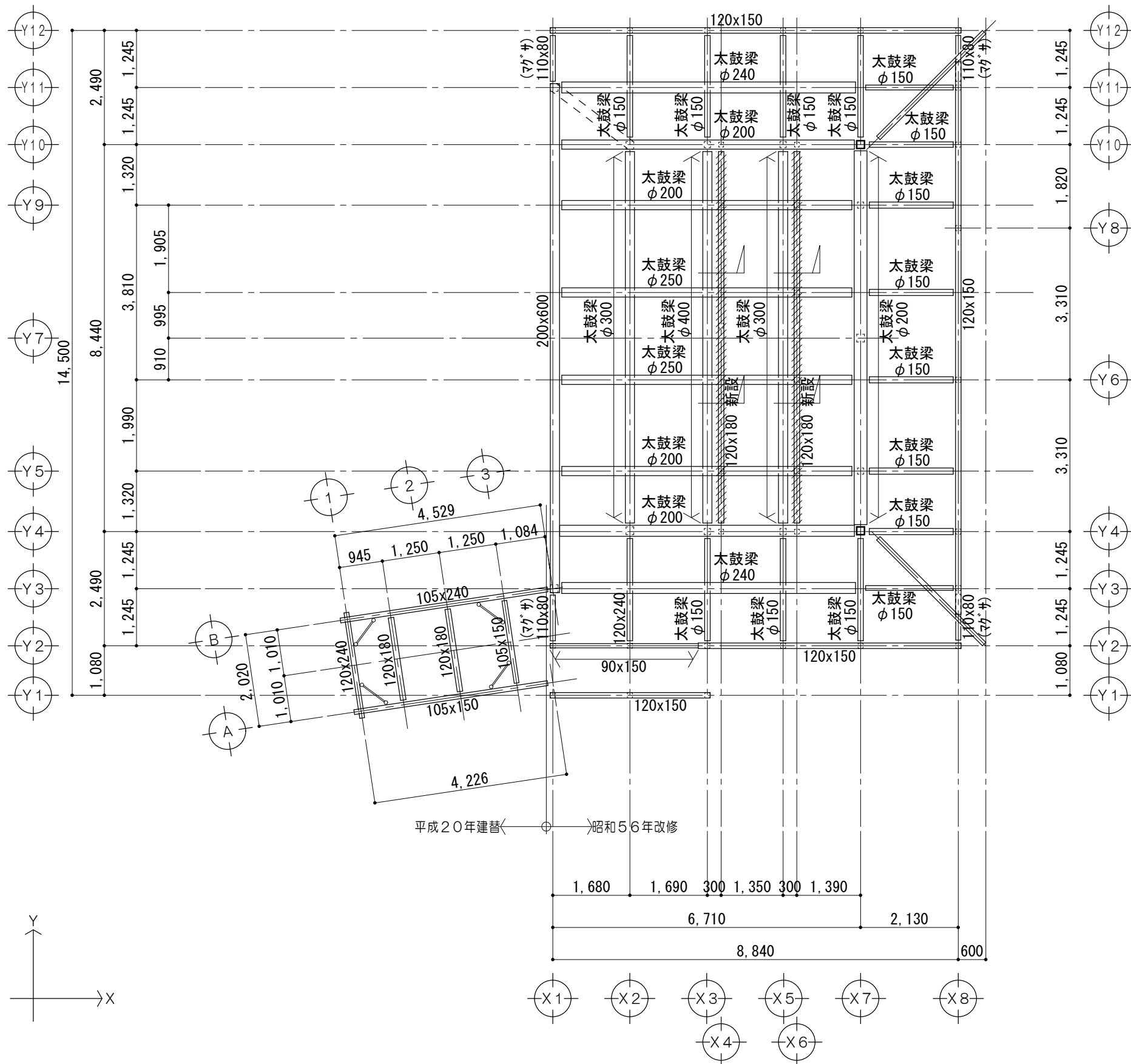
縮尺
A2:1/100
A3:1/141

設計日
R07/03/19
図面番号
S010
(原図:A2)



陸梁伏図 1/100

凡 例		
平成20年 建替範囲		火打 : 90×90 (平成20年建替材)
新設		新設梁 : 120×180 (ヒノキ)
		継手



陸梁伏図 1/100

凡 例		
平成20年 建替範囲		火打 : 90×90 (平成20年建替材)
新設		新設梁 : 120×180 (ヒノキ)
		継手

特記事項	

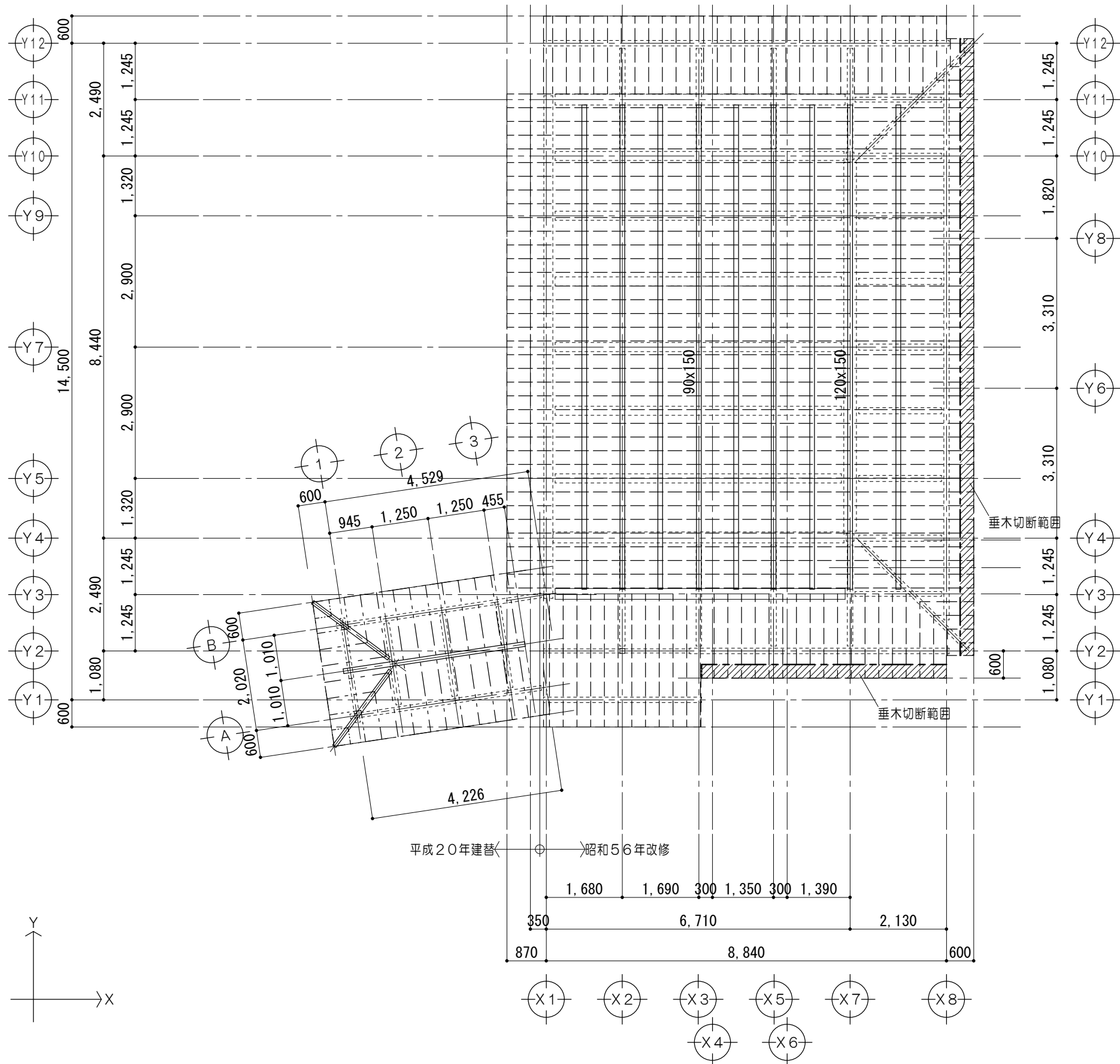
一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号
株式会社 前野建築設計
管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認
-------------------------------------	------------------------------------	------	------	------	-------

作図 	検図
--------	--------

工事名称 令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事	設計日 R07/03/19
図面名称 改修前 改修後 梁伏図	縮尺 A2:1/100 A3:1/141
	図面番号 S011 (原図:A2)

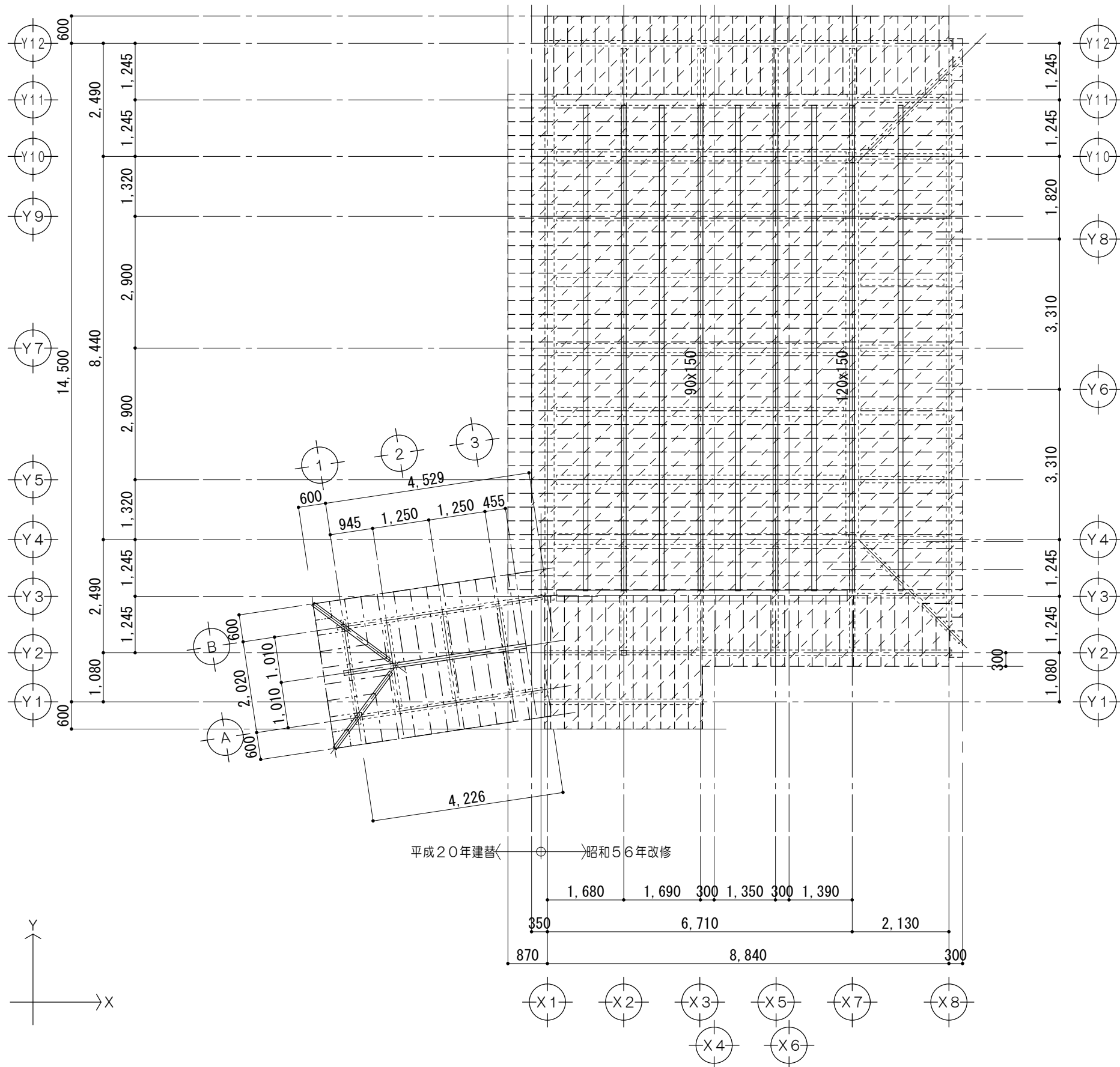
改修前



小屋伏図 1/100

凡 例	
昭和56年改修範囲	母屋・棟木：特記なき場合 90×105 (昭和56年改修時取替材) 垂木：45×60@450 (昭和56年改修時取替材)
平成20年建替範囲	棟木：特記なき場合 105×150 (平成20年建替材) 垂木：55×55@364 (平成20年建替材)


改修後



小屋伏図 1/100

凡 例	
昭和56年改修範囲	母屋・棟木：特記なき場合 90×105 (昭和56年改修時取替材) 垂木：45×60@450 (昭和56年改修時取替材)
平成20年建替範囲	棟木：特記なき場合 105×150 (平成20年建替材) 垂木：55×55@364 (平成20年建替材)
新設	屋根下地補強 構造用合板φ12 N50@150以下



特記事項	

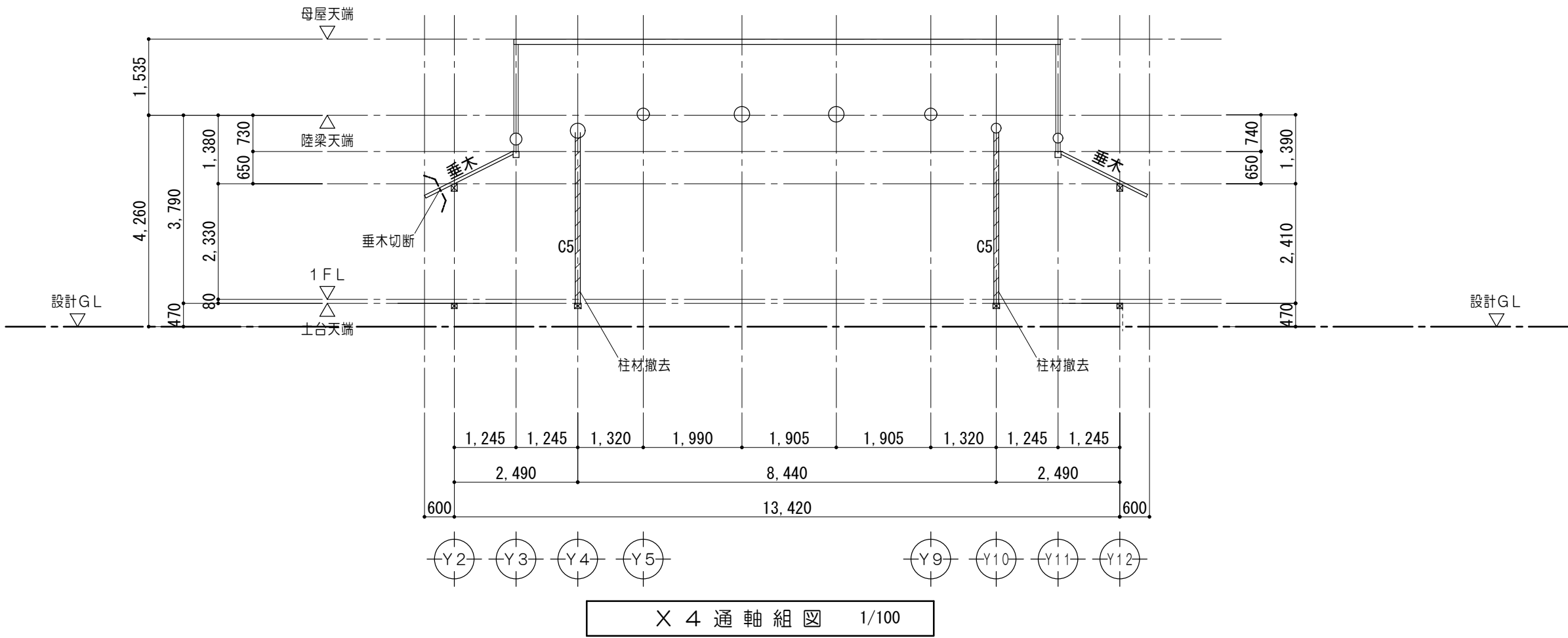


一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号

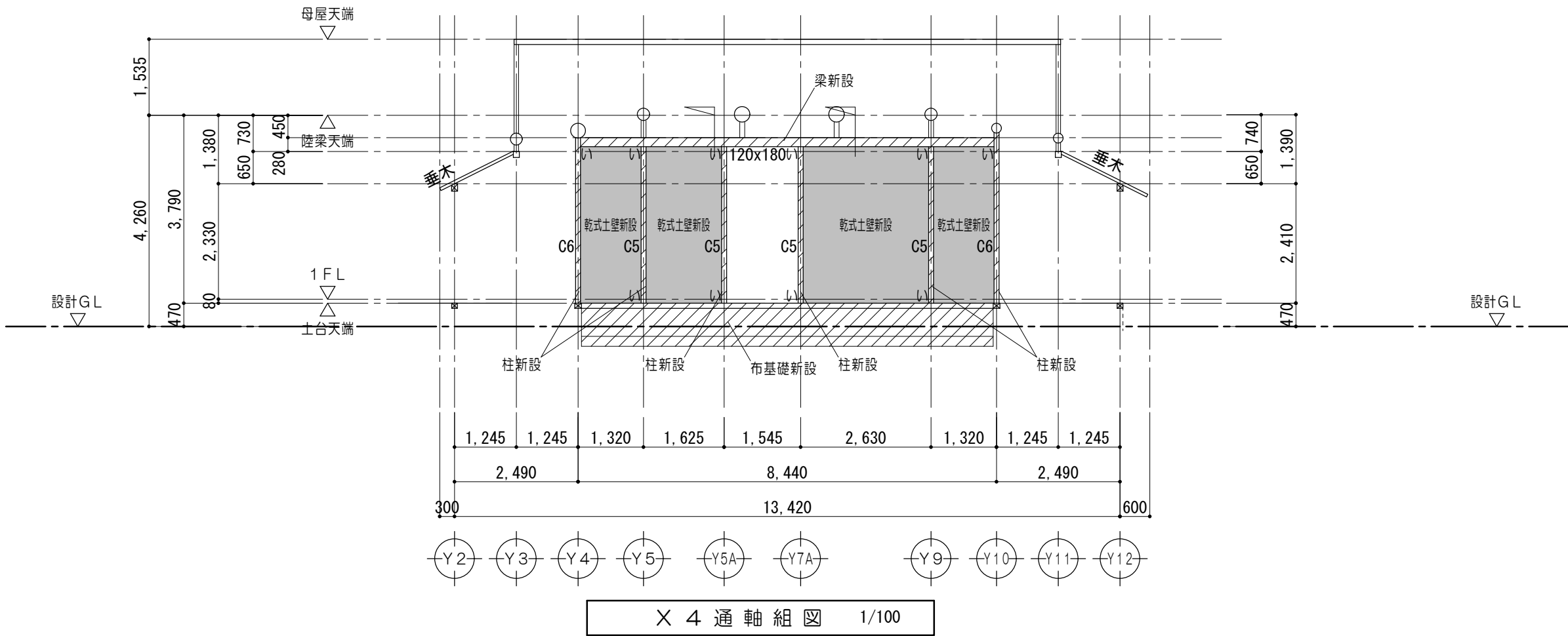
株式会社 前野建築設計

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

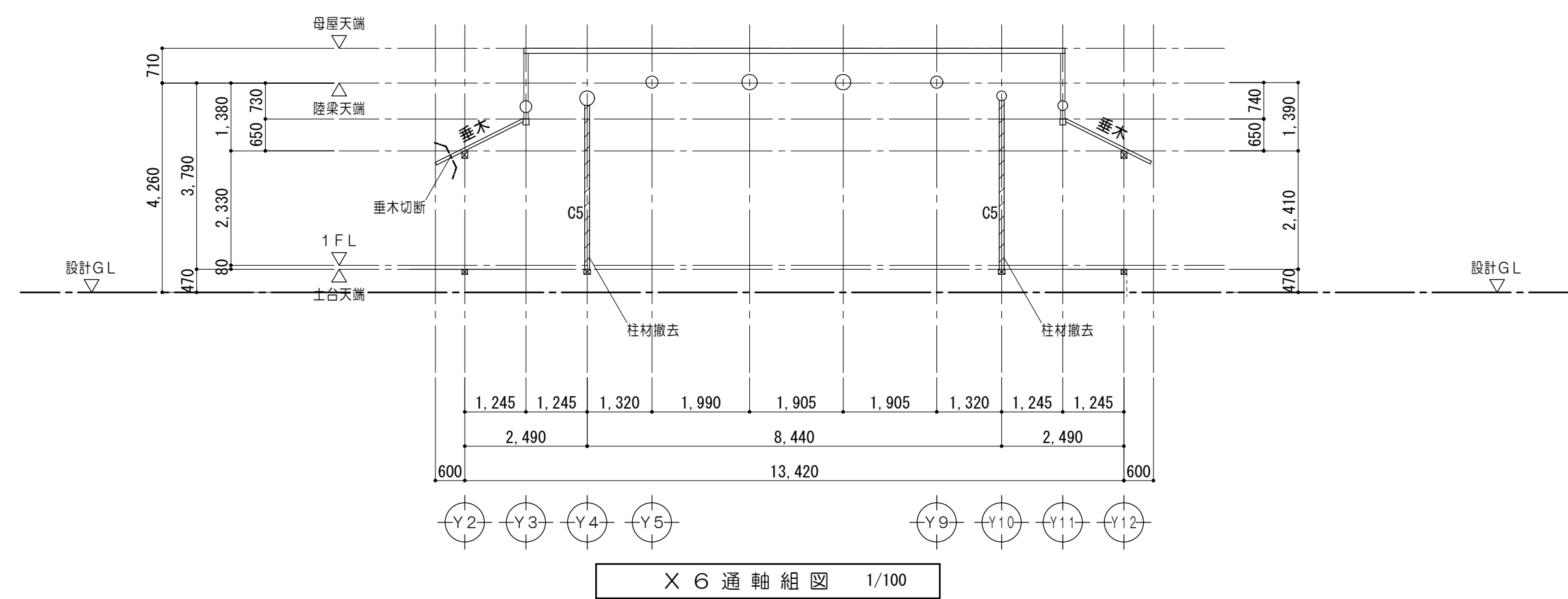
代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	作図  検図 	工事名称 令和7・8年度 安乘人形芝居舞台改修工事 図面名称 改修前 改修後 小屋伏図 縮尺 A2:1/100 A3:1/141	設計日 R07/03/19 図面番号 S012 (原図:A2)
-------------------------------------	------------------------------------	------	------	------	-------	--	--	---



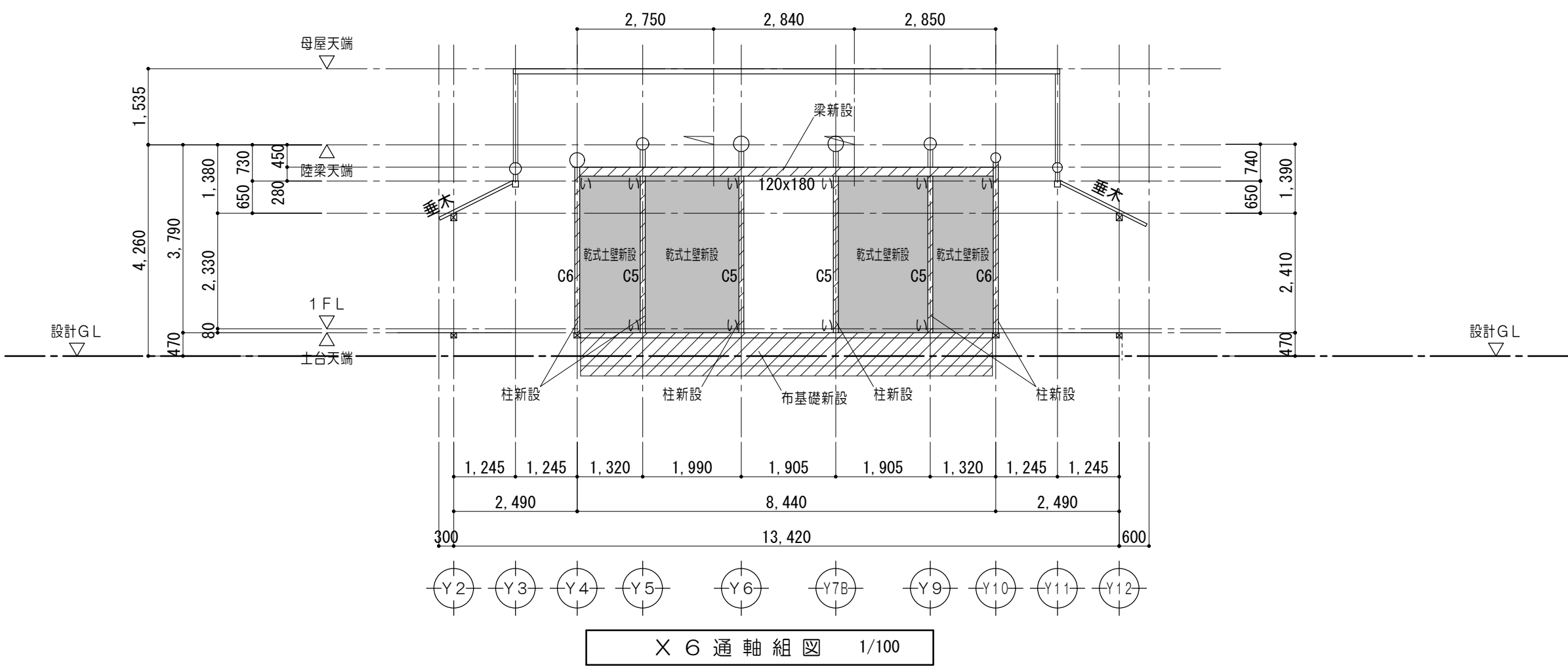
凡 例	
	土壁（全壁） ア50 （昭和56年改修時取替材）
い	柱梁仕口 長ぼぞ差し込み栓打
ろ	柱梁仕口 小根ぼぞ込み栓打ち
は	柱梁仕口 渡りあご



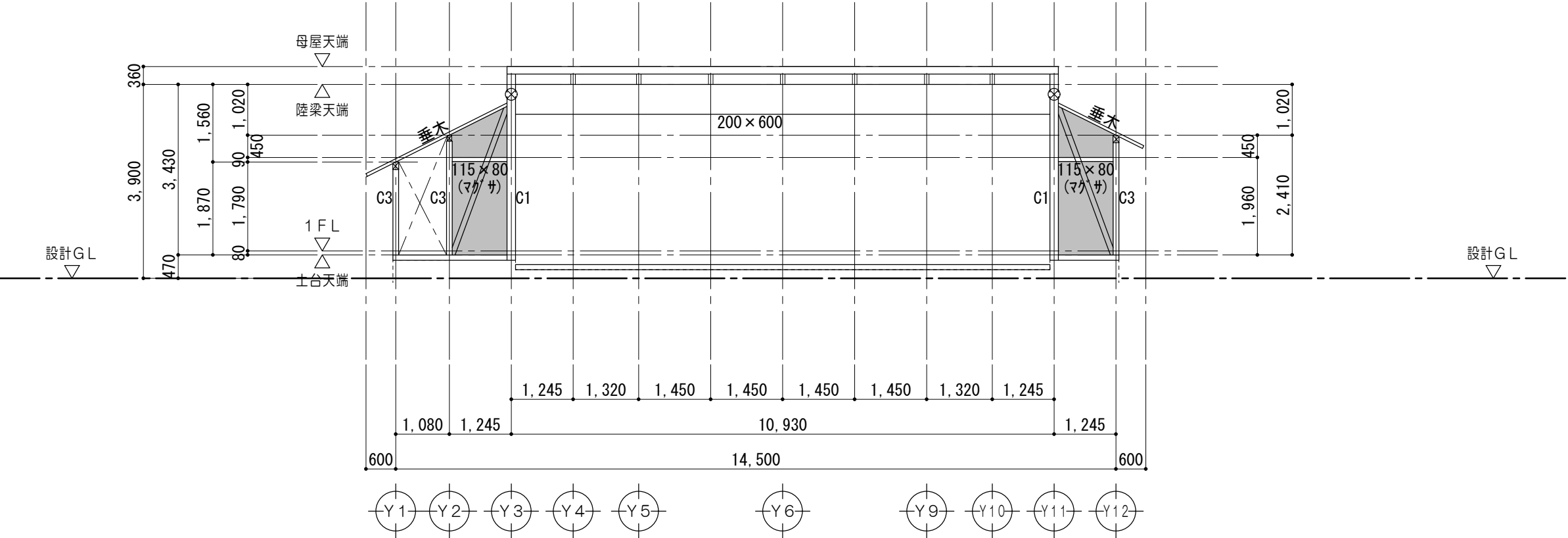
凡 例	
	乾式土壁（全壁）片側張 新設
い	柱梁仕口 長ぼぞ差し込み栓打
ろ	柱梁仕口 小根ぼぞ込み栓打ち
は	柱梁仕口 渡りあご



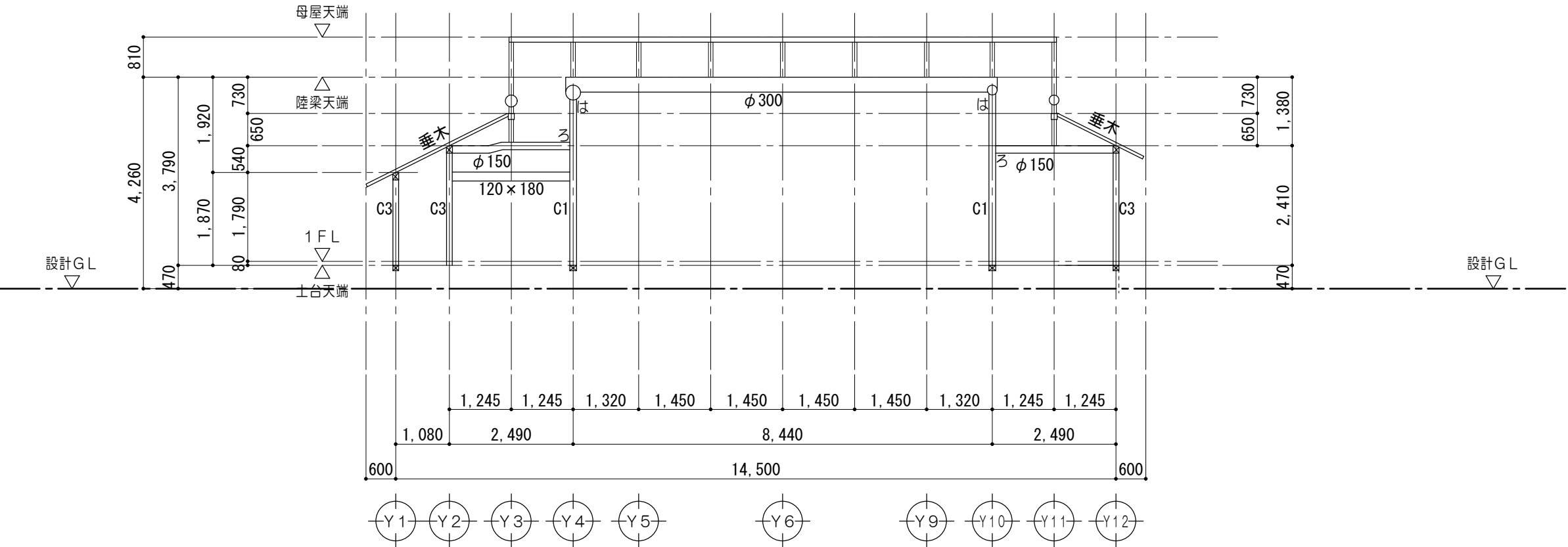
凡 例	
	土壁（全壁）ア50 （昭和56年改修時取替材）
い	柱梁仕口 長ぼぞ差し込み栓打
ろ	柱梁仕口 小根ぼぞ込み栓打ち
は	柱梁仕口 渡りあご



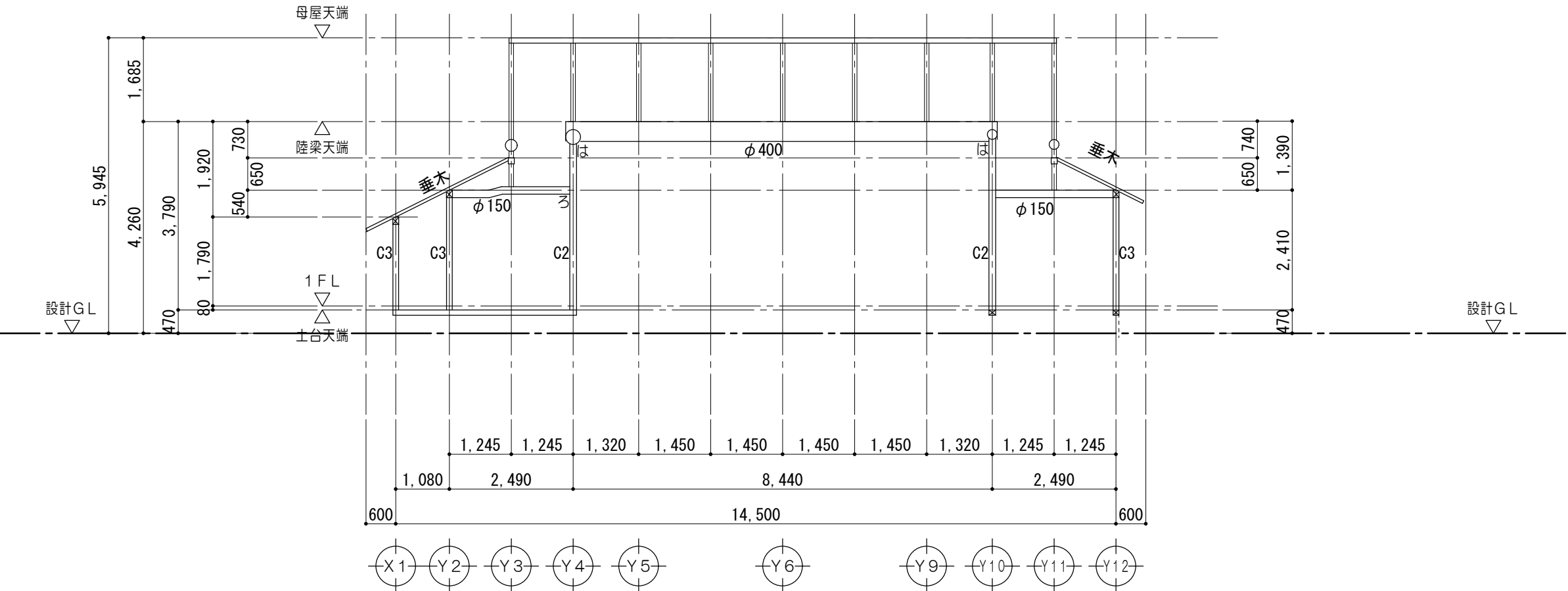
凡 例	
	乾式土壁（全壁）片側張 新設
い	柱梁仕口 長ぼぞ差し込み栓打
ろ	柱梁仕口 小根ぼぞ込み栓打ち
は	柱梁仕口 渡りあご



X 1 通軸組図 1/100

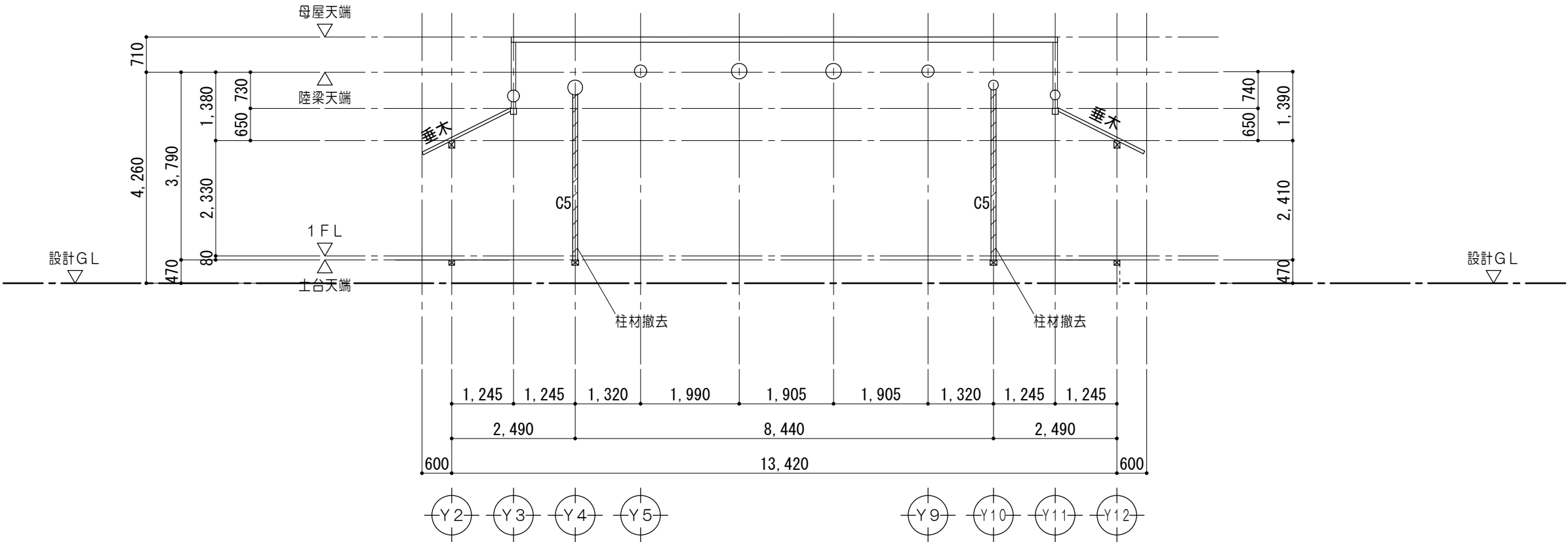


X 2 通軸組図 1/100

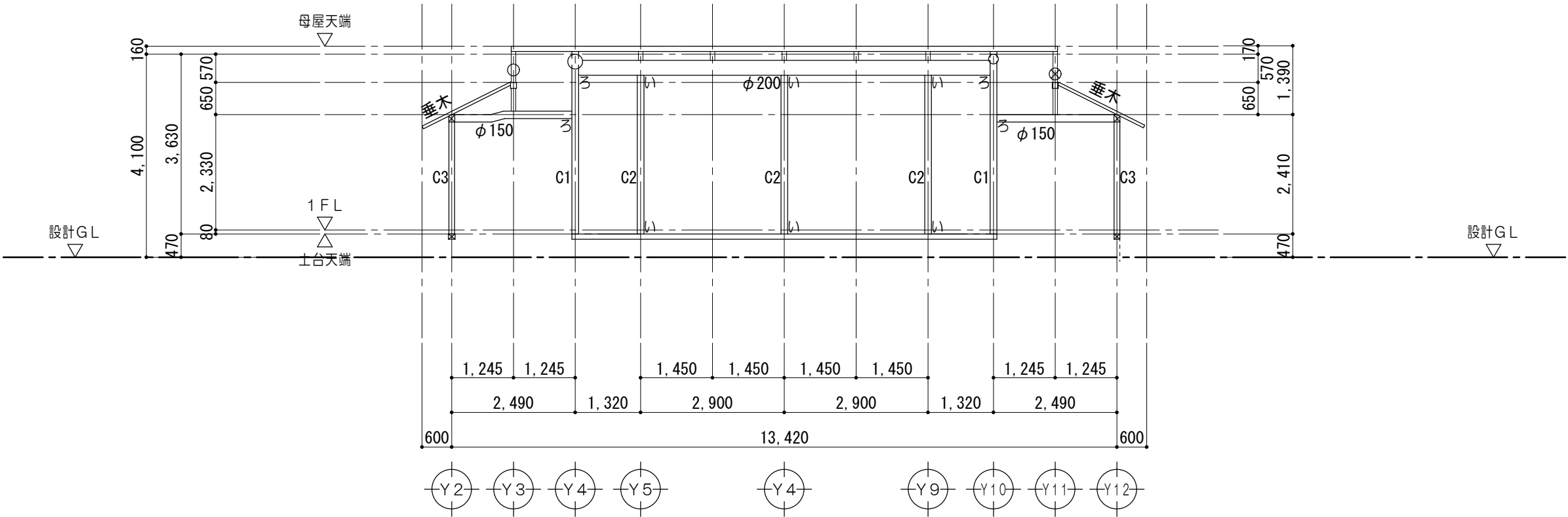


X 3 通軸組図 1/100

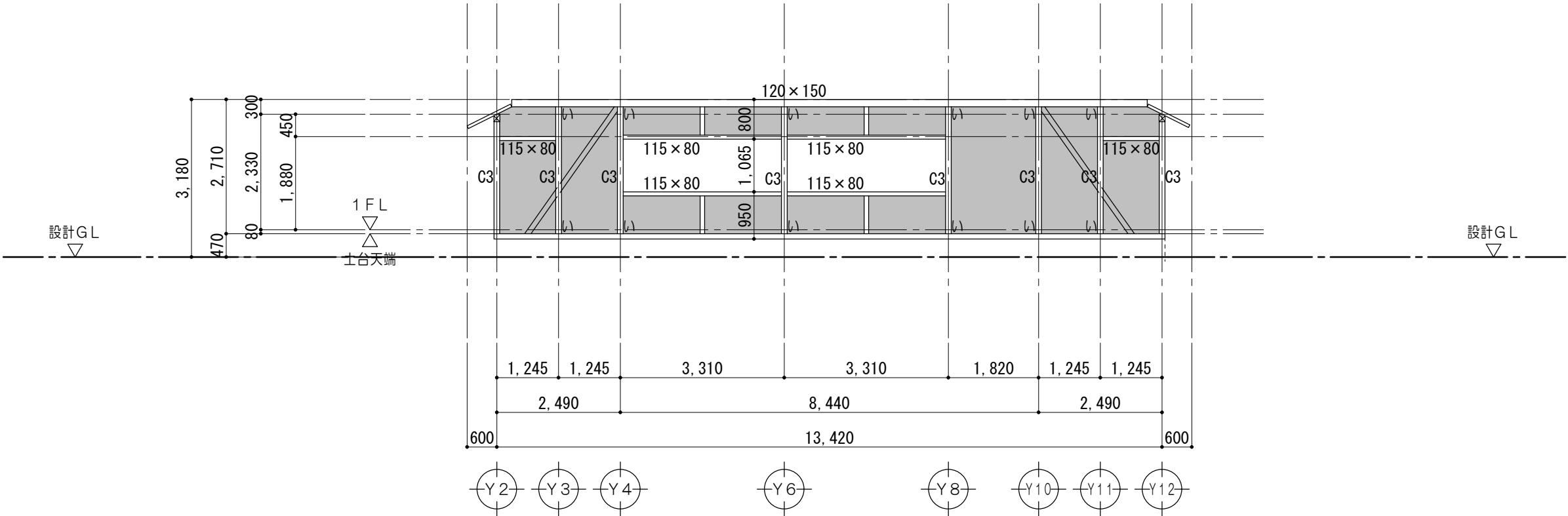
凡 例	
	土壁（全壁）ア50 （昭和56年改修時取替材）
い	柱梁仕口 長ぼぞ差し込み栓打
ろ	柱梁仕口 小根ぼぞ込み栓打ち
は	柱梁仕口 渡りあご



X 6 通軸組図 1/100

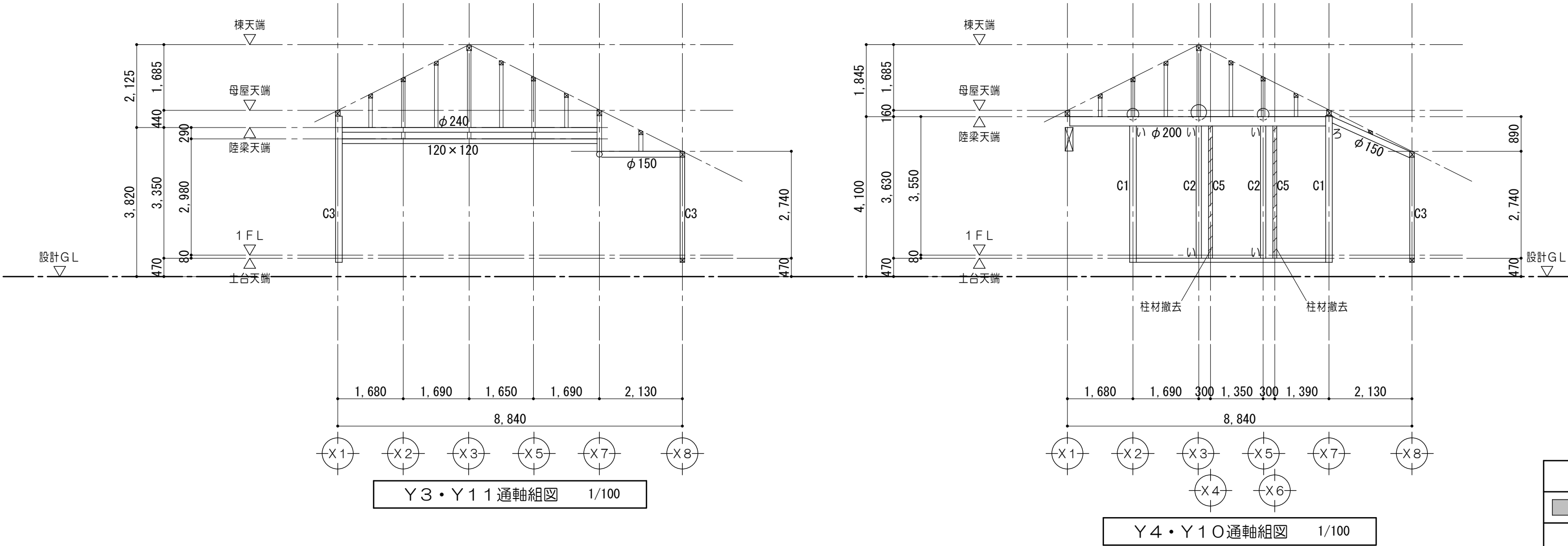
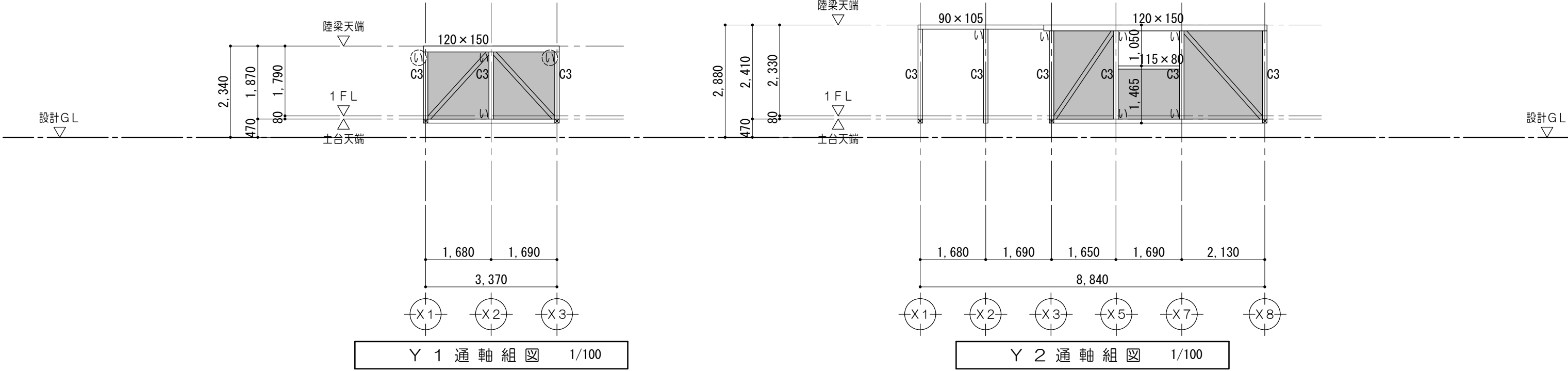


X 7 通軸組図 1/100

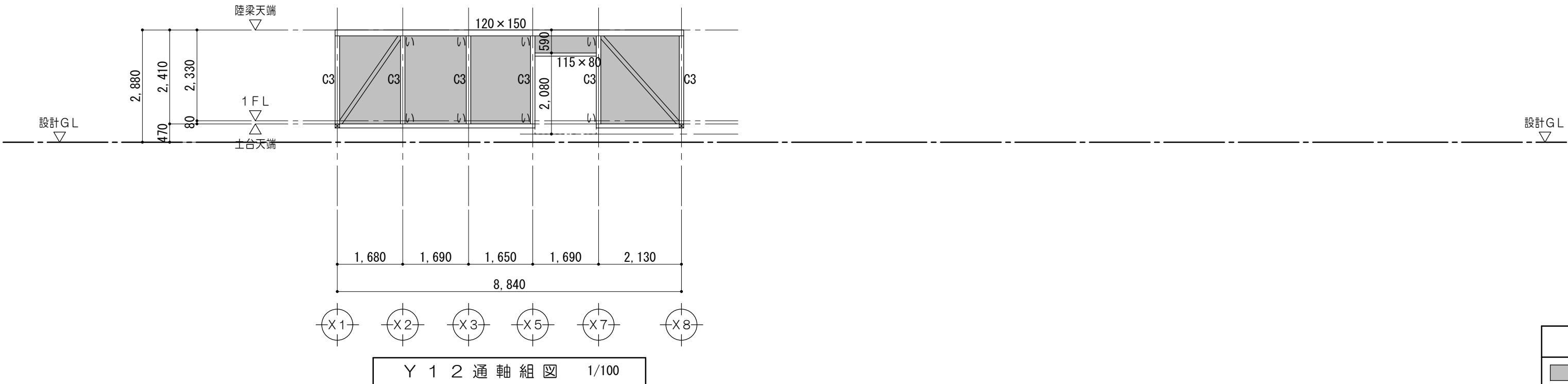
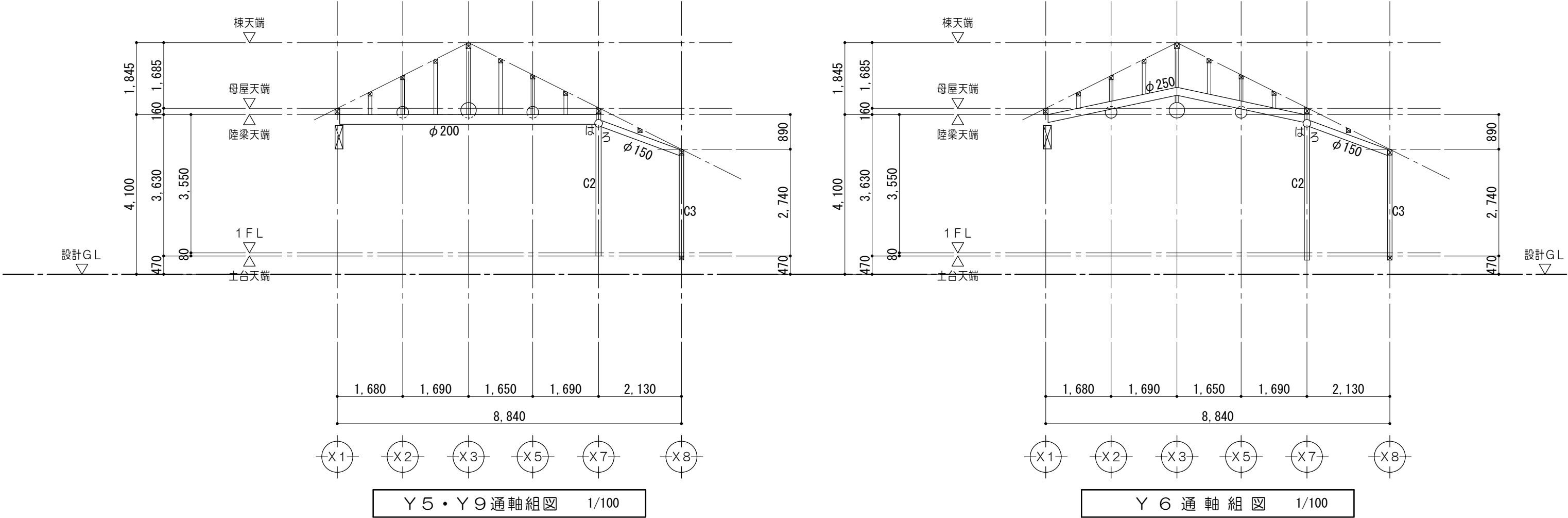



X 8 通軸組図 1/100

凡 例	
	土壁（全壁）ア50 （昭和56年改修時取替材）
い	柱梁仕口 長ぼぞ差し込み栓打
ろ	柱梁仕口 小根ぼぞ込み栓打ち
は	柱梁仕口 渡りあご



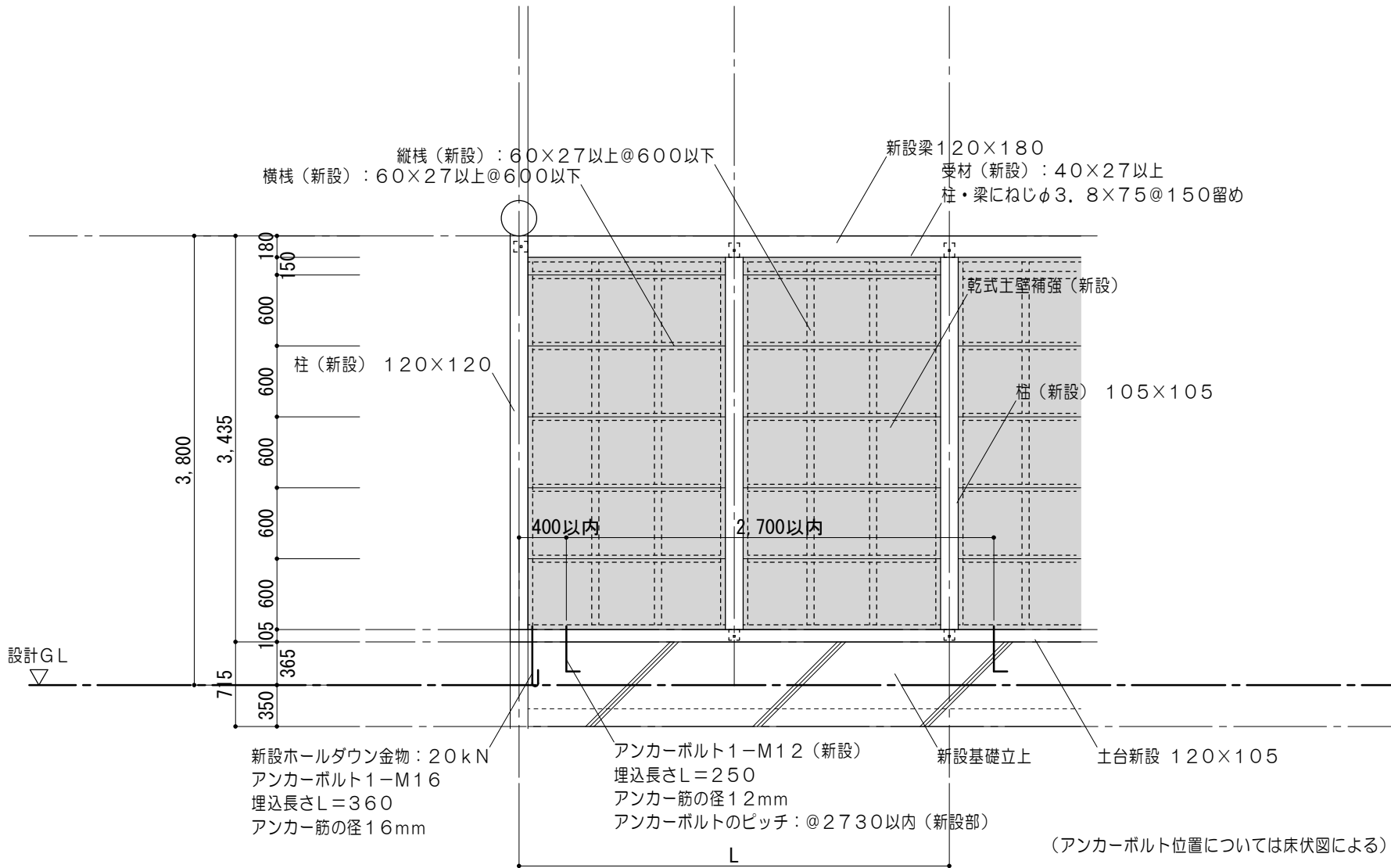
凡 例	
	土壁（全壁）ア50 （昭和56年改修時取替材）
い	柱梁仕口 長ほぞ差し込み栓打ち
ろ	柱梁仕口 小根ほぞ差し込み栓打ち
は	柱梁仕口 渡りあご



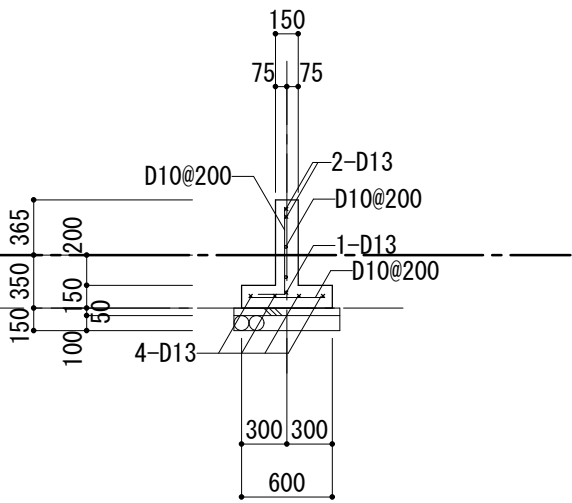
凡 例	
	土壁（全壁） ア50 （昭和56年改修時取替材）
い	柱梁仕口 長ほぞ差し込み栓打
ろ	柱梁仕口 小根ほぞ込み栓打ち
は	柱梁仕口 渡りあこ

面材の種類と厚さ	釘の種類とピッチ
乾式土壁	コースレッド45 SUS製 長手@150以下 短手@120以下

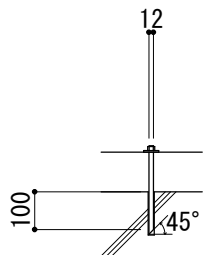
※註記 ①乾式土壁補強は認定番号 FRM-O101（荒壁パネル：丸浩工業）同等品以上とする
②受材を新設し、面材を所定の釘とピッチによって、受材の片面にビス打ち
③受材、縦棧、横棧の交点は相欠きとし、コースレッド25 鉄製（表面防錆処理）等で補強する
④パネルとビスのはしあきは15mmとし、パネルの木小舞部分にて留めつけ、木小舞表面までめり込ませる



全壁補強詳細図 1/50



補強基礎詳細図 1/50

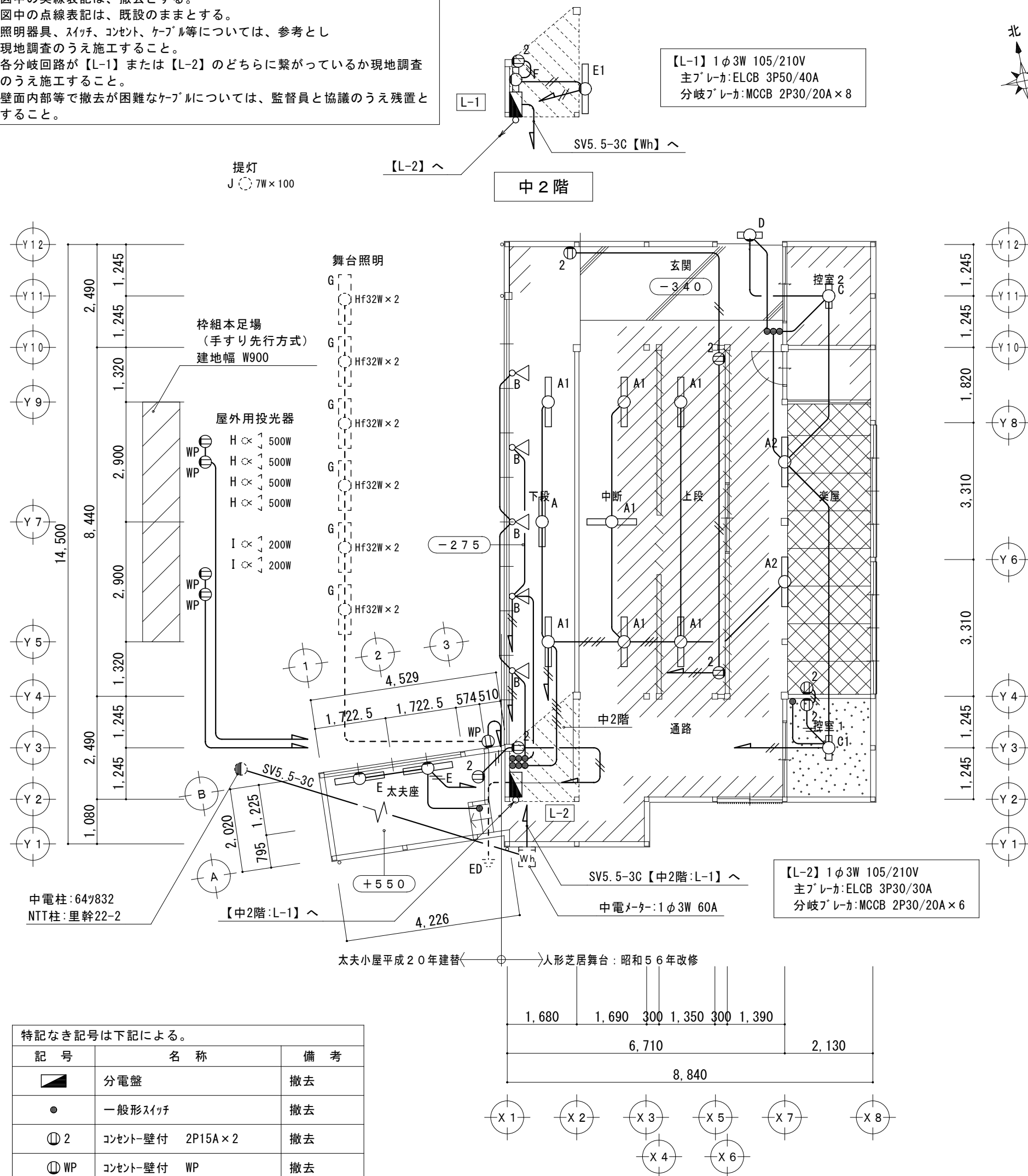






アンカーボルト：1-M12（補強）
埋込長さ：L=100
アンカー筋の径：12mm
引張耐力：33kN
せん断耐力：23kN

あと施工アンカー詳細図 1/20

特 記 事 項		<div><div>一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号</div><div><div>MAENO</div>株式会社 前野建築設計</div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div>	代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	作図	工事名称 令和7・8年度 安乗人形芝居舞台改修工事	設計日 R07/03/19		
									検図				
								縮 尺 A2:1/20.50 A3:1/28.71		図面番号 S019 (原図:A2)			

- ・ 図中の実線表記は、撤去とする。
- ・ 図中の点線表記は、既設のままとする。
- ・ 照明器具、スイッチ、コンセント、ケーブル等については、参考とし現地調査のうえ施工すること。
- ・ 各分岐回路が【L-1】または【L-2】のどちらに繋がっているか現地調査のうえ施工すること。
- ・ 壁面内部等で撤去が困難なケーブルについては、監督員と協議のうえ残置とする。



特記なき記号は下記による。		
記 号	名 称	備 考
	分電盤	撤去
	一般形スイッチ	撤去
㊦ 2	コンセント-壁付 2P15A×2	撤去
㊦ WP	コンセント-壁付 WP	撤去
	中電柱	既設のまま
	電力量計	既設のまま

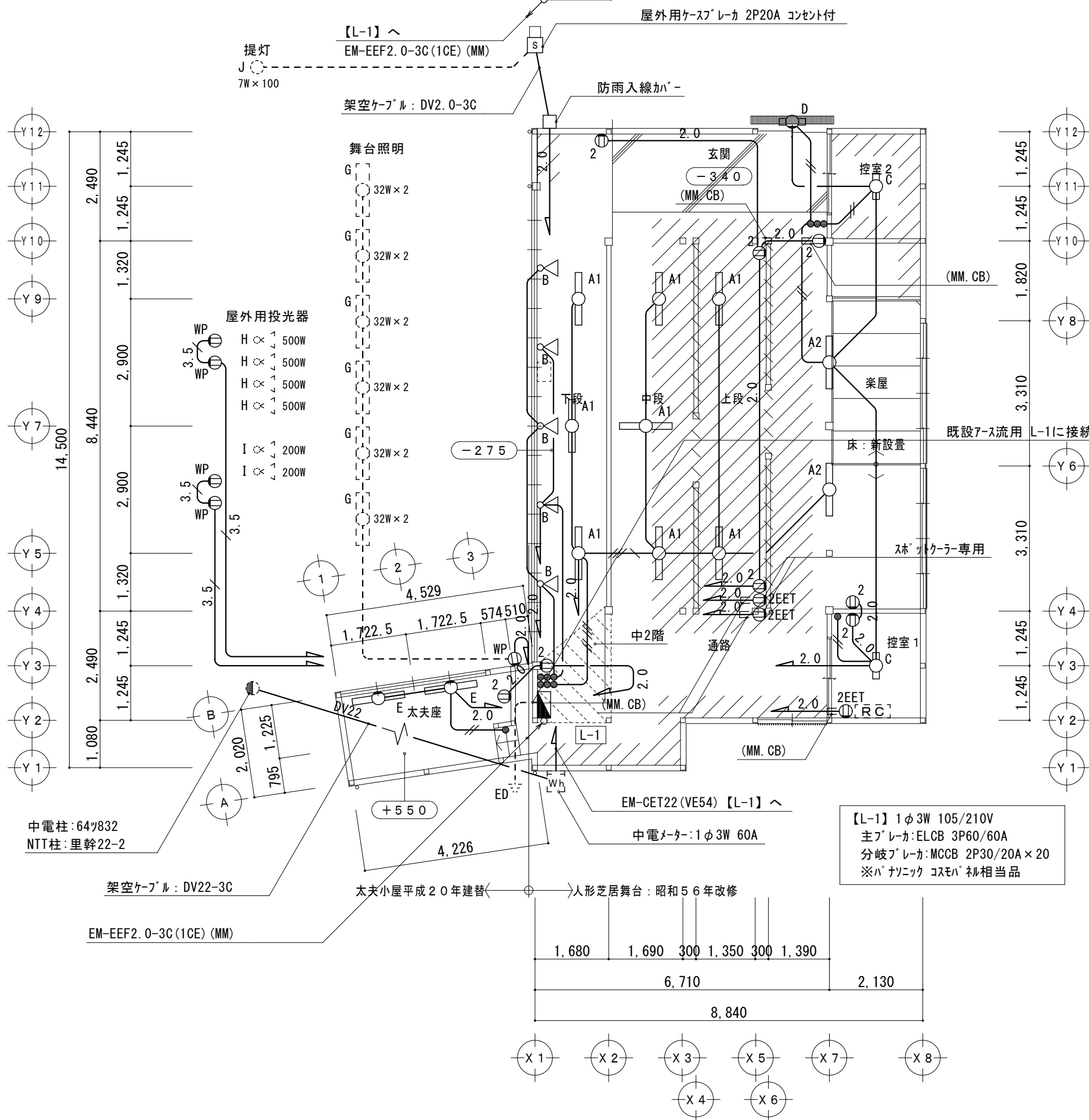
撤去照明器具一覧表					
記号	種別	備考	記号	種別	備考
A1	FR-4101F (チエ-ン吊)	撤去	E1	FL40W×1 直付	撤去
A2	LED 直付	撤去	F	FL15W×1 直付	撤去
B	(1K-505W)+(CF-5NW)+(RF-500)	撤去	G	Hf32W×2 直付	備品
C	FT-2103N	撤去	H	屋外投光器 500W	備品
D	FB-1539	撤去	I	屋外投光器 200W	備品
E	LED 直付	撤去	J	提灯用電球 7W	備品



特記なき配線は下記による。	
	VA1. 6-2C
	VA2. 0-2C
	VA1. 6-3C
	VA1. 6-2C × 2
	VA1. 6-3C+2C







記 事 項	

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

- ・ 図中の実線表記は、新設とする。
- ・ 図中の点線表記は、既設とする。
- ・ 露出ケーブルについては、外部はVE、内部は1種金属線ぴで保護すること。
- ・ 照明器具は、吊りボルト共とする。



特記なき記号は下記による。		
記 号	名 称	備 考
	分電盤	新設
●	一般形スイッチ	新設
㊦ 2	コンセント・壁付 2P15A×2	新設
㊦ 2EET	コンセント・壁付 2P15A×2EET	新設
㊦ WP	コンセント・壁付 2P15A×2 EET 7%接地防水ケーブル	新設
	中電柱	既設のまま
	電力量計	既設のまま

特記なき配線は下記による。	
	EM-EEF2. 0-3C (1C:E)
	EM-EEF1. 6-2C
	EM-EEF1. 6-3C (1C:E)
	EM-EEF1. 6-2C × 2 (1C:E)
	EM-EEF1. 6-3C+2C
	EM-CE3. 5-3C (1C:E) (VE28)

一級建築士 第320204号 前野 将輝	一級建築士 第360917号 前田 祐作	一級建築士 第378328号 加藤 早妃
----------------------------	----------------------------	----------------------------

一級建築士 第360917号 前田 祐作	一級建築士 第378328号 加藤 早妃
----------------------------	----------------------------

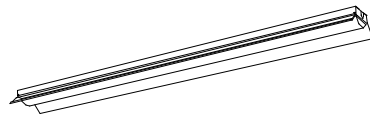
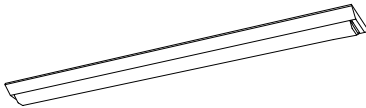
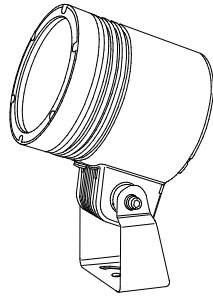
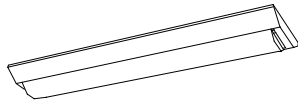

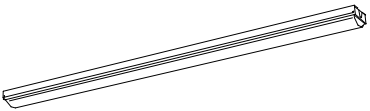
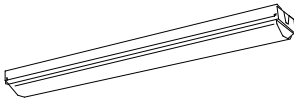
一級建築士
第378328号
加藤 早妃

検図

図面名称

縮 尺	図面番号
A2:1/100	E02
A3:1/141	


器具参考姿図

A1	i Dシリーズ直付型４０形 反射笠付型	A2	i Dシリーズ直付型４０形 Ｄスタイル W１５０	B	L E Dスポットライト７５０形	C	i Dシリーズ直付型２０形 Ｄスタイル W１５０	D	L E Dウォールライト ２０形
H f ３２形高出力型１灯器具相当		H f ３２形高出力型１灯器具相当		マルチハロゲン２５０形１灯器具相当		F L ２０形２灯器具相当		H f １６形１灯器具相当	
									
パナソニック 直付X F X ４３９K E N L E ９ 相当品		公共型番：LSS9-4-30		パナソニック N Y T １０７３S L E ９ 相当品		公共型番：LSS9-2-15		公共型番：LBF3MP/RP-2-13	
E	i Dシリーズ直付型４０形 i スタイル	F	i Dシリーズ直付型２０形 i スタイル						
H f ３２形高出力型１灯器具相当		F L ２０形２灯器具相当							
									
パナソニック 直付X F X ４３９N E N L E ９ 相当品		公共型番：LSS1-2-15							

章	項 目	特 記 事 項	別表－1
○衛生器具設備	1.小 便 器 2.水 栓 3.掃 除 流 し 4.和風便器耐火力バー	洗浄水量は4 L/回以下とし、使用状況により洗浄水量が制御できるものとする。 ・ カウンター取付け形 ・ 耐寒水栓（吊コマ） ・ 湯沸室流し用の水栓は泡沫式とする。 排水口は（ ・ 目皿 ・ 鎖付きゴム栓）とする。 和風便器の防火区画貫通処理は標準図による。	
○給水設備	1.配管材料 2.引き込み納付金 3.量 水 器 4.量水器樹 5.水 栓 柱 6.管の地中埋設深さ 7.凍結深度	(1)一般配管 ・ ステンレス鋼管（SUS304） ・ 塩ビライニング鋼管（ ・ VA又はVB ・ ） ・ ポリ粉体鋼管（ ・ PA又はPB ・ ） ・ 上記の選択で、ポリ粉体鋼管又は塩ビライニング鋼管を使用する場合、厨房、浴室等のシンダー内配管はPD又はVDとする。 (2)地中埋設配管 ・ ステンレス鋼管（SUS316）（ ・ 建物内 ・ 屋外部分） ・ 塩ビライニング鋼管（VD） ・ ポリ粉体鋼管（PD） ・ ポリエチレン管 (3)水道直結配管 引込みは水道事業者の指定による。量水器以降は、(1)及び(2)による。 ・ 要（ ・ 本工事 ・ 別途工事） ・ 不要 親メーター（ ・ 現地表示式（直読式） ・ 遠隔表示式（ ・ 電文式 ・ バルス式 ） （ ・ 貸与品 ・ ） 親メーター（ ・ 現地表示式（直読式） ・ 遠隔表示式（ ・ 電文式 ・ バルス式 ） （ ・ 貸与品 ・ ） ・ 水道事業者指定品（ ・ 貸与品 ・ 買取り） ・ 標準図MC形 ・ 合成樹脂製 ・ ステンレス製 ・ 人造石とぎ出し製 ・ アルミニウム合金製 ・ 埋設深さは原則として、車両通行部分では管の上端より（ ・ 600mm ・ mm）以上 その他の部分では管の上端より（ ・ 300mm ・ mm）以上 屋外配管の凍結深度は mm	別表－1
○排水設備	1.配管材料 2.洗面器等の排水管 3.放流納付金 4.満水試験継手	(1)屋内 汚水管 (及び屋外第一樹まで) ・ 排水用塩ビライニング鋼管 ・ ・ コーティング鋼管 ・ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF－VP) ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF－VP) ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ コーティング鋼管 雑排水管・通気管 ポンプアップ排水管 (2)屋外 樹間 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（ ・ VP ・ VU ） ・ 排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(REP－VU) ・ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管（RS－VU） ・ コンクリート管（ ・ 外圧管1種のB形 ・ ） リサイクルビニル管の通用範囲（RF－VP）：屋内の無圧の排水配管用 （REP－VU）：無圧排水用途の硬質塩化ビニル管 （RS－VU）：埋設部で無圧の一般流体輸送配管用 (1)洗面器及び手洗器に直結する排水管は器具トラップより1サイズアップとする。 (2)給湯室台所流し等の床上部分の配管は、ビニル管（RF－VP）でもよい。 (3)大便器、小便器、洗面器及び掃除流しとの接続管は、ビニル管（RF－VP）とする。 ・ 要（ ・ 本工事 ・ 別途工事） ・ 不要 図示の位置に取り付ける。	
○給湯設備	1.配管材料 2.保 温 3.そ の 他	給湯管（膨張管及び補給水タンクよりボイラー等への補給水管を含む） ・ ステンレス鋼管（SUS304） ・ 鋼管 ・ 耐熱性ライニング鋼管 ・ 被覆鋼管 ・ 保温付き被覆鋼管 ・ 架橋ポリエチレン管 標準仕様書第2編3．1．5によるほか、下記による。 ・ 湯沸器の給排気筒（二重管）の隠ぺい箇所は表2．3．5のh・(イ)・区の保温を行う。 電気式給湯器等の膨張水排水を設ける。	
○消火設備	1.配管材料 2.屋内消火栓種別 3.屋内消火栓開閉弁 4.地中埋設配管の接合 5.保 温	(1)屋内消火栓 一般 ・ ステンレス鋼管（SUS304） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） 地中 ・ ステンレス鋼管（SUS316） ・ (2)連結送水管 一般 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（白）（Sch40） 地中 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（STPG－370VS） (3)連結散水用 ・ ・ 易操作性1号消火栓 ・ 広範囲型2号消火栓 ・ 1号消火栓 ・ 2号消火栓 箱内に別途機器（発信機及び電鈴）取付用の板を設ける。 ・ 1OK ・ 外面被覆鋼管の呼び径100以下はねじ接合とする。 屋外露出部分 ・ 有（標準仕様書第2編3．1．5の給水管の項による。） ・ 無	
○厨房設備	1.機器の寸法 2.機器の機能等	概略寸法とする。 図示による。	
○ガス設備	1.配管材料 2.ガス充てん容器 3.ガスメータ 4.ガス漏れ警報器 5.気密試験	・ 都市ガス 一般ガス導管事業者の供給規定による。 ・ 液化石油ガス 一般配管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） 地中埋設配管 ・ ポリエチレン被覆鋼管 ・ ガス用ポリエチレン管 ・ ・ 借用 ・ 本工事 親メーター（ ・ 貸与品 ・ ） 親メーターの形式（ ・ 直読 ・ バルス式） 子メーター（ ・ 買取り ・ ） 子メーターの形式（ ・ 直読 ・ バルス式） ・ 本工事（図示による） 外部出力端子 ・ 有 ・ 無 ・ 別途工事 都市ガス 一般ガス導管事業者の供給規定による。 液化石油ガス 保持時間は、24分以上とし記録計による測定表を提出する。	
○槽浄化設備	1.形 式 2.測 定 表	・ ユニット形 ・ 現場施工形 一定期間経過後、放流水質性能等を記入した測定表を提出する。	

機 材 等 名
鋼製ボイラー 鋼製簡易ボイラー 鋼製小型ボイラー 鋳鉄製ボイラー 真空式温水発生機（鋼製・鋳鉄製） 無圧式温水発生機（鋼製・鋳鉄製） チリングユニット及び空気熱源ヒートポンプユニット 遠心冷凍機 吸収冷凍水機 吸収冷凍水機ユニット 冷却塔 ユニット形空気調和機 コンパクト形空気調和機 ファンコイルユニット カセット形ファンコイルユニット パッケージ形空気調和機 マルチパッケージ形空気調和機 ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機 エアフィルター（パネル形、折込み形） 自動巻取形エアフィルター 電気集じん器 全熱交換器（回転形、静止形） 遠心送風機（多翼形送風機） 斜流送風機 軸流送風機 消音ボックス付送風機 空調用密閉形隔壁式膨張タンク 風量ユニット（定風量、変風量） 自動制御システム 衛生器具ユニット 横形遠心ポンプ 立形遠心ポンプ 水中モーターポンプ（汚水用、雑排水用、汚物用） FRP製パネルタンク ステンレス鋼板製パネルタンク（溶接組立形） ステンレス鋼板製パネルタンク（ボルト組立形） 給湯用密閉形隔壁式膨張タンク スプリンクラー消火システム 泡消火システム 不活性ガス消火システム ハロゲン化物消火システム 厨房システム マンホールふた・弁樹ふた

特記事項	
項	





一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号

株式会社 前野建築設計

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早妃	設計担当	設計担当
-------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	------	------

法適合確認

作図 
検図 

工事名称 令和7・8年度 安乘人形芝居舞台改修工事	設計日 R07/02/19
図面名称 機械設備工事 特記仕様書 2	図面番号 M002

縮 尺
A2: NS
A3: NS

